

だ。だが中國革命の目的は外國のそれと異つて居る。従つて方法も自然亦違ふ譯だ。それならば結局中國革命の目的は如何。率直に之を言へば、歐洲の革命とは目的が相反して居るのだ。つまり歐洲は従前殆ど自由といふものがなかつたからして、革命に依り自由を争はねばならなかつたのであるが、我等は之と反對に、自由が餘りに多過ぎるがために、團體がなく抵抗力がなくそして一片の散沙を形成して居る。そして一片の散沙であるが故に、外國の帝國主義の侵略を受け、列強の經濟商戰の壓迫を受けて、現在の我等は之に抵抗することが出来なくなつた。だから若し將來外國の壓迫に抵抗することが出来るやうにと思ふならば、即ち各人の有り餘る自由を打破して、例へば「セメント」を散沙に加へて一つの堅固な石を造るやうに、我等も亦極めて鞏固なる團體を結成しなければならぬのだ。現在中國人は餘り自由すぎるがため、自由病と言つたやうなものに罹つて居る。之は單に學校に通つて居る學生許りではなく、我等革命黨の中にも亦この病氣がある。斯うした病氣があるがために、従前滿清を推倒はしたものの、今日に至る迄民國を建設する方法がないのである。即ちこれ自由の使ひ所を履き違へた爲でなくてはならない。我等革命黨が従前袁世凱に打敗られた原因も亦之に他ならぬ。民國二年袁世凱は國會の協賛を経ずして大外債を興し、又宋教仁を殺し、その他種々惡事を働いて民國を破壊した。當時余は各省に直に袁

を討たんことを催促したが、何分黨内部に於ては何れも自由を説いて團體がなく、例へば、西南各省の如きは師長旅長より下は一兵卒に至る迄各々各自の自由を説かざるものなしと言つた有様であつたので、迎も互に團結など出来そうにもなかつた。そして又大にしては各省は各省で、それ／＼各省の自由があると云つた状態で、彼此聯合することが出来なかつた。當時南方各省は革命の餘威に乘じ轟々烈々と表面仲々威勢のよかつたものであるが、その實内部は前述の如く全く四分五裂し、號令を統一することが出来なかつたのである。然るに袁世凱は舊日の北洋六鎮の系統を持つて居り、その六鎮内の師長旅長及び一切の兵卒に至る迄よく之に服従して號令も一致してゐた。簡言すれば袁世凱は非常に堅固なる團體を持つて居るに反し我等革命黨は一片の散沙であつたと云ふことになる。故に袁世凱は革命黨を打敗つたのである。之に依ても外國で適當なもの、必ずしも中國で適當であるとは限らず、外國の革命方法が自由にあつたからとて、中國革命は自由を争ふものであると言ふことは出来ないと言ふ道理が判からうと言ふものだ。若しこの上自由を争ふとでも言はふものなら、更に一片の散沙振りを發揮することとなり、迎も大團體を造ることは出来ず、従つて我等革命の目的は永遠に成功することは出来ないであらう。

外國の革命は自由を争ふに起り、奮闘すること二三十年、大風潮を生じ纔に自由を獲得し初め

て民権を發生したのである。従前佛蘭西革命の口號には、自由平等博愛が用ひられ、我等の革命の口號には、民族民権民生が用ひられて居るが、究竟するに、我等三民主義の口號と自由平等博愛の口號とは、何んな關係があるものか。余の所説に照せば、我等の民族主義は彼等の自由と同様である。何故ならば、民族主義の實行は即ち國家の爲めに自由を争ふことであるからだ。尤も當時歐洲では個人の爲めに自由を争つたのではあるが今日に至つては當時とは自由の用法が同一ではない。然らば今日自由なるこの名詞は、果して何のやうに應用せられて居るのであるか。若し之を個人に用ふるならば、一片の散沙となる許りであらうから決して再び之を個人の上に用ひてはならない。國家の上に用ひなければならぬ。個人が餘り自由過ぎてはいけない。國家が完全なる自由を得なければならぬ。國家行動が自由になつてこそ、中國は強盛なる國家となる事が出来るであらう。斯くの如くせんには、人民はその自由を犠牲にしなければならぬ。學生たるものはよくその自由を犠牲にしなければならぬ。それでこそ日日の勉強にいそむことが出来るのである。即ち學問に對しては勉強を専らにして學問を成就し、知識を發達せしめ能力を豊富ならしめてこそ始めて國家の爲めに事をなすことも出来るのである。軍人たるものもよく自由を犠牲にすることに依つて、命令に服従し忠心國に報ゆる事が出来、國家をして自由あらしむることが出

來るのである。若し學生軍人にして自由のみを説かんとするならば、自由の相待名詞である中國の放任放蕩と言つた状態となり、學校に校規なく、軍隊に軍紀がなくなつて了ふであらう。學校に於ては校規を説かず、軍隊内に於て軍紀を説かなかつたならば、何うして學校と云ひ軍隊と稱することが出来ようぞ。

我等は何が故に國家の自由を求めんとするか。それは中國が列強の壓迫を受け、國家的地位は失はれ、番に半殖民地たるのみならず、既に次殖民地となり、緬甸安南などにも及ばなくなり、その上緬甸安南などはただ一國の殖民地で一主人の奴隸に過ぎないのに、中國は各國の殖民地であり、そして各國の奴隸と云へば、中國は現に十數個の主人の奴隸であるが爲に、現に國家は非常な不自由な位置に置かれてあるからだ。我等にして國家の自由を恢復せんとせば、自由を集合して一個極めて堅固なる團體を造らねばならぬ。革命的方法を以て國家を一つの堅固なる大團體と成さんとするには、革命主義に非ずんば成功しない。我等の革命主義は即ち砂を固むる「セメント」である。四億人が革命主義の下に集合し一個の大團體を造ることが出来たならば、この一個の團體は自由たり得、中國の國家は當然自由であり、中國民族は始めて眞に自由となることが出来るであらう。我等の三民主義の口號と佛蘭西革命の口號とを比較すれば、佛國の自由は

我等の民族主義に相當する。何んとなれば民族主義は國家の自由を提唱するからである。平等は我等の民權主義に相當する。何んとなれば民權主義は人民の政治的地位は平等である君權を打破して人々皆平等たらしめねばならぬと提唱するからである。之れ民權主義は平等と相對峙すると説く所以だ。この外博愛の口號がある。この名詞の原文は兄弟の意味であつて、中國の同胞と言ふ字と同様に解釋せられ普通は博愛と譯されて居る。之に含まるる道理は、我等の民生主義と相通するものがある。何故ならば我等の民生主義は四億人の幸福を謀るにあり、四億人の爲めに幸福を圖ることは、とりもなほさず博愛であるからだ。この間の道理は民生主義の講義に當り、改めて詳細に解釋するであらう。

第三講 民權と平等

民權の二字は、我等革命黨の第二の口號であつて、佛蘭西革命の口號平等と相對してゐる、何故ならば、平等は佛蘭西革命の第二の口號であるからだ。故に本日は専ら平等を主題として研究したいと思ふ。平等のこの名詞は、普通自由なる名詞と並べ論ぜられて居る。従前歐洲各國の革命には、その人民は平等を争ひ自由を争ふにも、すべて一様に努力し一様の犠牲を敢てした。従

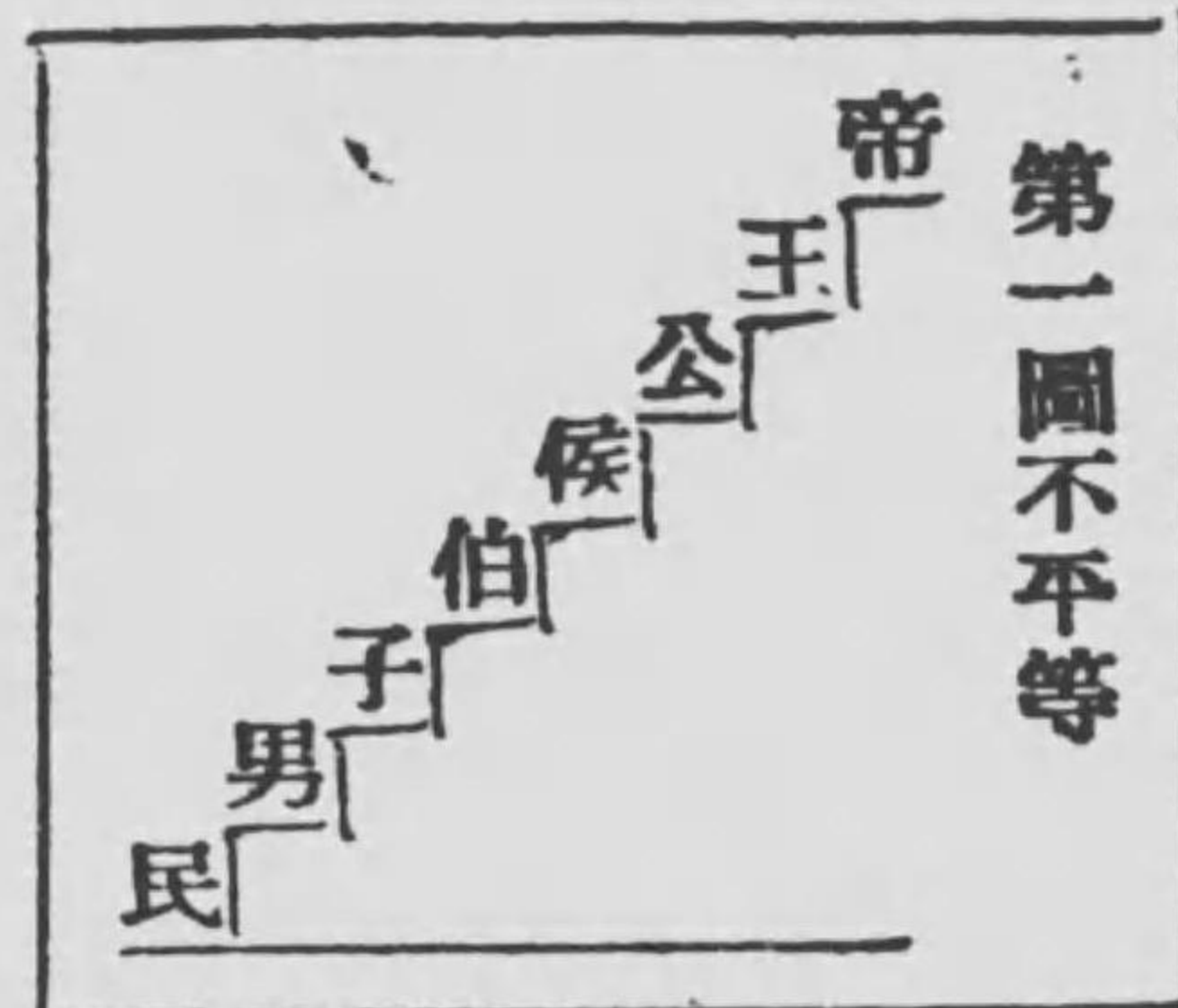
つて彼等は平等と自由とを一様に重大視してゐる。更に多くの人々は自由を獲得しさえすれば必ず平等たり得ると考へて居たものである。そして若し平等に到り得なかつたならば、自由を實現する由もない。平等と自由とを比較すれば、平等の方が一層重大視せられなければならないと考へてゐたものである。然らば何をか平等と言ふか。平等は何れより來るものか。歐米の革命學說に依れば、すべて平等は人類の天賦であると説く。例へば、米國革命のときの獨立宣言、佛蘭西革命の人權宣言の如き何れも特筆大書して平等と自由とは天が人類に賦へた特權であつて、人類の侵奪することの出來ないものであることを強調して居る。

天の人を生むや果して平等の特權を賦與したものであるか何うか。諸君は先づこの問題を明瞭に研究して置かねばならぬ。第一講に於ては民權の來渡に遡つて、人類の初生幾百萬年以前より近來の民權の萌芽時代に至る迄推究したが、天が平等を賜與した道理を發見するに至らなかつた。例へば天生の萬物に就いて見るに、水面以外は一物として平かなるものはなく、平地と云はるるところでも、亦一ヶ所として眞に平かなるものとはないのである。恰度粵漢鐵路に乗つた場合、黃沙、銀盞拗間の一段は、元來平野に屬するものの、汽車の窓から仔細に沿道の高低狀況を考察するに、人工を以て修築し纔に平路たらしめたものでないものは一里もない。所謂天生の平原で

さへも、その平かならざること如斯しである。尙ほ手近かなものに就いて云へば、机上の花瓶に挿さされてある花に就いて見るに、今余の手にする一枝の花は槐花であるが、之をざつと見たときは何の葉も何の花も同じやうに思はれるが、之を仔細に考察し或は顕微鏡にでもかけて見たならば、一つとして全然同じの葉も花もないであらう。即ち一株の槐樹の幾千萬片の葉も亦一つとして完全に同じきものはないのである。之を推し廣めて空間と時間との關係に就いて見るも、此處の槐葉と彼處の槐葉とは更に同じものはなく、今年生えたところの槐葉と去年の槐葉とはそれはどれ異つてゐる。之に由つても、天地間に生ずるものは、總て同じきものがないことが分からう。既に同じきものなしとすれば、自然平等と言ふことは出来なくなる、自然界にさへ平等なしとせば、人類に亦何うして平等などのあらう筈があらうか。

天人類を生むや本來又平等ではなかつたのである。そして人類の専制發達後は、専制なる帝王は元來の不平等を更に激しからしめ、その結果天生のそれに比して一段と平等となつた。この種帝王に依つて造成せられた不平等は、人爲的不平等である。人爲的不平等とは果して如何なる状態を指して云ふのか。今講壇の黒板に圖を書いて表はして見やう。諸君よく第一圖を見るがよい。之で明白にすることが出来るであらう。この人爲的不平等あるが爲に、特殊階級の人暴虐

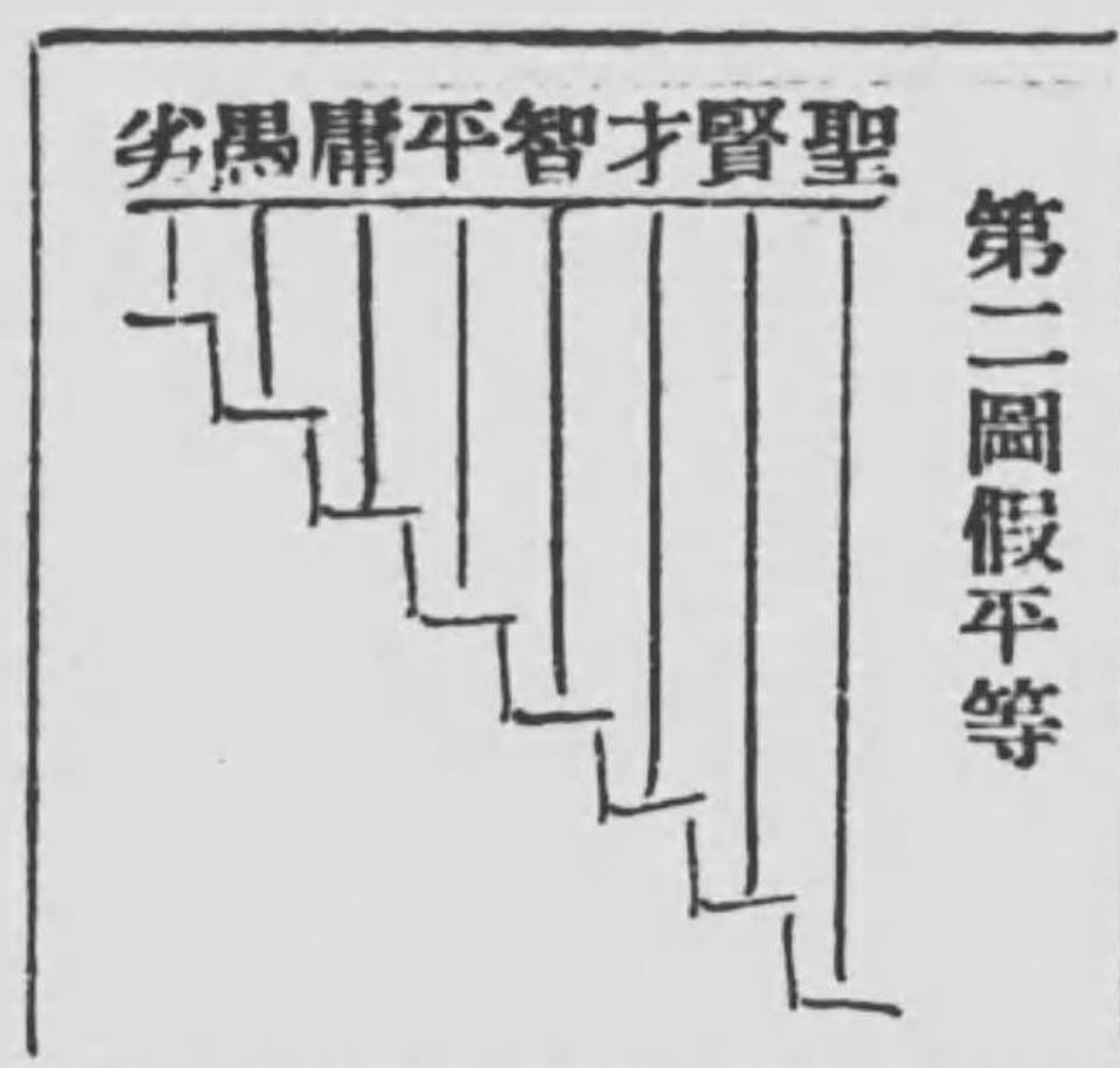
無道を極め、人民は之に壓迫せられ自ら容るるの地もなかつたのである。故に革命風潮が發生し不平等と戦つたのである。革命當初の目的は、本來人爲的不平等を打破するにあつた。だから平等



になつた以上事了れりと云ふべき筈であつた。ところが帝王の地位にあるものが、常々天意を假造して彼等の保障となし、彼等の處るところの特殊地位は天の授與するところ、人民が彼等に反對することは天に逆ふものに他ならないと説いたものだ。無智なる民衆は此の話合理的であるか何うか碌に研究もせず、ただたゞ盲從附和して君主のために權利を争ひ有識の人民が平等自由を説くのに反對したのでもあつた。斯様な有様であつたから、革命に賛

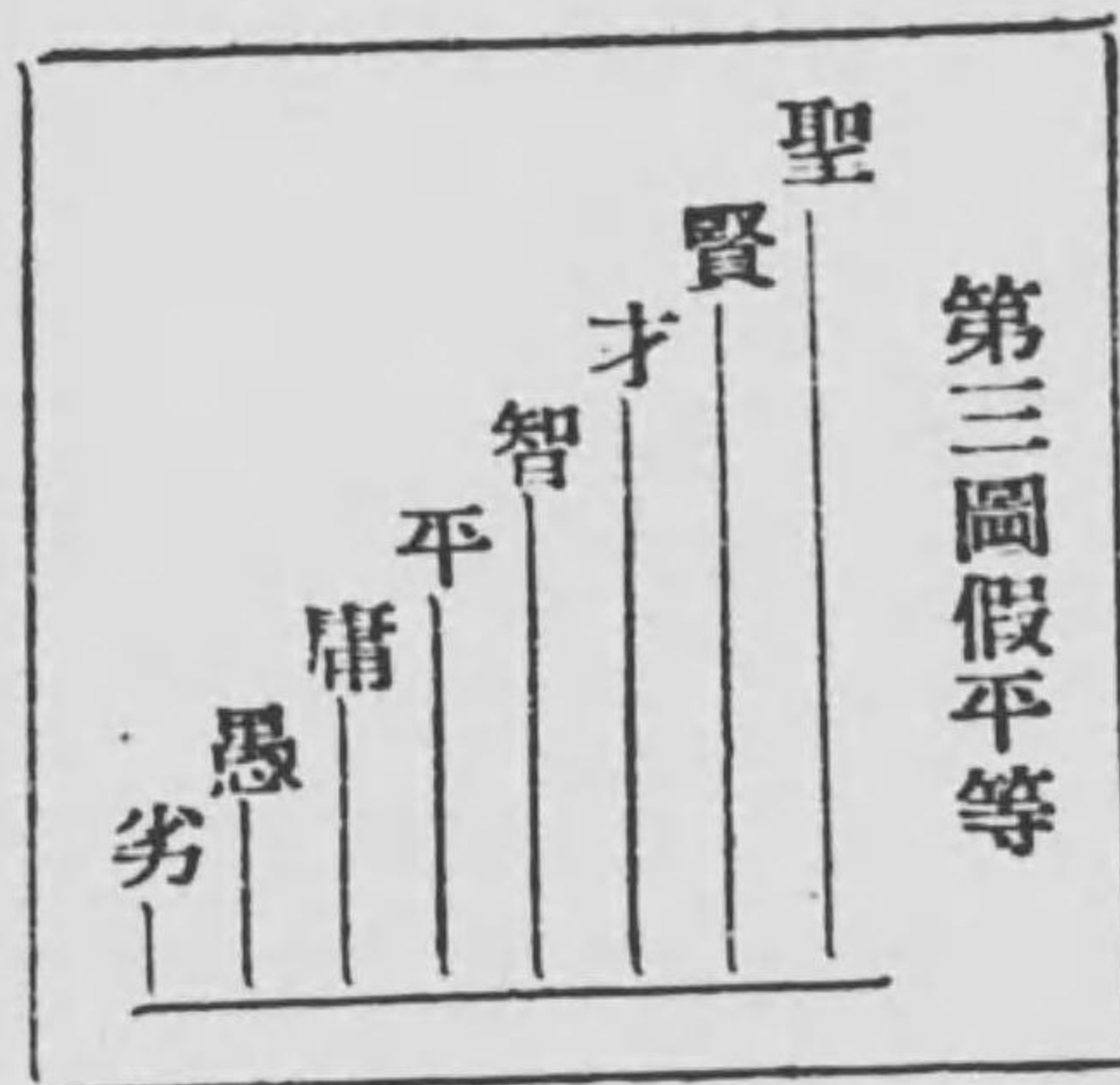
成する學者としては、天賦の人權が平等自由であると言ふ説を創造して、以て君主専制を打破せざるを得なかつたのである。學者がこの説を創造したのは、元來人爲的不平等を打破せんとするにあつたが、天下の事は確に行ふは易く知るは難しである。當時歐洲の民衆は、帝王の天生にして天賦の特權を受けてゐるものなるを信じ、多數の無智なる民衆は擧つて彼等を推戴したものであるから、少數の有識の學者達が如何に適切なる方法と力とを以てすればとて仲々彼等を推倒する譯には行かなかつたのである。

その後人々は天の人類を生むやすべて平等自由であり、平等自由を争ふことは當然のことであると信ずるやうになつた。そして以後歐洲の帝王は、推倒されずとも一つ一つと自ら倒れて行つた。専制なる帝王が倒れてから、民衆は又深く人々は天生平等なりとの一説を信じ、日々工夫を凝し、何とかして平等に到達せんと努力した。彼等は平等にすると云ふことが到底不可能であることには、頓と氣が付かず、只管平等に到達せんものと努力したのである。近來科學の發達するに伴ひ、人類は大いに覺るところあり、纔に天賦平等説の道理なきことを知つた。假りに若し、民衆の相信して居た天賦平等説を以て押通して行つたならば、或は眞理が顧みられずして無理矢



理にもその目的を達することが出来るかも知れない。だが之はやはり一種の假平等であつて、即ち第三圖と同様、必らず地位高きものを無理に下に押しつけ頭だけ揃えて平等にしたもので、その各者の立脚點はやはり彎曲を描き結局平等であることは出来ないのである。この種平等は眞の平等ではなく假平等である。社會的地位の平等と言ふのは、最初の起點即ち生れたときの地位が平等であると言ふことだ。そしてその後各人の天賦の聰明才力に根據して自分と言ふものを造り上げる譯であるが、各人の聰明才力には天賦の不同がある

から自然造就せられた結果も異なり、造就せられたものが異つて居れば自然平等などの有りやう筈がない。斯様に説いて來てこそ眞正の平等なる道理と言ふものだ。若し果して各人天賦の聰明才力にお構ひなしで、即ち以後造就せられた高い地位迄も下に押し付けて一律に平等にせねばならぬと言ふのであれば、世界には進歩なく、人類も退化しなければならなくなるであらう。故に我等が民権平等を説き、又世界の進歩あらしめんがためには、人民の政治上の地位をして平等な



らしめねばならぬ。平等は人爲的であつて天生ではない。そして人の造つた平等なるものはたゞ政治上の地位の平等であるのみだ。故に革命後は各人の政治上の立脚點は必ずすべて平等であらねばならぬ。恰も第三圖の底線の如く一律に平等でなければならぬ。斯くてこそ眞の平等であり、斯くてこそ自然の眞理に適ふ。

歐洲従前の革命には人民は、平等自由のために非常なる努力を敢てし、多大の犠牲を費した。我等が今、彼等が何が故にかくも努力しかくも多大の犠牲を費さねばならなかつたか、その理由を知らんがためには先づ歐洲が革命前に於て何んな不平等な状態に置かれてあつたかを知らねばならぬ。即ち第一圖は歐洲命革前に於ける政治上の不平等の事實を表示せる

ものにして、圖中示すところの帝、王、公、侯、伯、子、男等の一級一級の階梯は、即ち従前歐洲に於ける政治地位上の階級である。この種階級は以前の中國にも亦存在して居たもので、十三年前革命が起り専制を打倒して、始めてこの種不平等な階級を剷除したものである。けれども中國従前の不平等は、従前の歐洲のそのやうに、そんなに激しくはなかつた。歐洲は二三百年以前はまだ封建時代で中國の二千年以前と恰度同じであつた。中國の政治的進化は歐洲よりも遙かに早かつたがため、二千餘年前既に封建制度を打破して居たのである。歐洲は今日尙ほ完全に封建制度を打破することが出来ないでゐる。二三百年前やつと不平等の缺點に氣が付いて始めて平等思想が発生した。中國は二千餘年前この種思想があつた。故に中國の政治的進歩は歐洲よりも早かつた譯だ。けれどもここ二三百年來歐洲の政治的進歩は、常に中國が及びもつかぬのみか、遙かに中國を超越した。所謂「後の雁が先きになる」であらう。

歐洲に於ける革命前の状態を中國に比較すれば、歐洲の専制は中國よりも遙かに激烈であつた。その原因は何處にあるのであらうか。即ち世襲制度にある。當時歐洲の帝、王、公、侯等の貴族は代々すべて世襲貴族であつて他の職業に携はらず、人民亦代々すべて一つの職業を世襲し、他の職業に従事することが出来なかつたものである。例へば田を耕すものは、その子子孫孫は農夫

とならねばならず、工を爲すものは、その子子孫孫亦苦工とならねばならぬと言つた有様で、子孫は絶対に父祖の職業を變へることが出来なかつた。この職業を變へることが出来ないのが、即ち當時歐洲の不自由であつた。中國は古代封建制度の破壊後、この種の制限も亦完全に打破せられた。斯様に、従前の中國と外國とは何れも階級制度存在し不平等ではあつたが、たゞ中國のいゝところは、皇帝のみは、人から打倒せらるれば勿論世襲は出来ないが、然らざる限り一般に代々世襲であり改朝姓を換ふるのときに至つて始めて皇帝を換へると言ふ例外があつた外、皇帝以下の公、侯、伯、子、男は、中國の古時に於てはすべて換へることが出来たもので、平民から宰相となり王侯に封ぜられたもの極めて多く之等な代々世襲でなかつた點である。勿論歐洲の平民の間にも或は宰相となり王侯に封ぜられたものなきにしもあらずだが、その大多數は皆世襲であつて、人民の職業は自由であり得なかつたものだ。職業の選擇が不自由であつたが爲め平等は夫はれ、單に政治的階級の不平等のみではなく、即ち人民の間の階級も亦不平等であつたのだ。斯うした譯で、人民は、一つには公、侯、伯、子、男の地位になることも困難であり、二つには亦自己の職業を自由に改變し更に上進を求むることも出来ないで、非常な苦痛を感じとても辛棒し切れなくなつた。だから生命を抛つても自由を争ひ、職業上の不自由なる束縛を解除し、以て

上進を求め、生命を賭しても平等を争ひ階級専制の不平等を打破せざるを得なかつたのである。この種戦争や奮闘は、從來中國には曾てなかつたところのもので、中國人は假令不平等な制度を受けたことがあつても、一身一家を犠牲にして迄も平等の代價にするやうなことはなかつた。歐洲人民二三百年以前の革命は、すべて自由平等の二つに集中せられて居たが、中國人には從來自由平等を争ふとは何んなことか判からなかつた。その原因は、即ち中國の専制は歐洲のそれと比較して、實際左程激しくはなかつたからだ。且つ中國古時の政治は専制ではあり、二千餘年來進歩こそしなかつたものの、以前改良せられたものも非常に多く、専制の淫威も亦大分減除られて居たため、人民は十分に苦痛を覺えず、苦痛を覺えなかつたからこそ、自由平等のために奮闘すると云ふやうなことはなかつたのである。

近來歐洲文化東漸し、彼等の政治、經濟、科學等何れも中國に傳來したが、中國人はその歐洲の政治學理を聽いても、多くはその儘受け賣りするだけのことで、之を改良するなど云ふことは全然知らない。従つて歐洲の二三百年前の革命が自由を争つたと云へば、亦中國人も自由を争はねばならぬと云ひ、又歐洲が従前平等を争つたと云へば、中國人も亦その通りに平等を争はねばならぬと考へる。併し乍ら、中國今日の病弊は不自由不平等と言ふ點にあるのではない。假り

に専ら自由平等のみを以て民氣を提唱したならば、それは餘りに事實から遠去かつたものであり、又人民に膚を切るが如き痛切な苦痛がなければ、彼等はそれを感覺もしないであらう。そして感覺がなければ必ず附加しても來ないだらう。歐洲では、二三百年前、人民の受くるところの不自由不平等の苦痛なるものは、眞に水深火熱とでも云ふやうな激しいものがあり、自由平等を争ふに非ずんば、如何なる問題もすべて解決し得ないものと考へられたがため、生命を賭して迄自由を争ひ平等のために戦つたのである。この種の風潮があつたが爲にここ二三百年、第一に英國革命、第二に米國革命、第三に佛蘭西革命と順次革命が発生したのである。米國革命及び佛蘭西革命は何れも成功したが、英國革命はどちらかと云へば、まあ不成功であつたと言はなければならぬ。従つてその國體は今尙ほ改變されて居ないのである。英國革命の時期は、恰度中國の明末清初に當り、當時英國人民は皇位を推倒し皇帝を殺したが、十年足らずの間に又復辟が発生し、その後引續き今日に至り、彼等の國體は依然舊の如く君主國にして貴族階級も亦依然存在してゐる。英國の羈絆を脱離した米國は、獨立後従前の政治的階級も完全に打破して共和制度を創立した。その後佛蘭西革命も亦米國同様、従前の階級制度を根本的に破壊して了つた。延いて今から六年前に至り、又露國革命發生し、彼等も亦階級制度を打破して共和國を樹立した。米國、

佛國、露國は共に之れ世界最強盛の國家であるが、彼等の強盛たり得た來歴を尋ねれば、何れも革命に成功したがために他ならない。この三個の革命に依つて成功した國家を比較すれば、(以下三行削除)

我等は再び米國に就いて語らねばならぬ。米國革命のとき人民の目指す目標は獨立にあつた。彼等は何が爲に獨立せんとしたか。當時彼等の十三州は悉く英國の領土にして英國の管理に歸して居た。當時の英國は一個の專制國家であつたが、米國人に對しては本國人民に對するよりも更に激しく壓迫したものである。そこで米國人民は、彼等が自分等と英國人民とを同じく一英國政府の管理の下に置き乍らも、本國人に對しては極めて寛大に、それに引かへ米國人民に對する待遇は非常に刻薄なるを見て、餘りに不平等過ぎるのを痛感した。故に英國から脱離して自己の手で自らを管理し一個の獨立國たらしめんとしたのである。彼等は獨立せんが爲に英國に反抗し、英國と八年に互つて戦つたのだ。その後獨立に成功するや、政府は米國に居住する凡ゆる白色人種に對し一律に平等に待遇した。然し乍ら有色人種に對しては非常な差別的待遇をしたもので、當

時米國に居住して居た「アフリカ」黑人を奴隷扱した如きはその一例である。故に米國獨立後白人の政治的地位は平等となつたが、黒人と白人と比較して平等ではなかつたのである。この種事實は米國の憲法及び獨立宣言と符合しない。何故ならば、獨立宣言はその劈頭に於て、人々は生れながらにして平等である。天賦の侵かすべからざる權利がある、この權利は自由を生命とし幸福を求むるにあると言ふて居る。そして又、その憲法を制定するに當つても亦この道理に基いたものである。米國の人類の平等を尊重する憲法は既に成立してゐたが、依然黒人を奴隷とする風は熄まなかつた。故に米國の平等自由を主張する學者はこの事實を視て、立國の精神と甚しく矛盾するものとなし、即ち平等自由の共和國內に於てさへも尙ほ多數の人類を奴隷としなければならぬのかと反對したるものである。當時米國の黒人待遇振りは、果して何んな状態であつたか。従前米國人の黒人に對する待遇は刻薄を極めたもので、全く牛馬同然であつた、彼等を奴隷として激しい勞働に従事せしめ毎日過度の仕事させる許りか、辛苦を重ねた結果、漸くその仕事が付いても、一文の勞銀を支拂ふでもなく、ただ飯を食べさせるだけであつた。斯様な残酷な情態を見た全國人民は之では、餘りにも不公道である、不平等も甚しい開國の憲法の趣旨と全然相容れないものであると覺り、そこで一般に人道主義は提唱せられ、この種不平等なる制度を打破せん

とするに至つた。その後この主張は、各地各人の間に傳へられ廣まつて、賛成者も非常に増加した。ここに於て多數の熱心な人々は、黒人の受けつつあつた苦痛を調査して、多數の記録を作つたものである。就中最も著名なものに「黒奴顛天録」(The Uncle Tom's Cabin)と言ふのがあつた。この本は黒人の受けて居る苦痛の種々な事實を基礎として興味本位に作られた小説であるが、この小説の出版後は、一般に愛讀せられ、人々は黒人苦痛の真相を知り、黒奴に代つて不平を抱くやうになつた。當時北部諸州は黒奴を使用して居なかつたが爲黒奴の解放を主張し、南部諸州には幾多の大農場があり、日頃から専ら黒奴の手に依つて耕種せられて居たため、若し黒奴を解放することになれば、激しい勞働に従事するものがなくなり耕種も出来なくなると言つた譯で、南方の人々は、さうした利己的な立場から奴隷の解放に反對した。そして言ふ、黒奴制度は我々だけから起つたものではないと。従前米國人が「アフリカ」の黒人を連れて來て奴隷としたのは、恰度數十年前歐洲人が中國人を米大陸及び南洋に運んで猪狩としたのと同様で、黒奴は當時「アフリカ」の猪狩であつたのだ。南方各州は奴隷解放に反對して云ふ、黒奴は我等の資本である、若し之を何うしても解放せねばならぬと言ふなれば、自分等としては必ず資本を回收しなくてはならぬと。當時黒奴一人の値段はざつと五六千元見當で、南部諸州幾百萬に達する黒奴の總額は幾

百億に上り、當時の國家には、到底斯様な莫大な金を黒奴の所有主に對し償還する力もなかつたので、黒奴解放の風潮は随分以前から發生して居たものの、醜釀又醜釀、漸く六十年前に至つて始めて爆發して南北戦争となつたのである。

この戦争は非常に激烈を極め双方の死者幾十萬人、五年間に互つて行はれ世界最大戦争の一つに數へられてゐる。この戦争は黒奴に代つて不平等を打ち、人類に代つて不平等と戦つたのであるから、平等を争つた戦争と云ふことが出来る。従前歐洲に於ては平等を争つた問題はすべて自ら覺醒し自己の利害のために戦つたものであつた。米國の南北戦争は黒奴のためにその平等を争つたもので、黒人自身には、争はねばならぬ理由が判かつて居た譯ではない。彼等は永年奴隷生活をして來て別に智識と言つてはなく、ただ主人から飯を貰つて食ひ、衣服を貰つて着、家を貰つて住みさへすれば、それで心から満足して居たものである。當時主人の間には非常に寛厚なものもあつたが、黒奴はただ、若しい主人であればひどい虐待を受けなくても濟む位に考へてゐて、決して主人に反抗して解放を要求し、自ら主人にならうなどと云ふ者は毛頭なかつたものだ。故に南北戦争で平等を争つたところの人は白人で、白人が黒人に替つて争つたのであり、自己の團體以外のものが争つたのであつて、黒奴自身の覺醒に基いて居たものではなかつた。

戦争の結果は、南方敗れ北方の勝利に歸した。そこで聯邦政府は直に全國の奴隸を解放すべく命令を發し、戰敗の南部諸州は其の命令に服従するの外なく、爾後黒奴を一向世話せぬことになつた。そして解放の日から黒奴に飯もやらなければ衣服もやらす家も給與しなくなつた。爾後黒人は、白人には解放せられるし自由も出來たし、米國の共和國民となつて政治上に平等自由を得て、非常に希望に満ち満ちてはゐたものの、これ迄は、主人に代つて勞働したため、飯も衣服も家も自由に支給せられてゐたのに、解放後は主人に代つて勞働しないため、食ふべき飯なく着るべき衣服なく住むべき家もないと云つた有様となつたから、一時は五里霧中で、黒奴は恰も泰山の支へを失つたもののやうに非常に失望し、痛く苦痛を感じたものであつた。之がため奴隸解放した各州、殊に北方の奴隸解放を主張した。大統領を怨むやうになつたその奴隸解放を主張した大統領とは誰人であるか。誰しも知つてゐるやうに、米國には最も著名な二大統領がある。一人は建國の大統領で「ワシントン」その人である。現に世界の人は、建國の元勳と云へば、常に「ワシントン」に指を屈する程である。何故なれば彼は人類の平等闘争史上に非常な功勞があるからだ。今一人の大統領こそ、即ち當時の奴隸解放に最も力を盡した「リンカーン」その人である。彼は黒奴を解放して人類のために平等を求め絶大の功勞を樹てた。故に世界の人は今に至る迄彼

の徳を稱頌へて已まない。然し乍ら、當時解放せられた黒奴は一時衣食住なき痛苦を味つたため非常に彼を恨んだもので、今尙ほ一つの歌謡があつて、彼「リンカーン」を罵つて居る。歌謡に言ふ、彼は洪水猛獸であると。それは「リンカーン」の心理を歌つたもので、恰も今中國に於て革命反對のものが革命黨を罵しると同様だ。勿論現在では有識の黒人の間には、解放の有難さをよく知つて居て自然「リンカーン」の徳を稱頌へては居るが、無智な黒人は、彼等の祖先同様、今尙ほ「リンカーン」を恨んで居る。それはさてをき、實に黒奴の解放こそは、米國史上に特筆せらるべき平等を争つた事業であらねばならぬ。

故に米國の最も光輝ある歴史と言へば、第一は英國の不平等待遇を受けて人民が獨立戦争を起し八年に亘つて戦ひ纔に英國を脱離して平等を獲得し一個の獨立國家たらしめた時期であり、第二は六十年前發生した南北戦争である。この戦争の理由とするところは、第一次の獨立戦争同様で、五年に亘つて戦つた。五年と八年であるから、時間の點では第一次の戦争と大した差はなく寧ろ短い位であるが、其の損失に至つては、前の八年間の戦争に比して、更に大なる犠牲と更に多くの血を流したものであつた。簡言すれば、米國第一次の大戦争では米國人民が自己の獨立を要求し自己のために平等を争つたものであり、第二次の大戦争は米國人が黒奴のために自由を

求め黒奴のために平和を争つたものである。自己のために平等を争つたのではなくして他人のために平等を争つたのである。そして他人のために平等を争つて自己のために平等を争つたときよりも更に大なる犠牲と更に多くの流血を敢てしたのである。故に米國の歴史は一種の平等を争つた歴史であり、この種平等を争ふ歴史は、世界歴史に於ける大なる光榮であらねばならぬ。

米國が平等を獲得して後、佛國にも亦革命が起り平等を争ひ、その間反覆幾次、争ふこと八年の久しきに及んで、漸く大體に於て成功した。けれども平等を争つて成功した後、彼等人民は平等の二字を履き違へ極端に趨り、第二圖に於て説ける平等と同様、如何なる種類のものも總て平等たりとなし、平等の地位を立脚點に置こうとはせず、頭だけ揃へんとした。即ち假平等となつたのである。

中國の革命思潮は歐米に發源する。平等自由の學説も、亦歐米から傳來したものである。ところが中國の革命黨は、平等自由を争はんことを主張せずして、三民主義を争はんことを主張する。三民主義を實行することが出来れば、そこに自由平等はあると主張する。歐米は平等自由のために戦ひ之を争ひ得た後、常に平等自由に引かれて岐路に入つた。我等の三民主義はそれを實行し得た曉、そこに眞の自由平等は存在する。如何なる方法に依つてよく正軌に歸せしめ得べきか。

第二圖の如く頭を平等線上に揃えることは平等の正軌には合つて居ない。第三圖の如く立脚點を平等線上に置いてこそ、平等の正軌に合ふものと言はねばならぬ。故に我等の革命に用ふるところの主義が適當であるか、如何か正軌に合つてゐるか何うかを知らうと思へば、どうしても先づ、歐米の革命の歴史に就き根本に遡つてこれが明瞭なる研究を遂ぐるに非ずんば成功しないであらう。人民たるもの、我等の三民主義が果して的確にいい處があるか何うか、國情に合つてゐるか何うかを徹底的に明かにせんと欲せば、そしてよく我等の三民主義を信仰し始終變らざらんが爲めにも、亦歐米の革命の歴史を根本的に明瞭に研究せねばならぬ。

米國は平等自由の二個の名詞のために、兩次の戦争を経過し第一次は争ふこと八年、第二次は五年にして纔かに其の目的を達した。從來中國は平等自由のために戦争を起したことはなく、幾千年來歴史上の戦争と言へば、悉くこれ皇帝を争はんとし、每次戦争をする人々の思想は、すべて一個の皇帝を争はんとする點に存して居た。ただ此次我等の革命は滿清を推倒し皇帝を争はざるの第一次の戦ひであり得た。けれどもこの種皇帝を争はざるの思想は、ただ眞の革命黨の人才に限られ、革命黨以外のものに至つては、例へば北方の曹錕、吳佩孚の如く、名は共和に賛成して居ても實際に於て武力統一を主張し依然專制の夢に憧がれてゐる。若し果して彼等の武力統一

にして成功したならば、誰も反抗することが出来なくなり、彼等は必ずや皇帝たらんことを考へるであらう。例へば袁世凱の如き、辛亥の年滿清を推倒するときには、彼は嘗て一度たりとも共和に賛成しなかつたことはなかつたではないか。そして彼は又、嘗て何時帝制を主張したことがあつたか。當時全國人民は、再び帝制の發生するやうなことはあるまいと考へてゐたものであつた。ところが民國二年に到り、袁世凱は武力を以て革命黨を敗り、之を海外に放逐し、國體を改變して皇帝となつた。軍閥の思想の腐敗甚しく、往年の袁世凱と同様の此頃である。將來再び此の種危険の發生せずと、誰かよく敢て保證し得るものぞ。故に中國の革命が今に至る迄成功しないのは、即ち皇帝たらんとする思想が未だ完全に剷除せられず、充分に肅清されてゐない故に他ならずと言はねばならぬ。我等にしてこの種皇帝思想を完全に剷除し、悉く肅清せんとするならば、即ち更に奮闘し再び革命せざるを得ないのである。

現在中國の幾多青年志士は、やはり平等自由を争はんことを主張する。歐洲に於ては一二百年以來平等自由を争つて來たものである。がその争得した結果は、實際は民権であつた。何故ならば、民権があつて始めて平等自由が存在し得るからであつて、若し果して民権がなかつたならば、平等自由は一つの空虚なる名詞に過ぎなくなるであらう。民権の思想は遠く二千年の昔、希

臘羅馬にその源を發して居り、近來發生したものでない。當時希臘羅馬は何れも共和國にして、之と時を同じうして又地中海の南方に「カーセーヂ」と呼ぶ大共和國あり、その後相繼いで幾多の小國が興つたが、すべて共和國であつた。當時希臘及び羅馬は、名は共和國であつたが、その實民権が實行されて居らなかつたがために、何等真正の平等自由に到達して居なかつた。希臘に奴隸制度が存在してゐたが如きそれ一例で、當時貴族は何れも多數の奴隸を畜ひ、全國人民の約三分の二は奴隸と言つた状態であつた。「スバルタ」武士の如きは、一人に付五人の奴隸の服侍すべきことを國家に於て規定して居たものである。従つて當時の希臘には、少數の民権を有するものを除き、大多數は民権のないもの許りであり、羅馬も亦之と同様の状態にあつた、であるから二千餘年前の希臘羅馬は、名は共和國であつたが、その實奴隸制度の存在に依り、尙ほ充分に平等自由の目的を達することが出来ず、漸く六十年前になつて、米國が黒奴を解放し奴隸制度を打破し人類の平等を實行して後始めて現在の共和國に、眞の平等自由の希望が漸次生れて來たのである。然し乍ら、眞の自由平等の立脚點は何處にあるか。如何なるものに附屬してゐるか。即ち民権の上に立脚し、民権に附屬すべきものである。民権が發達してこそ、平等自由は長なへに存在し得る。若し果して民権なくんば、如何なる平等自由もすべて之を保守することは出来ないであら

う。従て中國國民黨が革命を發起した目的の平等自由を争ふにあるは勿論であるが、所定の主義及び口號にはやはり民権を用ひなければならぬ。民権を争得してこそ人民の平等自由なるものは事實となつて顯はれ、そこで平等自由の幸福を享くることが出来る譯で、平等自由なるものは實際に於て民権の内に包括せられて居るからだ。平等自由が民権の内に包括せられてゐるが故に、本日は民権問題の研究に附帶して平等自由の問題を研究することとなつたのである。

歐米の革命は平等と自由とを求むるために戦はれ、無数の生命を犠牲にし幾多の碧血を流した。平等自由を争得して後今日に至る迄、この平等自由の名は、如何に貴く仰がれねばならなかつたか。この平等自由の事實は、如何に慎み深く取扱はれねばならなかつたか。決して随意に濫用すべきものではなかつたのである。然るに現在果して何うであるか。自由に就いて言へば、前に述べた如く彼等は自由を争得した後自由の幾多の流弊が生れた、米國革命も佛蘭西革命も、今日迄に一百餘年を経過し平等は争得せられたが、結局自由と同じ途を辿りやはり幾多の流弊を生み出したのではなかつたか。余の見るところでは、やはり同様幾多の流弊を生み出したのである。我等は彼等が既往に於て経験した流弊に鑑み、新しき革命の途を歩み、再び彼等の覆轍を踏んではならない。専ら平等の爲めに奮闘し、民権の爲めに奮闘しなければならぬ。民権が発達し

てこそ真正の平等もある。若し民権が発達しなかつたならば、我等永遠に不平等であらねばならぬ。然らば歐米の平等の流弊とは果して如何なるものであるか。簡言すれば、即ち彼等がこの平等の二字に對し餘りにも無自覺であつたこと之れだ。歐米は平等を争得して後、何が故に流弊を発生したのであらうか。即ち民権が充分に發達して居なかつたがため、自由平等が正しき軌道を歩むことが出来なかつたからだ。自由平等が正軌に復歸しなかつたがために、歐米人民は今尚ほ民権のために奮闘しなければならぬ。奮闘するがために、自然團體を結ばねばならぬ。人民は團體を結ぶことの重要なことを知つたがために、奮闘の結果集會結社の自由を得た。この自由を得た結果幾多の團體は生れた。政治上には政黨が生れ労働者の間には労働黨（組合）が組置せられた。

現在世界に於ける團體の中最大なるものは労働黨であるが、労働黨は革命後人民が自由を争得するに及んで、始めて發生した。その發生の情形は何んなであつたか。最初の頃、労働者には智識なく覺醒もせず自分達が不平等の地位に置かれてゐることも薩張り知らず、又資本家の壓迫が如何に激しいものかも知らなかつた。恰も米國の黒奴が、ただ祖先からの人の奴隷となるものであることを知るのみで、奴隷の地位がいいか悪いか、又奴隷の外に別に自由平等な階級のものがある

ることを頼と知らなかつたと同様に、當時各國の労働者は、元來自己は如何なる地位にあるか知らなかつたものであるが、その後労働者以外の幾多義を好む人士が労働者に代つて不平を抱き、労働者と資本家との不平等なる道理を労働者の間に宣傳し、彼等を喚び醒し、彼等の團體を組織せしめ、貴族及び資本家に對し抵抗せしめんとするに至つた。ここに於てか世界各國の労働黨は始めて發生したのである。労働黨が貴族及び資本家に對抗する場合、彼等は如何なる武器を以てしたか。労働者の抵抗の唯一の武器は、即ち消極的不合作である。不合作の動作は即ち罷工である。この武器は軍人の戦争に用ふる武器よりも更に一段と有力である。若し労働者の國家又は資本家に對する要求が容れられないとき彼等は聯合して一齊に罷工する。この種罷工の影響は全國人民に及び、普通の戦争に比較して劣るところはない。労働者以外の、智識極めて高邁なる義を好むの士が領袖となつて、労働者を指導し、彼等に鞏固なる團體を組織すべきことを教へ、罷工の方法を教ふるが故に、彼等罷工の一度び發動するや、社會的に絶大なる力を發生する。この偉大なる力が出來たために、労働者は始めて自らの存在を意識し、平等を説かんとしたのである。英佛労働者はこの意識に基いて平等を説いたのである。團體の内部を見るに、之を指導する領袖は、何れも本職の労働者ではなく、勿論貴族でもない、即ち學者であつて、皆外部から入つて來た

ものである。従て労働者は團體がその目的を達するときになると、それ等領袖を排斥する。斯うした領袖排斥の風潮は、歐洲に於ては最近數十年來漸次發生したものであるが、抑もかゝる風潮の起つた原因と云へば、即ち労働者が平等の迷路に入り込み、平等の流弊に陥つたからのことである。斯様な流弊が發生した後、労働黨は彼等を引導指揮すべき良領袖を失ひ、のみならず労働者も亦自己を引導すべき智識を持たないために、團體としては非常に大きい團體ではあつたが、一向退歩しない計りか、その大力量を發揮することも出來ず、且つ遂いには之を維持してゆく人もなくなつて了つた。ここに於て労働黨の内部は漸次腐敗し、大團體としての力を失つて行つた。労働者の團體は外國には非常に多いが、中國にも亦最近十餘年來少ならず成立した。中國に於ては革命後、各業労働者が聯合して團體を成立したが、それ等團體の領袖も亦大多數労働者出身ではなかつた。従て之等領袖は、その誰も彼もが労働者の爲めに利益を謀ることが出來ないのは固より當然ではあつたが、中には團體の名義を藉りて労働者を利用し、自己の爲めに私利を圖るものが非常に多かつた。そうは云ふものの、眞に大義の爲めに労働者に代つて力を竭したるものも亦勿論少くはなかつた。斯う云ふやうな状態であつたから、労働者としては、その領袖の善惡を明かにし之を區別する必要は確かにあつた。

現在中國の勞働者達も、平等と言ふ點に就いては、御多分に洩れず、平等の流弊が発生しつつある。一例を擧げて見れば、余は數日前漢口から送つて寄越した勞働新聞を受取つたが、その中に二つの大標題があつて、第一の標題は「我等勞働者は長衣を著るものを領袖とせず」、第二の標題は「我等勞働者はただ「パン」を求むるがために奮闘するものであつて政治を問はない」と云ふのであるが、この標題に依ても彼等の口調が歐米の勞働黨が領袖を排斥するとき用ふると同一であることが分からう。歐米の勞働者は非勞働者出身の領袖を排斥はしても、彼等の目標はやはり政治を問はんとするにあるのであるから、漢口勞働者の第二の標題は歐米の勞働者の口調と全然同一であるとは言へない譯だ。

凡そ一國の内人民一切の幸福は、何事に限らず政治問題に歸する。國家の最大問題は即ち政治であらねばならぬ。若し果して政治にして不良なりとせば、國家の如何なる問題も一つとして解決することは出来ないであらう。例へば中國は現在外國の政治經濟の壓迫を受け一年間に十二億元の損失を蒙りつつあるのであるが、これとりもなほさず、中國の政治が不良にして經濟の發達し得ざるが爲め、毎年かくも大なる損失を受くるものに他ならない。この十二億の中最大のものは輸入超過に依る年五億元の損失であり、この五億元の貨物はすべて勞働者に依て生産せられた

ものであるが、中國の工業の發達せざるが爲めに、己むを得ずこの損失を受けて居るのだ。我等がこの問題について研究するに、中國勞働者の所得勞銀は世界中最も低廉であり、然もその勞働は之と反對に世界中で最も苦しいものであつて、一日の勞働は十數時間に達する。中國の勞銀にして既に斯の如く最も低廉であり、勞働亦最も勤苦するものとせば、外國の工業と競争して勝算あるべきは理の當然であらねばならぬ。然も何が故に中國勞働者の生産する輸出貨物が、外國勞働者の生産にかかる輸入貨物に敵し得ないのであるか。何が故に我等は、この工業關係に於て年々五億元からの損失をしなければならぬのか。即ち中國の政治が不良にして我等政府の無能なることがこの最大原因でなければならぬ。若しも政府にして有能ならば、五億元の損失をしなければ済む筈である。我等がこの五億元の損失を避け得たならば毎年五億元だけの「パン」が餘計に得られるのだ。然らば中國の政府が有能であるとして、如何にして五億元の損失を免れ得るであらうか。即ち若し果して政府が有能であれば、關稅を増加することも出来るであらう。關稅を重加すれば、外國品は自然輸出困難となり、中國の土貨は販路を擴張することが出来るであらう。そして之に依て全國の勞働者は年々五億元からの金を餘計にその懐に入れることが出来るのである。けれども漢口の勞働者から送つて來た新聞の標題のやうに、勞働者が政治に關與しない

と言ふのであれば、既に政治に關與しないと云ふ以上、自然政府に向つて關稅の増加を要求し、之に依て外國品を抵制して土貨の提唱をしないと云ふ譯になり、外國品を抵制し土貨を提唱しなかつたならば、中國の土貨は製造せられず、土貨にして製造せられなかつたならば労働者の働くべき仕事は失くなつて了ふであらう。労働者の仕事迄もなくなつて了つたならば、何處に「パン」を求めやうとするのか。之に依ても労働者に良領袖のない結果は、彼等の言論が事毎に錯誤し、然も斯の如き労働者の團體は斷じて發達すべきものでなく、久しからずして、必ず消滅すべきものと云ふことが想像せられる。實際彼等は非常に無智なるがため、「パン」の問題即ち經濟問題であり、經濟問題と政治問題とは連帶關係に在ると云ふことが判からないのだ。政治に關與せずして果して如何にして經濟的の「パン」の問題を解決し、「パン」を要求せんとするのであるか。漢口労働者のかかる標題は、錯つた平等の生んだ流弊を説きつつあるのだ。故に我等の革命は單に平等を争ふと云ふことは出来ない、民權を争ふと主張しなければならぬのだ。民權にして若し果して完全なる發達を遂ぐる事が出来なかつたならば、假令平等を争得しても、やはりそれは一時的のものに過ぎず、近き將來に消滅せねばならないであらう。我等の革命は民權を主張する。平等を標題として居ない。平等は民權の中に包括されて居るのである。若しも平等がよ

い場合があれば當然之を採用し、悪いときには必ず之を除去しなければならぬ。斯の如くしてこそ、民權を發達せしめ平等を善用することが出来るであらう。

余は曾て一個の道理を發明した。即ち世界の人類をその天賦に依て大約三種に分ち、先知先覺あるもの後知後覺あるもの及不知不覺のものとした。先知先覺あるものは發明家である。後知後覺あるものは宣傳家である。不知不覺なるものは實行家である。この三種の人が相互に作用し協力進行すれば、即ち人類の文明の進歩は、必ず一日千里たり得るであらう。

天の人を生むやその聰明才力は不平等であるが、人心は則ち必ず之を平等ならしめんと欲する。これ道德の最高目的であり、然も人類がまさに努力進行しなければならぬところのものである。然し乍らこの道德の最高目的を達せんがためには、結局如何なる方法に依らなければならぬのか。この點我等は人類の兩種の思想を比較對立せしむることに依て、之を明白にすることが出来ると思ふ。兩種の思想、即ち一は利己であり他は利他である。利己を重んずるものは、常に他を害することは一向お構なしである。斯様な思想の發達した結果は、即ち聰明才力の人専らその才能を利用して他の利益を奪取し漸くにして積んで專制階級となり、政治上の不平等を生み出すこととなる。これ民權革命前の世界である。又利他を重んずるものは、常に自己を犠牲に

し、然も之を楽しんで爲す。この種思想が發達すれば、即ち聰明才力の人は専らその才能を利用して他人の幸福を謀り漸くにして積んで博愛的宗教慈善の事業となる。ただ宗教力も及ばず慈善事業を以てしても救濟出来ない場合は、之が根本的解決のためには、何うしても革命を實行して專制を推翻し、民権を主張して以て人事の不平等を平かにしなくてはならないこととなる。かくて以後、三種の人を調和して之を平等ならしめんとすれば、即ち人々は服務を以て目的とし、奪取を以て目的とせず、聰明才力の愈大なるものは、まさにその能力を盡して千萬人の務に服し、千萬人の幸福を造らねばならぬ。聰明才力の稍小なるものも亦當然その能力を盡し十百人の務に服し、十百人の幸福を造就しなければならぬ。所謂「功者拙之奴」は即ちこの道理を云つたものだ。而して聰明才力の全然なきものに至つても亦當然一己の能力を盡して一人の務に服し、一人の幸福を造らねばならぬ。斯の如くして始めて、天生の聰明才力の不平等は、人の服務道德心の發達に依り、必ず之を平等たらしむることが出来るであらう。これ即ち平等の精義である。

第四講 中國並に歐米に於ける民権發達の經過及び現狀

前數次に互つて説いたところに依て、我等は歐米の人民が民権を争ふこと己に二二百年になる

ことを知つた。彼等は二二百年の間争つて來たが、果して何れ程民権を得たであらうか。即ち本日は、歐米人民が最近二二百年間に如何程の民権を争得したるか、及び彼等の民権は現に何の程度迄進歩してゐるかの二つの題目に就いて語りたと思ふ。民権思想は既に中國に傳染してゐるが、中國人の民権に對する智識なるものは、之を書物及び新聞紙の中から得たものである。ところが民権を主張するその書物及び新聞紙なるものは、元來必ず民権賛成の側に立つもので、自然日頃から、民権を研究してゐるものはすべてこの民権賛成の側に立つ書物及び新聞紙から觀察することとなり、然もその賛成側に立つ書物及び新聞紙たるや、必ず民権風潮の如何に轟々烈々であるか、民権思想の如何に蓬々勃々たるかを説いて居るものであるから、之等書物並に新聞紙を見、彼等の鼓動を受け、民権思想を發生した我等が、歐米人の民権を争ふこと二二百年、その都度最後の勝利を得て來た、從て今後の世界各国の民権は必ずやその極點に迄發達するであらう、我等中國も亦この世界の潮流の中に在つて民権主義を提唱して民権を發達せしめなければならぬと考へることは極めて當然のことである。又之と同時に、一般に中國の民権を提唱して歐米と同程度に迄發達せしむることが出来るならば我等が民権を争ふの目的は既に達せられたものである。民権がその地歩に迄發達し得れば、國家は非常に文明となり非常な進歩をしたものと言はなければならぬ

と考へるも亦極めて當然であらねばならぬ。併し乍ら歐米民権の實狀は、それ等書物及び新聞紙等から觀察した事實とは、非常に相異なる場合が多い。歐米に於ける民権の實狀を考察するに、彼等所謂先進國即ち米國佛國の如きは、革命後一百餘年を経過して居るが、彼等人民は果して何れだけの民権を獲得したであらうか。民権を主張する人々の見解に従へば、彼等の獲得した民権は尙非常に少ないのである。當時歐米の民権を提唱した人々は、すぐにでも民権の充分なる目的に到達し得るものと考へてゐたから、一切を犠牲にし同心協力し一致して生命を抛つて争つたものである。ところが勝利の曉、彼等の争得したところの民権なるものは、革命當初彼等が希望してゐたものとは雲泥の差であつて、尙民権の充分なる目的を達することは出来なかつたのである。

今米國獨立戦争の情形を回顧して見やう。戦争は八年に亙つて行はれ、纔に最後の勝利を得初めて民権の目的に到達した。米國の獨立宣言に言ふ「平等と自由とは人類の天賦である。如何なる人もこの人類の平等自由を奪ひ去ることは出来ない」と。當時米國革命の目的は、本來充分なる自由平等を争はんとするにあつた。ところが八年に亙つて戦ひ争得した民権は、案外尙極めて少ないものであつた。何が故に八年の久しきに亙つて争ひ乍らその得たる民権はかくも鮮少であつたか。その理由は如何に。當初米國の民権に反對したものは英國皇帝である。一方米國人民は

英國皇帝の壓迫を受けたればこそ、獨立を主張し英國と戦つたのである。故にこの戦争は君權と民権との戦争であつた。戦争の結果は、元來民権の勝利に歸したのであるから、當然充分な民権が獲得せられなければならなかつた筈であるが、何うして充分なる目的を達し得なかつたであらうか。それは獨立戦争に勝利を得て君權を打破することはしたものの、民権を主張する人々の間に、民権の實施に關する問題、即ち民権を果して何の程度迄行ふべきかの問題が発生したからである。この問題の研究に當り、民権を主張する同志の間に各その見解を異にするものを生じ、之がため内部が二大派に分裂した。米國革命に開國の元勳として有名な「ワシントン」のあつたことは衆知の事柄であるが、當時彼を輔けて英國の君權に反抗したもののの中には、幾多の英雄豪傑があつたもので、就中「ワシントン」の財政部長たりし「ハミルトン」、國務部長たりし「ゼフアーンソン」の如きはその大なるものである。この二大人物は民権の實施問題に對して各その見解を異にし、各自黨員も極めて多數に上り、遂に分裂して絶對相容れざる二大黨派となつて了つた。「ゼ」氏一派は、民権は人類の天賦である。人民にして果して充分なる民権を有し人民に於て之を自由に使用せしめたならば、その間必ず自ら節度あり、そして民権を使用するときは必ず許多の善事を爲し國家的事業を充分進歩せしむるに足るであらうと信じて居た。「ゼ」氏のこの言論は

人の性善説を主張するものに他ならず。人民に充分なる民権ある場合、假令時あつてその善なる性を充分發達せしめ善事をなし能はず、却て民権を誤用して悪事をなすことがあらうとも、それは人民が障礙を遇つて一時己むを得ざるに出でた舉動であると言ふにあるらしい。之を要するに、人には既に天賦の自由平等の存する以上、人々は當然政權を持たなくてはならぬ。然も且つ人々には聰明がある。若し果して彼等に充分なる政權を與へたならば、そして個々をして國事を管理せしむることが出來たならば、必ずや幾多の大事業を成就するであらう。人々が皆その責任を負ふて立ち國家を治むるならば、國家は長治久安であらうと云ふにある。これ即ち「ゼファーン」一派の民権に對する信仰である。

次に「ハミルトン」一派の主張するところは、恰度「ゼ」氏一派の主張と正反對である。「ハ」氏は、人性は完全にすべて善ではあり得ない、若し果して人々が充分なる民権を持つてゐたならば、性惡のものは政權を濫用し悪事を働くであらう、如斯き惡人が國家の大權を得るに至らんか、彼等は國家の利益を自ら私し自ら利し自己の同黨のものに分配するに至るであらう、そして國家の凡ゆる道徳も法律も正義も秩序も一切顧みられず、その結果一國三公どころではない、暴民政治と化し、即ち自由平等は極端に趨り無政府となつて了ふであらう、斯様に民権を實行する

が如きは、常に國家の進歩を不能ならしむるのみならず、却て國家を搗亂し國家を退歩せしむるに至るであらうと考へて居たのである。従て「ハ」氏は國家の政權は完全に人民に與ふると言ふ譯にはゆかない。政府に與ふべきものである。即ち國家の大權を中央に集中し普通人民にはただ制限的民権があれば充分である。若し果して普通人民の無制限に民権を賦與するならば、人民は皆惡事をなし、而もこの積惡事の國家に及ぼす影響は、皇帝の惡事よりも更に甚しいのであらう。何故ならば、皇帝の惡事をなす場合に於ては尙多數人民が之を監視し之を防止し得る。然るに若し一般人民が無制限的民権を得て皆が惡事を爲すに至らんか、誰も之を監視し防止するものがないからであると主張する。故に「ハミルトン」の説に依れば、従前の君權は勿論制限しなければならぬが、現在の民権も亦當然制限を加ふべきものであると言ふにある。彼はこの主張に基き、一派を創立して聯邦派と稱し、中央集權を主張し地方分權に反對したのである。

米國は獨立戰爭以前十三州より成り、悉く英國の統轄に歸し、自らこれを統一することが出來なかつたものである。その後、英國の專制愈激烈を極はめ忍受せんとするも能はざるに至り、遂に英國に反抗することとなつたが、當時に於ては、一般人民は英國に反抗するといふ共同の目標を持つてゐたため、その英國と戦ふや協心協力し得たのであつた。戰勝後各州は依然

分裂甚しく依然統一することは出来なかつた。革命當時十三州の人口は三百萬に過ぎず、その三百萬の中英國に反抗したものはただの二百萬人で、その他一百萬のものは依然英國皇帝に賛成してゐた。換言すれば當初各州の人民中三分の一は英國の保皇黨であり、残り三分の二が纔に革命黨と言つた次第であつた。そしてこの三分の一の保皇黨が内部で蠢動したがため、米國獨立戦争も完全に戦勝する迄に實に八年の長年月を費したのであつた。戦勝後保皇黨の著名なるものは、身の藏すべきところもなく、北方に逃れ「セントローレンス」河の北部に移住し、「カナダ」大殖民地を建設し、今に至る迄英國の屬領として英國に忠勤を拔んでゐる。

米國は獨立後國內に敵はなくなつたが、三百萬人が十三州に分れ毎州平均二十餘萬人に過ぎず、各々割據して下らず統一することが出来なかつた。従てその國力たるや、依然薄弱極まるもので、將來とても容易に歐洲のために吞滅せられ得べき状態にあり、前途の生存は、眞に危険極まるものであつた。ここに於て各州の先知先覺者は、この種危険を免がれ國家の永遠の生存を圖らんとし、大いに國力の増加に努力したものである。國力を増大せんとしたが故に各州を聯合して一大國家を建設すべきことを主張したのである。當時提唱せられた聯合の辦法には、専ら民権を行はんとするもの及び専ら國権を行はんとするものとの二派があつた。前者の主張するところは

即ち地方分権であり、後者の主張は即ち中央集権であつて即ち民権を制限し各州の大權力を聯合して中央政府に集中せんとするもので、又聯邦派と云ふことも出来る。この兩派は互に言論に文章に論争し、その争は随分久しく繼續せられ、且つ激烈を極めたものであつたが、結局最後の勝利は制限的民権を主張する聯邦派の手に歸した。かくて各州は聯合して一合衆國を建設し、聯邦憲法を公布することとなつたのである。米國は建國以來引續き今日迄、すべてこの憲法を用ひて來た。この憲法は即ち三權分立の憲法で、立法權司法權及び行政權を明瞭に區別して、彼此相侵犯することなからしめたものである。これ世界人類の有史以來、始めて行はれたる完全なる憲法である。米國は即ち、三權分立の成文憲法を實行した最初の國家であり、同時に世界に於ける成文憲法を有する國家の中にて、第一に破天荒の先例を開いた國家と言はなければならぬ。この憲法を我等は米國聯邦憲法と稱する。米國は聯邦を結合し憲法を制定してから、世界最富の國家となり、更に歐洲大戰を経過して世界最強の國家となつた。

米國が今日かくも富強となり得た原因は、聯邦憲法が成立し、地方人民の事はこれを各州をして自治せしめた點にあるところから、十數年來我國一般文人志士にして中國現下の問題の解決に志すものは、何等根本的に中米兩國の國情に就き比較することなく、ただただ米國の富強たり得た

結果のみに就いて論じ、中國の希望するところは、ただ國家を富強ならしむるにある。そして米國が富強たり得た所以は聯邦組織にある。だから中國にして若し米國同様に富強たらんがためには、是非とも聯省を行はねばならぬ。米國聯邦制度の根本的長所は各州自ら憲法を定め自治を行つてゐる點にある。我等にして若し米國の聯邦制度を學んで聯省を行はんとするならば、各省自ら憲法を定め、分省自治を行ひ、省憲法の實行さるるを俟つて、然る後再び聯合して國家憲法を成立することがその根本であらねばならぬと考へてゐる。質して之を言へば、即ち本來の統一ある中國を以て二十幾個の獨立單位となし、一百年前米國に於ける十數個の獨立州同様の状態に置き、然る後再び之を聯合せしめんとするに他ならない。この種見解と思想は眞に極端なる誤解に陥れるものにして、全く人の口眞似であり習つて察せざるも甚しと言はなければならぬ。斯の如くただ米國が聯邦制度を行つて世界最富強の國家たり得たのを見て、今中國を富強ならしむるが爲めには我等も亦米國の聯邦制度を學ばざるべからずと言ふが如きは、即ち前述の歐米人民が民権を争ふや、民権を争ふと云はずしてただ自由平等を争ふと説けるを直に取つて我中國人が今次の革命に當り又歐米人の口號を學んで自由平等を争ふと説けると同然、すべて之れ同じく盲従でなくて何であらう、すべて之れその妙を明かにせざるものと言はずして何であらう。聯省自治を

主張する人々は、米國は幾多の小州を基礎とし、之を聯合して各自治を實行し富強となり得た、中國も亦その地方基礎として許多の行省を持つて居り、又當然自治も出來、富強たり得ねばならぬと極めて皮相なる觀測を下し、米國が獨立當時果して如何なる状態にあつたかに就いては何等知るところがない。米國は獨立後何が故に聯邦せんとしたであらうか。之れかの十三州が從來完全に分裂状態にあり、何等統一聯絡するところがなかつたがために聯合せざるを得なかつたのではなかつたか。

が中國の狀態は又何のやうであらうか。中國の本部は從來形式上十八省に分れ、之に東三省及び新疆省を加へて合計二十二省とし、この外向熱河、綏遠、青海の多數特別區域及蒙古、西藏の各屬領があり、これ等地方は清朝二百六十餘年間完全に清朝政府下に統屬せられ、明朝のときも亦各省は非常によく統一され、更に遡つて元朝の頃には、單に中國の版圖を統一してゐた許りでなく殆ど歐亞兩洲を統一し、その以前宋朝の頃にも各省は非常によく統一せられて居た。南渡以後に至つても、南方各省は又統一されてをり、更に上代に遡つて唐朝漢朝時代にも中國各省の統一せられなかつたことはない。之に依つても、中國各省は歴史上從來すべて統一せられて居り、分裂して居らず統屬不能ではなかつたことが判るであらう。而して統一のときは即ち治であり不統一のと

き即ち亂であつた。米國の富強たり得た所以は、各州が獨立自治を實行したのためではなく、やはり各州聯合した後、進化して統一的國家となつたことに緣由する。故に米國の富強たり得たのは各州統一の結果であつて各州分裂の結果ではない。中國は元來既に統一せられた國家であつて各省を再び分開すべきではない。

目下中國は一時統一する能はず、暫時亂象を呈しては居るものの、之は武人の割據に依るものに他ならない。この種割據は我等の剷除せざるべからざるもの、決して聯省の如き謬れる主張を繰返し、武人割據のために變符を作るが如き愚を敢てしてはならない。若し之等武人が口實を作つて各一方に割據したならば、中國は二度と再び富強たることは出來ないであらう。米國の聯邦制度を以て富強の原因なりとするが如きは、全く因果を顛倒したものと云はなければならぬ。何が故に外國人は現に中國の共管を行はんとするのであるか。彼等は何處に中國の缺點を見出したか。即ち彼等は中國の智識階級者の言論及主張が事毎に斯の如く世界の潮流に相反しつゝあるを見るからである。故に彼等は中國はとも再起は難かしからうと考へ、そして言ふ、中國のことは中國人自らの力では管理することは出來ない。列強は我等に代つて共管を實行しなければならぬと。

我等現在の東亞に於てこの現下の潮流に處し、若しもこの聯邦の二字を正當に使用せんがためには、中國は日本と聯合しなければならぬ、或は中國及び從來統一したくない安南、緬甸、印度、波斯、「アフガニスタン」は聯合せねばならぬと説くべきである。今若し亞細亞を富強たらしめ歐洲に抵抗し得るが爲めには、一個の大國を聯成しなければならぬと云ふのなれば、それでこそ話も判かると云ふものである。中國の本部十八省東三省及び特別區に至つては、既に清朝時代統一され聯屬して居た。そして我等は清朝を覆滅し清朝の領土をその儘繼承して纔に今日の共和國が出來たのであつて、何が故にこの從來の統一ある國家を態々分裂せしむる必要があらうぞ。思ふに中國の分裂を主張するものは、必ず各省に自ら割據せんとの野望を抱く野心家であつて、唐繼堯が雲南に、趙恒惕が湖南に、陸榮廷が廣西に、陳炯明が廣東に夫々割據するが如き、何れもその類に他ならぬ。この種割據式聯省は軍閥的聯省であり、人民の自治的聯省ではない。この種の聯省は中國に有利に非ずして個人に有利である。我等はよくこの間の區別を明瞭にして置かねばならぬ。

米國は獨立當時に於ては十三州は毫も統一なく、之を統一ある國家に聯成することは實際非常に困難なことであつた。だから「ハ」氏「ゼ」氏の激烈なる論争となつたのである。その後聯邦

憲法を制定して本憲法に基き各州の自由投票を行つた結果、最後に「ハ」氏一派勝利を占め、これより「ゼ」氏一派の主張は漸次失敗して行つた。聯邦憲法頒布前に於て全國人民の主張が二大派に分れてゐたがために、憲法を頒布して兩派の主張に對する一種の調和物たらしめ、全國的大政權の中、憲法に明白なる規定あるものは中央政府に屬し、憲法規定以外のものは地方政權に屬せしむることとしたのである。例へば幣制の如きは、當然中央政府の辨理すべきもので地方政府の關與すべき筋合のものとなく、又外交の如きも中央政府に於て處理すべきやう規定せられ、各州は自ら直接外國と條約を訂定することの出来ないことになつてゐる。その他國防に關する陸海軍の訓練及地方關係の民團の管理等の如き大權もすべて中央政府の辨理に歸し、たゞ複雑なる事業にして、未だ憲法に中央政府に歸すべき旨の規定なきものに關しては、各州政府に於て夫々處理すべきことになつて居る。この種の劃分こそ即ち中央と地方との調和方法である譯だ。米國のこの種調和辦法に依て人民は果して何れだけの民權を獲得したであらうか。當時彼等が得たところ方の民權は、僅に一制限的選舉權に過ぎなかつた。その選舉たるや、たゞ議員及び一部地官吏の選舉に限られ、大統領及び上院議員の選舉に至つては依然間接選舉制度を用ひ、人民に於て選舉人を選舉し更に其の選舉人に依て大統領及び上院議員を選舉したるものであつた。其の後民權

漸次發達し進歩して今日に至り、漸く大統領及び上院議員並地方人民が直接利害關係を有する地方各官吏を人民に於て直接選舉することとなつた。これ普通選舉と言はれるものである。故に米國の選舉權は制限選舉から漸次普通選舉へと變遷して來たものである。けれどもこの種普通選舉權を享受し得るものは男子に限られ、女子は二十年前迄は、まだこの種普通選舉權はなかつたものである。

歐米に於て女子の選舉權獲得運動の風潮が非常に激烈となつたのは最近二十年來のことに屬する。當時歐米に於ては、女子の選舉權獲得運動が、女子の聰明才力及び姉能力の點に於て到底男子には及ばないとの理由の下に、一般にその成功が絶望視せられ、一般の反對—即ち單に男子のみでなく多數の女子の間にも—に遇ひつゝあつたことは周知の事柄である。斯様な有様であつたから、全國の婦人が舉つて如何に激烈な運動を持続しても、その成否は、まことに豫測し難き状態にあつたのである。七八年前に至つて英國婦人は初めて此の運動に成功した。そして其の後米國も亦成功した。思ふにこの成功の原因は、歐洲戰爭當時男子は悉く兵士となつて力を戰場に致し、國內の許多の事業に男子勞働者の缺乏を來し、即ち兵工廠の職員職工、市街電車の運轉手車掌及び一切の後方勤務と言つたやうなものに對し男子を分配し切れず、何れも女子を以て補充したのであるが、

之がため従前女子の選舉權に反對し女子には男子の事業をすることは出来ないと言つてゐた人も、其のときになつては最早曩の反對論の根據を失つて反對するを得なくなり、女子にも選舉權を與へよと主張してゐた人々は漸く完全なる勝利を占め得た。かくて女子の選舉權は歐洲大戰後始めて確定せられたのであつた。

斯の如く歐米の革命の目標は、元來すべて民權に到達せんとするにあつた。かの米國獨立戰爭の如きも即ち民權を争ふにあつたが、獨立後民權を主張した同志が又兩派に分裂し、一は充分なる民權を實行すべきを主張し、他は民權を制限し、國家に於て極大の政權を保有すべきが當然であると主張した。その後幾多の事實は一般人民には充分なる民權を行使すべき智識も能力もなきことを確實に證明した。かの「ゼファーソン」及びその一派が民權を争ひ、その結果争はんとした民權は却つて失敗に終つたが如きその一例で、即ちこれを以ても一般民衆が政權の運用に如何に無知であつたかを證明することが出來よう。斯うした譯で從來二三百年來の歐米革命の標題は悉く民權を争ふにあつたに拘はらず、その争ひ得た結果は、たゞ男女の選舉權の獲得したに過ぎないのである。

次に佛蘭西革命に就いて云へば、當時主張せられたものも亦民權を争はんとするにあつた。從

て民權を主張する學者は、例へば「ルッソー」等の如く、人には天賦の權利があつて君主の侵奪し能はざるものなることを主張したのである。そして「ルッソー」の學說から佛蘭西革命は發生した。佛蘭西革命後民權は實行せられた。之がため一般の貴族及び皇室は何れも非常な打撃を受け、殊に佛國のその如きは、遂に立つ能はず外國に亡命したものである。當時佛國人民は、充分なる民權を以て第一次の試験を試みつゝあるのであるが、全國人の中誰一人として敢然として民衆の無智と無能を指摘して充分なる民權に反對しやうとするものはなかつた。何故ならば、若しそんなことを口にしやうものなら、一般民衆から反革命と見られ、早速斷頭臺上に上されねばならなかつたからだ。故に其の頃は全くの暴民專制に陥り、無政府状態を現出し、社會上に異様な恐慌を與へ、人々の生命は朝に夕を測り難きに至り、即ち眞の革命黨さへも、時に不用意に一言口を迂らせたがために、大衆の反感を買ひ死刑を受くと言つた状態に立ち至つたものである。從て當時充分なる民權の試験時代に於ては、單に王公貴族のみならず幾多の人士が殺されたもので、即ち「ダントン」の如き一流人物を始め、平時非常に熱心なる革命志士さへも、たゞ一言民衆の意見と合はなかつたがために、人民のために殺されたものも少くない。その後流石の佛國人民も斯様な行爲が余りにも暴虐に過ぐることを自覺し、従前民權に賛成した人も、その熱の冷めて來

るに従ひ、却つて民権反對論者に變じ、遂に「ナポレオン」を推して皇帝とするに至つた。之に依つて民権の極大なる障礙は生れたのである。この種障礙は君權から發生したのではない。前數回に互つて述べたるが如く、民権の風潮は一百年前既に澎湃たるものがあり、然も今や世界の大勢は民権時代に到達してゐるのであるから、今後とても日一日と發達すべきものであるが、この民権時代に至つて、君權が消滅したにも拘はらず却つて、かくも極大なる障礙が發生したとは何うしたことか。之は如何なる原因に依つて造られたものか。即ち民権贊成の所謂穩健派の人々が、制限的民権國家集權を主張して充分なる民権に反對した、それは確かに民権障礙の一原因であつたに相違ない。けれども此の一派の人々の民権を阻止する力は左迄大きくはなく民権の進歩を阻礙することも余り多くはなかつた。そして却つて充分なる民権を主張した人々こそ、皮肉にも民権障礙の重要な原因をなしたのである。佛蘭西革命の如き人民が充分なる民権を有してゐたがために領袖は排斥せられ、幾多の有識にして専門的な領袖も悉く殺されて了ひ、残るは一班の暴徒ばかり、然も彼等暴徒は事物に對する明瞭なる觀察を缺きその上非常に人に利用せられ易かつた。既に良指導者を失つた全國人民は、何事が發生しても誰が是であるか非であるかが頓と解らず、たゞ人から煽動せらるれば一致して盲從附和すると云つた有様であつた。斯様な現象は寔に

危険千萬であつたと言はなければならぬ。故にその後人民は皆覺醒して再び民権を主張するものがなくなつたのである。この種反動力に依つてこそ、民権の極大なる障礙は生れたもので、然も此の種障礙は、謂はゞ民権を主張した人々自ら招いたものである。

歐洲に於ては佛國以外丁抹、和蘭、葡萄牙、西班牙の諸小國の如きも知らず知らずの間に又民権風潮を發生した。民権の潮風は歐米に於ては障礙に遇ひ君權の反抗を受けたけれども消滅せず、民権自身の障礙にぶつつかつても亦自然に發達して之を阻止することが出来なかつたが、それは如何なる理由に依るものであらうか。大勢の趨くところ潮流の至るところ、之を阻止すべき方法がなかつたからである。この道理に基いて幾多の專制國家は、潮流に順應して風を見て事を行ふたものである。例へば英國の如きは、従前の革命に於て皇帝を殺しその後十年ならずして再び復辟した國であるが、機を知り變に善處する英國の貴族達は、民権の力の大にしてとても反抗出来なことを知つてゐたから、皇室及び貴族は民権に反抗せず之を調和することに苦心したものである。民権は本來英國に發生したものはあるが、復辟後は民権を推倒して貴族政を執り、國事を處理するものは貴族に限られその他の階級のものは一切之に關與することが出来なかつたが、一千八百三十二年後、貴族以外の一般平民も始めて選舉權の享有を許可せられ、更に歐洲戦後女子も

亦選舉權を獲得した。英國がその屬領を遇するに當つては更に一段と退讓手段を善用し、民權の潮流に順應して來たものである。「アイルランド」は英國三島中の一つであるが、英國は當初武力を以てこれを壓迫して來たが、その後民權の風潮の擴大するを見て壓迫を熄めて却つて退讓を主とし「アイルランド」の獨立を許容した。英本國の三島の中すら斯様であるから、外部に對しては勿論のことで、埃及の如きに對しても亦追讓政策を執つたのである。埃及は歐洲大戰當時英國のために多大の力を提供したもので、當時英國は埃及人の援助を求むるがため許多の權利を允許し彼等に爾後の獨立を許容した。ところが歐洲大戰後、英國は前言を食んで曩に許容した權利を悉く履行しようとしなかつた。そこで埃及は獨立を求め前約の履行を要求した。その風潮の擴大するに及び、英國は又之に讓歩してその獨立を許すこととなつた。又印度の如きも英國に向つて選舉權の擴張を要求して居たが、英國は亦も之を一律允許した。現在では英國國內に於ても、労働黨を容納し内閣を組織せしめ労働者をして政を執らしめてゐるが、これ等の例に依つても、英國貴族の退讓政策とその民權の進歩とを證明するに足ると思ふ。英國貴族は世界に於ける民權の大勢を洞察しよくこの潮流に順應して之に逆行しなかつたからこそ、彼等の政體を今尙ほ維持することが出來、國家の現状には尙ほ何等の大なる危険も存在しないのである。

世界に於ける民權思想は、米國及び佛蘭西の革命を經過して日一日と發達した。けれども最近の民權思想は、その根本を尋ねて見ればやはり獨逸に發源したものである。從來獨國々民は民權思想に富み、従つてその労働黨は國內の大多數を占めて居たもので、現在世界に於ける労働團體の中でも最大なものとは云へばやはり獨逸のものであらう。元來獨國の國權思想は餘程早くから發達してゐたものではあるが、歐洲戰前當時に於ては、その民權の結果は尙ほ英佛に及ばなかつたものである。何故ならば獨逸に於て用ひられた民權對付手段が、英國の如く調和退讓的なものでなかつたがため、その得た結果も自然異ならざるを得なかつたのだ。然らば獨逸從前の民權對付手段は如何に。獨逸に於て民權の發達を阻止せるものは誰か。多數學者の研究は「ビスマルク」であると云ふことに一致してゐる。「ビスマルク」は獨國の名望高く手腕卓越せる大政治家であつて、今から三四十年前の世界に於ける大事業といへば、すべて「ビスマルク」の手によつて造成せられたもので、世界の政治家は、一人として「ビスマルク」の影響を受けないものとはなかつた。故に三四十年前の獨國は世界最強の國家であり、當時かくも強盛を極め得た所以も全く「ビスマルク」一人のお蔭であつた。然らば「ビスマルク」執政前に於ける獨國の状態は如何なるものであつたか。當時獨國は二十有余の小邦に分れ各邦その民族を同じくしてはゐるが、各

自各様の政治を行ひ米國の十三州以上に分裂して居た。その上「ナポレオン」に征服せられて後は、人民の窮苦更に堪へ難きものがあつた。そこへ「ビスマルク」が出現し、彼の聰明才力と政治的手腕とを運用して、附近の民族を同じうする二十餘邦を聯合し、一個の大聯邦を組織し、ここに始めて後年の大富強たり得るの基礎が出来たのであつた。

十年前に於ては、獨國は世界最強の國家であり米國は世界最富の國家であつたが、然もその兩國が何れも聯邦であつたがため、一般に中國が富強たらんがためには、やはり獨國米國の聯邦組織を學ばなければならぬと考へてゐるやうであるが、事實獨國が後年の大獨逸帝國となり得た原因は、三四十年前「プロシヤ」に過ぎなかつた獨國が、「ビスマルク」執政後「プロシヤ」を基礎に軍備を整へ武を練り内政を刷新し、その他二十餘邦を聯合した點にあつて、職邦組織そのものにある譯ではないのだ。「ビスマルク」が各邦を聯合せんとするや、佛國、獨國は極力之に反對したものである。何故獨國は獨逸聯邦に反對したか。即ち獨國は獨國と同様「チュートン」民族であり、獨國皇帝も亦雄を歐洲に争はんとする大望を抱懐し、獨逸聯邦の強盛が獨國を凌駕するを願はなかつたからに他ならぬ。けれども「ビスマルク」は才智人に優れ發奮して強を圖り一千八百六十六年突如疾風の如く獨國に宣戰を布告し、一戰にしてこれを打破つた。獨國は戰勝したので

あるから、本來ならば獨國を消滅せしむることも出来たのであるが、「ビスマルク」は獨國は獨國には反對はしてゐるけれど、もともと獨國と同民族であつて、將來獨國の大患がこの國から起らうなどとは豫測出来ないと考へ、且つその遠大なる眼光は、獨國將來の大患の英佛の他になきを看破し、彼は直に極めて寛大なる條件を以て獨國と媾和し、戰勝の餘威を驅つて何等壓迫がましき態度にも出なかつたのである。そこで獨國は戰には敗れたものの、再び獨國の寛大なる態度に依つて和議することが出来たので深く彼に感謝したものであつた。その後六年一千八百七十年、獨國は佛國と戰つて「ナポレオン」三世を擊破し、巴里を占領し、媾和の際佛國は「アルサス」及び「ロレンス」の二州を獨國に割讓した。この兩次の大戰を経て、獨國の二十餘の小邦は、聯合して益々結束を固うし統一ある國家を建設したのである。かくて獨國は聯邦成立後歐洲大戰前に至る迄、實に世界最強の國家として歐洲の牛耳を執り、歐洲各國では万事獨國を目標として來たものである。獨國がよくかかる地位に迄到達し得た所以は、全く「ビスマルク」一人の力に依るものと言つても差支へない。「ビスマルク」は執政二十年ならずして弱國獨逸を變じてかくも強盛なる國家を造つた。そしてこの大功業があつたがため、獨國の民權は非常に發達しつつあつたものの政府に反抗することが出来なかつたのである。

「ビスマーク」執政時代彼の能力は單に政治軍事及び外交方面許りではなく、其他種々なる方面に於て全世界を風靡した。即ち民權風潮に對しても亦非常な大手段を以て一般民衆に打勝つたのである。例へば十九世紀の後半普佛戰爭後、世界には民權の戰爭に搦て加へて經濟的戰爭が發生した。當時民權熱は漸次冷却し、社會主義が發生した。この主義は即ち余の主張する民生主義であるが、人民はこの主義の世に現はるるや、民權に對する熱心が漸次冷却し經濟權を争はんとする傾向になつた。この種戰爭は勞働者と資本家との階級闘争である。勞働者の團體は獨國に最も早く發達した。従つて社會主義も亦獨國に於て最も先んじて發達したものであつた。世界に於ける社會主義の最大思想家と言へば何れも獨逸人である。誰しも知つてゐる通り大社會主義者「マルクス」は獨逸人である。即ち彼は「マルクス」主義を實行した人である。露國の老革命黨の何れも「マルクス」の信徒である。獨國の社會主義は彼のときに至つて顯著なる發達を遂げた。

社會主義は元來民權主義と連帶關係にあるもので、この兩主義の發生後は、本來ならばその發達は同時でなければならぬ筈だ。然るに歐洲に於ては民權思想があつて民權革命が發生したのに拘はらず、何が故にかくも發達した社會主義があり乍ら、その當時經濟革命が發生しなかつたのであるか。獨逸に社會主義が發生した當時は恰度「ビスマーク」の執政時代であつて、他のも

のであれば必ず政治力を以て社會主義を壓迫したであらうが、彼「ビスマーク」はさうした手段には依らなかつた。何故なれば彼は、獨國の民智は既に開け、勞働者の團體は極めて鞏固であつたがため、若しも政治力を以て之を壓迫せんか、徒に勞して功なきことを充分心得てゐたからだ。然らば本來中央集權的獨裁政治の主張者たりし當時の彼「ビスマーク」は、果して如何なる方法に依つて、當時社會の改良經濟革命の實行を提唱しつゝあつた社會主義的社會黨に對付せんとしたであらうか。「ビスマーク」は、政治的力を以てしては到底打消し得ざるを知つて、一種の國家社會主義を實行して、「マルクス」等の主張せる社會主義を防遏せんとしたのである。例へば鐵道は交通上極めて重要なもので國家の一基本産業であり、各種産業の發達には不可欠のものである。例へばかの中國の津浦鐵道がその建設前直隸山東及び江北一帶地方は非常に窮苦してゐたものが、一度本鐵道の敷設せらるるや、沿線一帶は變じて非常に富饒の地と化し、又京漢鐵道敷設前には直隸、湖北、河南の諸省も亦荒涼を極めたものであるが、その後京漢鐵道に依り交通便利となりしため、沿線數省の地は變じて極めて富庶の地となつたが如きその一證左であらう。「ビスマーク」秉政當時、英佛の鐵道は過半人民の私有であり、國家の基本産業は資本家の所有に歸し、爲めに全國の産業は資本家に壟斷せられ、社會上に貧富不平均の大弊害を生じてゐたものである

が、「ビスマルク」はかかる弊害の存在を許さず、國家社會主義を實行し全國の鐵道を買收し國有となし、それ等基本産業を國家に於て經營することとした。労働者側に對しても亦労働時間を定め、労働者の養老費及び保險金に就いて一々規定するところがあつた。元來之等の事業はすべて社會黨が實行せんとした日頃からの主張であつたが、「ビスマルク」の遠大なる眼光は、先づ國家の力を用ひて之を行ひ、更に國家が經營する鐵道銀行及び各種大産業に依て得たる利益を以て、労働者を保護し全國労働者をして衷心満足せしめた。獨國では從來年々幾十萬の労働者が外國に出稼ぎしたものであるが、「ビスマルク」のこの經濟政策の成功するに及んで、嘗に労働者の出稼を絶滅せしめ得たのみではなく、却つて多數外國労働者を獨國に入國せしむるに至つた。

「ビスマルク」は斯の如き方法を以て社會主義に對抗したが、これは事前に之を防止せんとしたのであつて、直接之を打消する方法を採つたのではない。この種防止の方法は、即ち無形の中は人民の要争問題を消滅せしむることとなり、人民に要争問題なきに至らんか、自然社會には革命の發生する譯がない。故にこれを稱して「ビスマルク」の民権反對の大手眼なりと言ふのである。

今過去に於ける世界の民権發達經過の歴史を辿つて見れば、第一次は米國革命である。米國革

命には民権を主張するものの中「ハミルトン」及び「ゼファアソン」の兩派に分れ、「ゼファアソン」は極端なる民権を主張し、「ハミルトン」は政府の集權を主張したものである。その後政府集權派の主張が勝利を占めたが、これ民権第一次の障礙である。第二次は佛蘭西革命である。佛蘭西革命には人民は充分なる民権に到達することが出来たが、これを濫用した結果暴民政治と變成した。これ民権第二次の障礙である。第三次の障礙は「ビスマルク」が最も巧妙を極めた大手段を以て民権を防止したそれである。これが民権第三次の障礙となつたのである。以上は即ち歐米に於ける民権思想發達經過の一切の情形である。然しながら民権思想は斯の如く三つの障礙を経過したが、尙ほ期せずして自然自然に發達を續けた。これは人力のよく阻止し得るところではなく又人力のよく助長し得るところでもない、かくて民権は今日に至つて世界の大問題となつた。そして世界の學者は其の守舊派革新派の區別なく、何れも民権思想の遂に消滅せしむる能はず然も其の發達の道程に於ては多少の流弊の免れ難きこと、恰も前述の自由の流弊に於けると同様であることを知るやうになつた。

之を要するに、歐米に於て従前自由平等を争つて得た結果が民権であつて、其の民権が發達してそこに幾多の流弊が生み出された。民権未發達の頃に於ては歐米各國は何れもこれを壓迫し制止

し、君權を以てこれを打消せんと試み、次で君權推倒後民權を主張する人々の間に民權の障礙が生み出され、其の後民權を實行するに至つて又幾多の流弊を生じ、更に民權の障礙となり、最後に「ビスマルク」が人民の民權主張を壓止し得ざるを知り、國家力を以て人民に代つて國家社會主義を實行した。そして之れ亦民權の障礙となつたのである。歐洲大戰後露、獨兩國の專制政府は何れも崩壊した。女子の選舉權も亦數ヶ國に於て獲得せられた。故に民權は今日に於ても依然解決困難なる一問題たるを失はず。

民權實行の原始に遡つて見るに、米國革命後人民の得たところの第一の民權は選舉權であつた。當時歐米人民は民權即ち選舉權位に考へ、人民として若し果して貴賤貧富賢愚の論なく、皆が選舉權を得たとするならば、それはとりもなほさず民權の充分なる目的を達したものと云はねばならぬと考へて居たものである。歐洲戰後三四年來の狀況はまた果して何うであらうか。その間少なからざる障礙を経過したとは云へ、民權に依然顯著なる發達を遂げ、何物もこれを阻止するとは出來なかつた。近來「スイス」の人民は選舉權以外に創制權及び複決權を享有してゐる。人民は官吏の選舉權を有し、法律に對しても亦當然之を創造し修改し得べき權利があるのである。創制權及び複決權は即ち法律に對して言つたもので、大多數の人民が或る一種の法律に對し非常に

便利なりと思惟する場合、人民はこれを法律として創制することが出来る。これ即ち創制權である。之に反し、非常に不便なりと思惟せらるるものは之を修改することが出来る。修改即ち複決權である。故に「スイス」の人民は、他國人民に比して二種の民權を餘計に得てゐる譯で、合計三種の民權があり、一種の民權のみでない。近來米國の新に開拓せられた西北諸州の人民は、「スイス」人民に比較して更に一種の民權を持つてゐる。その民權は罷官權である。この種民權は米國各州に普遍的なものではないが、幾多の州は既に之を實行しつゝある。故に米國の多數の人民は現在では、選舉權、罷官權、創制權及び複決權の四種の民權を得てゐる譯で、此の四種の民權は既にこれ等西北諸州に實行せられ非常な好成績を擧げつつあり、將來或は全米或は全世界に擴充實行せらるるに至るやも測られない。世界各國にして將來充分なる民權を保育せんとすれば、必ず米國のこの四種の民權を學ばねばならぬ。然し乍ら此の四種の民權を實行することに依つて、將來完全に民權問題を解決し得るや否や。現在世界の學者は假令人民がこの四種の民權思想をもつことになつても、まだ民權問題は完全に解決し得るものではない、すべては時間の問題であらうと見てゐる。思ふにこの種直接的民權は發生後日尙ほ淺い。従前の神權は幾萬年を経過した。君權も幾千年を経過した。現に今でも各國の君權例へば英國及び伊太利の如きは、多少の問題を

存して居り、單にこれ等の君權なるものは將來必ず消滅すべきものと言ふだけに過ぎない。斯様な状態であるから、何分發生後數十年に過ぎぬこれ等直接的民權は、依然今日に於ても一個の解決することの出来ない大問題であると言はねばならない。

今世界に於ける民權の最も發達した國家に就いて見るに、その人民は政治上如何なる地位を占めつつあるか。幾許の民權を獲得して居るか。即ち最近二百餘年來得たところの結果は、僅々一個の選舉權に過ぎない。この場合人民は選舉せられて議員となつた後、議會に於て國事を管理し得る。凡そ國家の大事はすべて議會を通過して始めて執行し得るものにして、然らざればこれを施行することは出来ない。此の種政體を代議政體と稱する。所謂議會政治である。けれどもこの代議政體の成立後民權は果して充分なる發達を遂げ得たか何うか。代議政體成立前に於ては歐米人民は民權を争ふに當り、代議政體を得たならばまづ無上の民權と言はなければならぬ位に考へてゐたもので、それは恰度中國の革命黨が中國革命を志してからは、よく日本に學び得、又學んで歐米同様に至り得たならば大成功と言はねばならないと考へてゐたのと同様である。若し果して眞に學んで日本又は歐米同様に至ることが出来たならば、上上であると考へてもいいものであらうか何うか。之を明かにせんがためには、次の事實に聽かなければならぬ。

歐米の人民は曾て代議政體を争得したならば大體に於て満足なりとしたものであつた。我中國は革命後果してその代議政體にでも到達し得たか何うか。得たところの民權の利益は果して如何なるものであつたか。現在我代議士は皆猪仔(豚)議員に變り、彼等は錢にさへなれば身を賣り賊を分ち利を貪り、全國人民の齒せざるところとなつたのは衆知の事柄である。勿論これは各國に於て代議政體實行の結果何れも免れ得なかつた流弊が、中國に傳來してその流弊更に甚しく言ふに堪えなくなつただけのことではあるが。諸君にしてこの種政體に對し若し果して無關心であり、之が挽救策を講じなかつたならば、そして國事を舉げて彼等猪仔議員に付託し彼等のなすが儘に放任するならば、國家の前途寔に危険窮りなきものと言はなければならぬ。故に外國人の希望するところの代議政體は即ち人類と國家との長治久安の計なりと云ふことは信するに足りない。元來民權は許多の困難を經過し然る後實行せられ、又幾多の挫折を經過したが、それにも屈せず一日と發達して來たものである。然るにそれに依つて得られた結果は代議政體に過ぎなかつた。各國は代議政體に至つて殆ど行詰りの状態にあるかの如く見える。近來露國に一種の新政體が發生した。この政體は代議政體に非ずして人民獨裁の政體である。この人民獨裁政體とは抑も如何なるものであらうか。遺憾乍ら我等の手元には材料が非常に乏しいから、その究竟するところを

判断し兼ねるが、ただこの種人民獨裁政體は當然代議政體よりも遙かに改良せられたものであると言つても差支なからうと思ふ。

去り乍ら我國民黨が三民主義を提唱し中國を改造せんとして主張するところの民權は歐米のそれと同一ではない。我等は歐米の既往の歴史を材料とせんとするものであつて、彼等を學ばんとするものでも彼等の後塵を歩まんとするものでもない。我等は我等の民權主義を以て中國を改造し、一個の全民政治的民國たらしめ歐米を凌駕せんとするにある。我等にしてこの大目的を達せんがためには、須らく先づ民權主義を研究して明瞭ならしめねばならぬ。本日講義して來た大意は、諸君をして歐米先進國が民權を實行すること一百餘年、その間現在に至つて僅か一代議政體を得たるに止まり、我等がこの種制度を中國に實行して許多の流弊を發生したるを以て、民權の問題は今日尙ほ解決困難なるものとして殘されて居ることを明ならしむるにあつた。余は今後尙ほ二回に亘つて民權主義に就いて講義し、そして本問題に就いて一つの根本的な解決方法を求めたいと思ふ。我等にして之を解決することが出來なかつたならば、中國は歐米の後塵を歩まざるべからず、若し果してよく之を解決し得たならば、中國は歐米を凌駕することが出來るであらう。

第五講 民權問題解決策如何

中國人の民權思想はすべて歐米から傳來したものである。従つて近來我等は革命を實行し政治を改良するにも萬事歐米に模倣する。何が故に我等は歐米に模倣しなければならないのか。歐米近時一百年來の文化を見るに、雄飛突進一日千里の勢があり、種々なる文明は何れも中國よりも遙かに進歩してゐる。例へば武器に就いて言へば、歐米近年の武器は日一日と改良せられ中國の其れに比して遙かに進歩した。幾千年來中國の武器はすべて弓箭刀戟であつて、二三十年以前迄まだそれ等を使用してゐたものである。庚子の年發生した義和團の如き、彼等の目的は歐米勢力を排除せんとするにあり、彼等は歐米勢力を排除せんとしたがために八國の聯合軍と戦つたのであるが、當時用ひられた武器は大刀であつた。大刀を以て聯合軍の機關銃、大砲に抵抗せんとしたのであつた。この種舉動は即ち當時の中國人が歐米の新文化に對する反動であり、彼等の物質進歩に對する抵抗であつた。そして彼等は歐米文化の中國に比して進歩せるを信ぜず、且つ中國文化の尙ほ歐米に勝れるを表示せんがため、更に甚しきに至つては、彼等は歐米の銃、大砲の如き精銳なる武器さへも中國の大刀以上に猛烈なものであることを信じなかつたがため、義和團を起して

歐米に抵抗したのである。義和團の勇氣は最初の間鋭くして當るべからざるものがあつた。楊村の一戦は、英國の提督「シーモア」(Seymour)が三千の聯合軍を率ひ各國公使館救援のため天津より北京へ向ひ楊村を經過した際義和團に包圍せられて起つたのであるが、當時の戦闘の様子を見るに、義和團には小銃もなければ大砲もなく、ただ大刀許り、一方その包圍せらるる聯合軍は、精利なる銃砲を持つて居たもので、義和團側は言はば肉體相搏つの慨があつた。「シーモア」は彼等に包圍せられたため機關銃を以て義和團を掃射した。之がため義和團の打殺さるるもの數知らず、血肉飛び散り悽慘を極めたものであつたが、彼等はそれにも畏懼せず又退却もせず、後から後からと死にももの狂ひになつて聯合軍を包圍すると言ふ有様であつたから、到頭「シーモア」の率ゆる三千の聯合軍は、楊村を通過して北京に直進することが出来なくなり、一旦天津に退いて時機を待ち、別に大兵の援助を請ふて纔に北京に達し各國公使館の圍を解くことを得たのである。その戦況に就いて論ずれば、「シーモア」も之を批評して、當時の義和團の勇氣に加ふるに、彼等が洋式の銃砲を使用してゐたならば、聯合軍は必ずや全軍覆滅したであらう、ただ彼等は終始外國の新式武器を信ぜず大刀と肉體とを以て聯合軍と相搏つたがため、聯合軍のため幾萬となく射殺せられたのである、然も尙ほ彼等は死骸を楯に前仆るれば後繼ぐと云ふやうに後から後からと

前進したもので、その勇氣殊に當るべからざるものあり、眞に人をして驚奇佩服せしむと言つてゐる通りである。斯様な戦況であつたから、この血戦經過後外國人は始めて中國に尙ほ民族思想の存するあり、この民族の遂に滅すべからざることを知つた。

庚子の年の義和團は中國人の最後の自信思想と最後の自信能力とを以て歐米の新文化に抵抗したものである。義和團失敗後中國人は従前の弓矢刀戟が、到底外國の小銃、大砲の敵ではないことを知り、歐米の新文明が的確に中國の舊文明に比し遙に勝れてゐることを明かにしたのである。外國の新物と中國の舊物とを比較するに、既に武器の效力の一事に就いては自然その優劣は甚だ明かである。武器以外のものに至つても、鐵道、電信の如き交通通信機關も、亦中國の挑夫驛站よりも遙かに便利である。我等が貨物を轉運せんとするにも汽車が挑夫より速にして便利なることは當然であらう。消息を通ぜんとするとき、電報は當然驛站よりも迅速に且つ靈敏である。その他種々人間の日常生活に關係ある機械及び農工商に用ひらるる種々なる方法に至る迄一つとして中國に比し遙に進歩して居ないものはない。だから義和團の失敗後中國の一般識者は、中國が強盛たらんがためには又中國が北京城下の盟の大恥辱を雪がんがためには、何事も外國に模倣しなればならない。そして單に物質科學に就いて外國を學ぶ必要がある許りでなく、一切の政治

社會上のこともすべてを外國に學ばなければならぬことを知つた。

故に義和團の變後中國人の自信力は完全に失はれ、外國崇拜の心理は日一日と高まつて行つた。外國を崇拜し外國を模倣せんとしたから、自然幾多の外國思想即ち外國人の末實行の新思想迄も受入れて我等は又之を實行せんとしたのである。十三年前の革命は外國の政治革命を模倣して民主政體を成立したが、その目的はやはり外國を見習ふにあつた。従つて外國の高遠なる政治哲理と最新の政治思想とを悉く之を實行したもので、これ中國の政治思想上の一最大の變動である。義和團以前に在つても、中外の通商は既に開始せられてゐたのであるから、夙くから外國の長所を知つてゐたものも勿論非常に多かつた。けれども一般大衆には依然外國に學ばねばならぬやうな眞文明のあることは信じられなかつた。だから義和團の際には外國を模倣した鐵道電信等は悉く破壊せられ、外國の銃砲も亦一向に信仰せられず、いざ戦争となつても、やはり中國の昔ながらの弓矢を使用したものである。ところが失敗後は今度は又その反動で、外國信仰熱が擡頭し、何でも彼でも外國に模倣し使用せんとするに至つた。斯様に従前の中國は守舊的であり、そして守舊時代には一途に外國に反對し、中國のことと云へば何でも外國に優れてゐるやうに極端に信仰したものであつたが、義和團失敗後は、守舊的では駄目だ維新でなければならぬと言ふことにな

り、反動的に極端なる外國崇拜となり、外國のことと言へば何に限らず中國より優れてでもゐるやうに信仰するやうになつたのである。外國を信仰したがために、中國の舊物は事毎に不要となり、事毎に外國に模倣し、ただ外國のものときけば之を學ばんとし實行せんとした。民權思想に對しても亦この種流弊を免る譯に行かず、革命後は國を擧げて之に狂奔し、外國人の説くところの民權を以て直に中國に實行せんとし、その民權の果して如何なるものなるかも根本的に研究しようとはしなかつたものである。前數回に互つて講述したところは、外國の民權争奪の歴史及び勝利後得たる結果の詳細なる説明にあつたが、それ等數回の研究に依つて我等は民權政治は外國に於てもまだ充分に實行し得ず、民權發達の中途に於ても亦幾多の障礙に遭遇してゐることを知つた。現在中國では民權を實行するがためには外國に倣はなければならぬ、即ち外國の方法を倣はなければならぬと主張してゐるが、民權問題は外國の政治上に於ても今日に至る迄その根本的方法としてはなく、今尚ほ一個の大問題として残されてゐる。即ち外國人は、最新發明の學問を以て民權を研究し民權問題を解決せんとして居るが、學理方面に於ては尚ほ根本的な良發見もなく又何等適切な解決方法もないのである。故に外國の民權に對する辨法は我等の標準となす能はず我等の導師となすには足らないのである。

義和團以後一般中國人は、時々刻々物々皆すべて外國を學ばねばならないものと考へるやうになつたが、結局のところ外國のものは學んでもいいものであらうか。例へば武器に就いて言へば、畢竟するに外國の機關銃が猛烈であるか、やはり中國の弓刀の方が精銳であるかと言ふことにならるが、この二種のものには比較する迄もなく、外國の機關銃の方が遙かに精銳であることはきまり切つた話である。單に外國の武器が中國のそれに比べて猛烈である許りではない。その他何ものに限らず外國の方が中國よりも遙に進歩してゐる。物質方面の科學に就いて云ふも、外國が中國に凌駕してゐると云ふことは、議論の餘地はない。けれども外國の政治方面は果して何うであらうか。外國の政治哲學と物質科學との進歩は又何づれが最も迅速であらうか。政治的進歩は遠く科學には及ばないのである。

例へば兵學は即ち一種の軍事科學であるが、單に兵學のみに就いて云ふも、外國の戰術は隨時發明せられ隨時改良せられ所謂日進月異と云ふ有様で、従つて一百餘年以前の外國の兵書を今日使用するものはなく、嘗に一百年前の兵書を使用する人がない許りか、十年前の兵書さへ今日に至つては使用するものがないのである。外國の武器及び戰術は十年毎に大變動しつつあるのである。換言すれば、即ち外國の武器及び戰術は十年毎に一度宛革命がある譯だ。外國に於ける最大

の武器であり同時に最も高價なる武器は戰艦であるが、現在この戰艦は一隻の建造費に五千萬元乃至一億元を要する。かやうな莫大な價格ある船にして初めて軍艦と言ふことが出来る。外國の物質的進歩は武器が最も迅速であり就中戰艦が最も快かつた。戰艦の艦齡は最多十年に過ぎず、歐洲戰前の戰艦は今日では最早廢艦となつてゐる。海軍の戰艦が單にかかる大變動がある許りでなく、陸軍の銃砲も亦日々に進歩し十年に一度づつ變動し十年に一度の革命がある。十年毎に一度宛新しく變つてゆくのである。現在我等の使用する銃は外國では、既に無用の廢物となつてゐる。歐洲大戰當時各國の使用した大砲は今日ではやはり舊式の方だ。これは單に武器だけではない。歐米に於ては事々物々すべて日々に進歩し新しく變つて行く。即ちその他の機械物品も亦日々に改良せられ時々發明せられてゆく。故に外國の物質文明上の進歩は、眞に是れ日新月异一日と同じくないのである。

政治上に至つては、外國は中國に比較して又何れ程進歩してゐるであらうか。歐米は二三百年来幾多の革命を経過し、その政治上の進歩は中國よりも遙かに速かであるが、外國の政治關係の書物例へば二千餘年前希臘の大政治哲學者「プラトーン」の著した共和政體の書物の如きは、今尙ほ學者の研究しつつあるところであり、現在の政體に對しても尙ほ多少參考の價值あるものとせら

れ、軍艦操典のやうに十年を過ぐれば無價値な廢物となつて了ふものとは違つてゐる。斯様に外國の物質科學は十年毎に一回の變動をなし、十年前と十年後とは非常な相違があり、その進歩は如何にも速いものであるが、政治理論に至つては二千年前「プラトーン」の著した共和政體の書が今日に至る迄研究の價値あるものとせられ尙ほ大いに役立つてゐると言つた有様である。従つて外國の政治哲學の進歩は物質の進歩には及ばず、彼等現在の政治思想は二千餘年前のそれと根本的に何等さしたる變動はないと言ふことが分かうと言ふものだ。斯様な譯であるから若し外國の政治を物質科學同様にこれを模倣せんとするならばそれこそ大間違である。外國の物質文明は日一日と進歩する。故に我等が之を學ぼうとしても追越すことは仲々容易ではない。が外國の政治的進歩に至つては、物質文明の進歩に比較してその差遙かに遠く速度亦頗る緩慢であつて、歐米革命の如く民權實行後一百五十餘年にもなるが、現在民權を實行し得る範圍は百餘年前のそれと大した變りはなく、又現在佛國の實行しつゝある民權の如きも尙ほ革命當時行はれた民權に及ばないのである。即ち佛國に於ては革命當時實行せられた民權は非常に完全なものであつたが、當時の一般人民がこれを誤れりとなし皆之に反對したがため、今に至る迄一百餘年佛國の民權は依然として餘り進歩しなかつたのだ。我等にして外國をば學んとするには之等の情形を明かに區

別しなければならぬ。外國の民權がさしたる進歩なかりし原因は、外國が民權の根本的方法に對して解決するところがなかつたのである。

前數回に互り述べた情形に依つて、歐米の民權政治には今尙ほ何等適當なる方法なく、民權の眞理は依然闡明せられずにあることが判るであらう。ただ最近二三百年来民權思想漸次膨脹し、人事上考へ及ばざる問題に對しては、社會の大衆は之をその自然に聽いて、ただ潮流に順應して來た。故に近來民權が發達したのは學者がその學理を發明したが故ではなく、一般大衆がその自然に順應したところに基因する。總じてその自然に順應して行く場合には、豫め根本的方法があつた譯でもなく、又前後を充分顧慮することもなかつたため、歐米各國が民權を實行するに當つては、中途幾多の挫折に遇ひ幾多の障礙に遇つたのである。中國は革命後歐米に模倣し民權を實行せんとした。歐米の民權は現に發達して代議政體となつてゐる。故に外國に追従し民權を實行せんとした中國が、又代議政體を持つことになつたのは極めて自然な話である。然し乍ら中國は歐米の代議政體を學ぶには學んだものの、その長所は少しも學ばずに却て幾十倍の缺點のみを學び、その結果國會議員は變じて猪豕議員となり、その汚穢腐敗は世界各國古來曾てなきところであつた。故に中國は外國の民權政治を學んで、ただよく學べなかつた

と言ふ段ではない、却つて學んだがために悪くなつたと云はなければならぬだらう。

前數回の講義に依つて、諸君は歐米の民權政治には未だ何等根本的辦法のないことを知つたであらう。故に我等は民權を提唱するに當つては一から十まで歐米に模倣するは不可である。我等は歐米を一から十まで模倣することが不可なりとすれば、果して如何にすべきか、現在中國には尙ほ守舊派が存在する。そしてそれ等守舊派の反動力は伸々馬鹿にならない。彼等の主張は民國を推翻して專制を恢復し復辟を圖らんとするにある。彼等は斯の如き方法に依つて始めて中國を救ひ得るものと考へてゐる。だが我等世界の潮流を明かに心得てゐるものには、斯様な辦法が非常な誤りであることが分る。故にこの辦法に反對せんがためには、世界の潮流に順應して民權を實行し政治の正しき軌道を歩まねばならぬ。我等にして政治の常道を歩まんとするには先づ政治の眞意義を知らねばならない、然らば政治とは如何なるものであるか。民權第一講の定義に依れば、政は衆人の事、治は衆人を管理することであつた。中國幾千年來社會の民情風土習慣は歐米のそれとは大いに異なるものがある。中國の社會にして既に歐米のそれと同じからずとせば、社會を管理する政治も亦自然歐米のそれと異ならねばならぬ。歐米の機械を模倣するやうに全然歐米のする通りを模倣する譯にはゆかない。歐米の機械は我等がただそれを學び得たならば、何時如

何なる場所に於ても使用することが出来る。例へば電燈の如きは中國の如何なる家屋にでも架設し使用し得る。けれども歐米の風土人情に至つては中國と大いにその趣を異にするところから、中國自身の風土人情にお構なしで、恰も外國の機械を學ぶと同様、外國の社會を管理する政治をその儘持つて來るならばそれこそ大間違ひだ。勿論人類を管理する政治法律の條理もやはり一種無形の機械であり、從て行政組織を機關と稱してゐる次第ではあるが、有形の機械は本來物理的に出來たもので、無形の機械は元來心理的に構成せられたもの、そして物理學は最近數百年來既に幾多の發明が成し遂げられてゐるが、心理學に至つては僅々二三十年來始めて起り、そして進歩したもので、今日のところ大した發明はないと言つたやうに、兩者の間には自ら差別があつて之を同一に論ずることは出來ない。だから物を管理する方法は歐米に學んでもいいが、人を管理する方法に至つては一から十迄歐米を學ぶと云ふ譯には參らない。歐米では物を管理する一切の物理に關しては、既に早くから充分な研究が遂げられて居り、それ等の根本的辦法も亦非常に夙くから解決せられてゐるから、歐米の物資文明は我等は之を完全に模倣し之に盲從しても差支へない。又これを中國に持つて來れば立派に役立つのであるが、歐米の政治道理に至つては、今尙ほ研究未熟で、一切の辦法もまだ根本的に何等解決されてゐないから、中國が今民權を實行し

て政治を改革せんとするに當つて、全然歐米その儘を模倣することは出来ない。何うしても、何か別に更に新しい方法でも考へ出さねばならない。さうでなくて若し果して無暗に盲從附和したならば、國計民生を害すること蓋し測るべからざるものがあるであらう。歐米には歐米特有の社會があり、我等には又我等特有の社會があつて、彼此の人情風土各相同じからず、我等は自己の社會の實情に照し、世界の潮流に迎合し得るならば、始めてよく社會を改良し得、國家を進歩せしむることが出来るであらう。若し然らずして自己の社會状態にお構ひなしで、ただ世界の潮流に迎合して行くならば、國家は退歩し民族は滅亡の危険に遭遇しなくてはならぬ。我等にして中國を進歩せしめ民族の前途に危険なからしめんとするならば、自ら民權を實行し自己を根本としてその上に一種の辦法を創立しなければならぬ。

我等は民權政治に對して畢竟するに適當なる辦法を創出し得るや否や。我等が適當なる辦法を創造するがためには、全然歐米を模倣するは不可であるが、やはり歐米を鑑としなければならぬ。歐米の既往の民權の經驗を研究し明瞭ならしめねばならぬ。何故なれば、歐米の民權は充分なる發達を遂げてゐないし、又根本的解決も出来てゐないが、既に幾多の學者が民權に對しては日々研究を怠らず常に新しき學理を發明しつつあり、加之一百餘年の間の實行を経て來たもので、之

に依つて得たる經驗も亦少なからず、其の經驗と學理とは固より参考となるべきものがあるからである。若し歐米既往の經驗及び學理を参考としなかつたならば、多大の時間を空費し或は歐米の覆轍を踏まねばならないことになるであらう。

現在各國の學者は既往の民權の事實に基き研究の結果、幾多の新學理を發見した。其れは如何なる學理であらうか。最近政治問題に對し米國の一學者は言ふ。現在民權國に於て最も怖るべきは、人民が如何なる方法を以てしても之を節制することの出来ないやうな萬能政府を持つことである。又最も望まじきは、完全に人民の使用に歸し人民の爲めに幸福を謀る萬能政府を得ることであると。この所説は最新發明にかかる民權の學理である。但しその怖るところも欲するところも共に一個の萬能政府である。そして其の學理は先づ人民は彼等の管理し得ないやうな萬能政府を怖るものであることを説き、次に人民のために幸福を謀るものは萬能政府であるが、如何にしてよく政府を萬能たらしめ得るか、萬能政府たらしめたる上如何にして人民の希望を聽かしめんとするかを説いたものである。由來民權の發達した國家に於ては其の政府は無能であり、民權の發達せざる國家に於ては其の政府は有能であると言ふのが大體に於て一般の例のやうだ。例へば前にも述べたる如く、最近數十年來歐洲に於て最も有能なりし政府と言へば「ビスマーク」執

權時代の獨國政府であるが、當時の獨國政府は確かに萬能政府であつた。元來その政府は民權を主張せず寧ろ之に反對してゐたが、其れでもやはり其の政府は萬能政府となつた。其の他各國の例に照し見るに民權を主張する政府で萬能政府と言ひ得るものは一つもない。又「スイス」の一學者は言ふ。各國は民權實行後其の政府の能力は退化した。其の理由は即ち人民は有能なる政府に對し、此れを管理し得ざるを恐れ、常に政府を防範し、政府の有能なるを許さず、政府の萬能なるを許さないからである。故に民治を實行する國家は、本問題に對し何等か適當なる方法を以て之れを解決せねばならぬ。此の問題を解決せんが爲には人民の對政府態度を改めなければならぬ。従前人民が政府に對し事毎に反抗的態度を執つた理由は、民權革命經過後人民の争得した自由平等が餘りに發達し過ぎたからである。一般人民が自由平等を餘りにも無制限に使用し、自由平等のことゝ云へば充分過ぎる程やつたので、政府は少しも思ふやうに仕事をすることが出来なかつたのである。政府が思ふ存分仕事が出来ないやうでは、國家としては政府があつても政府のないと同様である。此の「スイス」學者は此の種流弊を挽救せんがためには、人民の對政府態度を改めねばならぬことを發見したが、果して彼は人民に如何なる態度を執れと要求したであらうか。人民の態度が政府に對し如何なる關係にあるか。

中國幾千年の歴史に就いて言へば、中國人は此の幾千年間政府に對して如何なる態度を採つて來たか。我等は歴史を研究するとき、そこに總じて人の堯舜禹湯文武を稱讚しつゝあるを發見する。堯舜禹湯文武の政府は之れ中國人の常に羨慕して已まざるところの政府である。中國人は何時如何なる時代に於ても、總じて人民に替つて幸福を謀つて呉れるやうな、さうした政府を希望してゐたのである。故に歐米の民權思想の中國傳來前、中國人の最も希望するものは即ち堯舜禹湯文武であり、彼等の如き皇帝さへあれば人民は安樂を得幸福を享受し得らるゝものと考へて居たものである。之れ即ち中國人從來の對政府態度でなければならぬ。近來革命經過後、人民が民權思想を得てからは、堯舜禹湯文武の諸皇帝に對しても不満を感じるに至り、彼等は專制皇帝である美また稱するに足らずとの考へを抱くに至つた。此れを以ても民權發達後は人民が政府に對し反抗的態度に出て、如何なる善良なる政府に對しても不満を感じるに至れるを知ることが出来よう。假りに若し斯様な態度を持続し此の儘成長させて行つたならば何うであらう。恐らく政治の進歩を望むことは至難であらう。今世界に於ける人民の對政府態度を改めしめんがためには、果して如何なる辦法を執らねばならないか。歐米の學者は、たゞ人民の對政府態度は改むべきものだと言ふ點に就いては考へ至つて居るが、肝心の其の具體的方法如何に就いては、まだ何等成案

がない。

我等の革命は民権の實行を主張してゐるが、余は研究の結果、本問題に對し一個の解決方法に到達した。余の解決辦法は實に世界に於ける學理中最初の發明であり同時に又本問題解決の一本方法であつたのだ。それは他でもない、最近「スイス」の一學者が發明したものと同様、人民の對政府態度を改めしめんとするにある。そして最近泰西に於てこの學理が發明せられたことは從來の余の主張の錯らざるを更に裏書するものでなくて何であらう。然らばこれは如何なる方法であらうか。即ち權と能とを區別せんとするの道理である。この權と能とを區別せんとする道理は従前歐米學者の間にまだ發明せられたことのないものである。權と能とを區別するとは果して如何なることであるか。この分別を明白にならしめんがためには、余の従前の新發明にかかる人類の區別に就いて再び物語らねばならぬ。

余の人類に對する區別は何に根據して居たか。即ち各人天賦の聰明才力に根據して居たものである。余の區別に依れば三種の人があるべき筈であつた。即ち第一種の人を先知先覺と言ふ。この種人は卓越せる聰明さを有して居り凡そ一事を見るや直に幾多の道理を想出し得、一言を聞いて直に幾多の事業を爲し得る態の人である。この種才力ある人こそ先知先覺である。この種先

知先覺者は、豫め幾多の辦法を想出し許多の事業を爲す。そして世界は彼等に依つて始めて進歩し人類亦彼等に依つて初めて文明となる。故に先知先覺者は世界に於ける創造者であり、人類中の發明家であらねばならぬ。第二種の人を後知後覺といふ。この種人は聰明才力共に第一種の人に比較して一段下であつて、自ら創造し發明することは出来ない。たゞ之に追隨して模倣すること、即ち第一種の人が既にやつて來た事ならば學べば出來ると言つた態の人である。第三種の人を不知不覺といふ。この種人は聰明才力に於て更にもう一段下である。何事を人から教へられてもその道理は分らず、たゞ行ふことだけ出來ると云つた種類の人である。現今の政治運動の言葉を藉りて言へば、第一種の方は發明家であり第二種の方は宣傳家であり第三種の方は實行家である。そして世界に於ける事業の進歩は一にかゝつて實行にある。従つて世界の進歩の責任はすべて第三種の人の双肩にある譯だ。例を引いて説明して見れば、一棟の大洋館を建築する場合普通の一般素人では造ることは出來ない。何うしても先づ一人の建築技師が必要である。そして洋館の各種建築材料に關し全般の見積り計算をしなければならぬ。その見積が出來てから詳細な設計圖を畫き、更にこれを棟梁に渡し、棟梁がその設計圖に就いて充分なる研究を遂ぐるを俟つて始めて勞働者をして材料を運搬せしめ、設計圖に隨つて工事を進めなければならぬ。洋館を建

てる労働者は誰れもこの設計圖を見ることは出来ない。彼等はたゞ棟梁の命するがままに、棟梁の指揮に随つて煉瓦を積み瓦を葺くと云つたやうな最も簡單なる仕事に従事する。又棟梁は棟梁で、見積りをしたり設計圖を引いたりすることは出来ず、唯技師の引いた設計圖の通りに、労働者をして煉瓦をたたみ瓦を葺かしむるだけである。故にこの場合設計圖を引く技師は先知先覺であり、設計圖を見る棟梁は後知後覺であり、煉瓦をたゞみ瓦を葺く労働者は不知不覺である。現今の各都市の洋館はすべて労働者棟梁及び建築技師の三者共同して出来上つたもので、即ち世界の大事業も亦同様、すべてこれ等三種の人に依つてなされたものである。けれどもその中の大部分を占むるものはやはり實行家であり即ち不知不覺者である。次に少數なるものは後知後覺のもの最少のものは先知先覺の才人である。もし果してこの世界に先知先覺者がなかつたならば何事も發起する人はないであらう。又後知後覺者がなかつたならば何事にも賛成する人がないであらうし、又若しも不知不覺のものがなかつたならば何事も實行する人がないであらう。凡そ世界の事業には何事にも先づ發起人が必要である。然る後之に賛成する幾多の人がなければならぬ。そしてその又後に幾多の實行家を必要とする。かくて始めて成功し得る。故に世界の進歩はすべてこの三種の人に依らねばならぬ。その中何の一種の人が缺けてもすべてに不可能である。現在世

界の國家は民權を實行し政治を改革してゐるが、それ等改革の責任は、當然これ等三種の人々の分擔せねばならぬところのものだ、所謂先知先覺者も後知後覺者も將又不知不覺者も各その一分の責任を負はねばならないのだ。我等は民權は天生のものではなく人の造成したものなることを知らねばならぬ。そして我等は率先して民權を造成し人民に與へねばならぬ。人民の來つてこれを争ふを待つて始めて彼等にこれを與ふるが如きことがあつてはならない。

數日前

(九 行 削 除)

分が不知不覺者であつて、今後幾千年経つても恐らく人民の全體が民權を争ふ程自覺するといふことは殆ど豫期し得られないから、是非とも先知先覺者及び後知後覺者を以て自任する人が、日本人の如く専ら自己の打算からではなく、率先して人民に替つて打算し全國の政權を人民に與へるやうにしないでほしいと思ふ。

これ迄語つて來た通り、歐米には今以て民權問題に對する解決辦法がない。今日我等は民權問題を解決せんとするものであるが、若し歐米その儘を見倣ふやうであればとても解決は出來ないであらう。既に歐米その儘を倣ふべきものでないと言ふことが分つて見れば、當然我等自ら一種の新方法を想出してこの問題を解決しなくてはならない。この新方法は「スイス」の學者の最新發明にかかる人民の對政府態度の改變である。然し乍ら態度を改めんがためには、即ち權と能とを分離しなければならぬ。然らば權と能との分解方法は如何に。我等はこの點明瞭に研究しなければならぬ。即ち前に繰返し述べた情形を重ねて再説する必要がある。第一には民權とは如何なるものであるか。簡言すれば民權は即ち人民が政治を管理することである。更にこれを詳論すれば、従前の政治は何人に依て管理せられたか。中國の古語に曰く「不在其位、不謀其政」と。又曰く「庶人不議」と。斯様に従前の政權は完全に皇帝の掌中にあり、人民は一切これに無關心で

あつたものだ。今日我等が民權を主張する所以は政權を人民の掌中に置かんとするにある。その場合人民は如何なるものと成るであらうか。中國は革命以來民權政體を樹立し、萬事人民を主とすることとなつた。故に現在の政治は又民主政治と云ふことも出來やう。換言すれば、共和政體の下に在つては人民を以て皇帝と爲し、人民即ち皇帝である譯だ。

中國幾千年の歴史に顧みるに實際に政治の責任を負ひ人民の爲に幸福を謀つた皇帝と云へば堯舜禹湯文武の外にない。その他の皇帝にして政治の責任を負ひ人民のために幸福を謀つたものとは一人もない。故に中國幾千年の皇帝の中、政治の責任を負ひ、上天に愧するなく下萬民に慚するところのなかつたのは、堯舜禹湯文武の諸帝のみと言はねばならぬ。彼等がよくこの目的を達し得て、我等をして幾千年後の今日、皆その功を歌ひその徳を頌せしむる原因は、彼等に二つの特別の長所があつたからである。その第一の長所は、彼等の政治的手腕が非常に卓越してゐた點である。彼等はその卓越した政治的手腕に依て、よく一個の良政府を造り人民のために幸福を謀ることが出來たのである。第二の長所は彼等の道德が非常に尊敬すべきものであつたからである。所謂「仁民愛物、視民如傷、愛民如子」と云つたやうな仁慈なる道德があつたのである。彼等にはこの二つの長所があつたがために、政治に對し完全にその責を負ひ、その目的を完全に達すること

が出来たのである。中國幾千年來たゞこれ等數人の皇帝のみが後人から崇拜せられその他の皇帝に至つてはその數は勿論のこと、甚しきはその姓名すら記憶されて居ないのである。歴代皇帝の中ただ堯舜禹湯文武のみが最も卓越せる政治的手腕と最も尊敬に値する道德とを持つてゐたに過ぎず、その他のものは大體に於て何等その政治的手腕道德の認むべきものがなかつたと言つてよい。斯様に手腕もなければ道德もないと云つた皇帝ではあつたが、彼等には非常な權力があつた。

諸君は中國の無數の歴史を讀んだことがあらう。就中三國演義は殆んど總べての人が讀まれたに違ひない。我等は三國演義を藉りて、權と能とを分つべきことに就いて證明して見よう。例へば、諸葛亮は、非常なる才學、卓越したる能力才幹を持つてゐた人であるが、彼の輔佐した主と言へば、先には劉備、後にはその子阿斗である。阿斗は凡庸且つ愚昧何等の能力才幹をもつてゐなかつた。だから劉備は死に臨み諸葛亮に遺言して曰く「輔くべくんば之を輔けよ輔くべからずんば取つて之に代れ」と。劉備の死後諸葛亮の持つてゐた道德は尙極めて善良なるものがあつたがため、阿斗は何等用をなさなかつたにも拘はらず、諸葛亮は依然忠心これを輔佐したもので、所謂鞠躬盡瘁死して後已むと云ふ風であつた。斯様に君權時代に於ては、君主は何等能力才幹はなくとも非常な權力だけは持つてゐたもので、三國の阿斗と諸葛亮との關係は此の間の消息を明かに物語

つてゐる。諸葛亮は有能ではあつたが權がなかつた。阿斗は權があつたが無能であつた。阿斗は無能ではあつても一切の政治を諸葛亮に付託して行ふことが出来、諸葛亮が非常に有能であつたがため、西蜀に在つてよく非常に善良なる政府を樹立することが出来たのである。又同時に六たび祁山を出でて北伐し吳魏と共に鼎立し天下を三分することも出来たのである。諸葛亮と阿斗との兩人を比較することに依つて我等は其處に、權と能との區別を知ることが出来ると思ふ。

專制時代に於ては、父兄の皇帝たる場合その子弟たるものは、何等能力才幹なきものもよく父兄の業を繼承して皇帝となることが出来たものであるから、無能な人も亦非常な權を有してゐたのである。現在では共和政體を樹立し民を以て主として居るが、諸君試みに看よ、この四億人は何の種類に屬する人であらうか。言ふ迄もなく此の四億人は全部が先知先覺者ではあり得ないし、又後知後覺者としてもそんなに多數あらう筈もなく、大部分はすべて不知不覺の人である。現在の民權政治は人民を主とせねばならないから、此の四億人は皆非常な權を持つてゐる。全國を通じ非常な權力を有し政治を管理し得るものと言へば、とりもなほさず此の四億人の人でなければならぬ。諸君想ふても見るがいい、現在此の四億人が政權の一方面から言へば、如何なる人に相當してゐるかを。余の見たところではこの四億の人は悉く阿斗同様である。即ち現在中國には四億

の阿斗がある譯で、それ等の人々はすべてが非常な權を有つてゐるのである。阿斗は本來無能であつたが、諸葛亮てふ有能の士があつたがため、劉備の死後尙よく西蜀を治理し得たのである。現在歐米の人民は有能の政府に反對して居る。「スイス」の學者は、此の種流弊を挽救せんがために、人民の態度の改變を主張し有能の政府に反對するを不可としたのである。けれども態度が改められた後、果して如何なる辦法を用ひんとするかに就いては彼等は未だ發明してゐない。余の既に發明したところのものは、權と能とを分離せんとするにある。之に出つて人民の對政府態度は始めてよく改變せらるるものと信ずる。若しも權と能とを分つことが出来なかつたならば、人民の對政府態度は絶対に改變せしむることは出来なからう。當時阿斗は自己の無能なるを知つて國家の全權を擧げて諸葛亮に託し、諸葛亮は彼に替つてこれを治理した。故に諸葛亮が出師の表を上るや、阿斗に建議して宮中府中の別を明かにすべきを以てした。此れ宮中のこと位は阿斗にでも出来るが、府中のことは阿斗自らこれを行ふことが出来ないことを慮つてのことに他ならない。府中のこととは如何なることであるか。即ち政府のことである。諸葛亮が宮中府中を區別したのは、とりもなほさず權と能とを分つたのである。故に我等も國家を治理するには必ず權と能とを分たなければならぬ。果して然らば、其の分離の方法は如何に。諸君は遠大なる眼光と冷靜な

る見解とを以て、世界の事物を觀察せねばならぬ。其れでこそ之れを明かに分開することが出来るであらう。一般に今でも政府に對して一種特別の觀念を有してゐるが、この觀念は果して如何にして發生したのであらうか。其れは幾千年來の專制政體に發因する。幾千年來の專制政體は、大體に於て無能なるものが皇帝となり人民はすべて皇帝の奴隸であつたと言へる。即ち中國四億萬人は幾千年來奴隸となつて來た譯である。故に今や專制を推翻して共和政體を樹立し表面的には如何にも解放せられてはゐるものの、人民の心目の中には依然專制當時の觀念が存在し、やはり皇帝同様の政府が專制を行ふことを怕れてゐる。皇帝同様の政府によつて專制の行はるることを恐るるが故に、彼等は之を打破せんとする。そして其處に政府反對の觀念は生れ、政府に反抗的態度は表示せらるると云ふことになる。故に現在の人民が政府に反抗するの態度は、やはり従前の皇帝崇拜の心理が一變して反動的に政府排斥の心理となつたものと言へやう。勿論従前の皇帝崇拜の心理は正しいものではなかつたが、現在の如く一概に政府を排斥せんとする態度も亦餘り憂むべき態度ではない。

我等にしてこの種正しからざる心理を打破せんとするには、幾萬年幾千年前の政治歴史を回顧しなければならぬ。回顧することに依つて始めて之を打破し得るであらう。例へば專制的皇帝の未

發達前に於ては、中國の堯舜の如きは又とない結構な皇帝であつた。彼等は公天下であつて家天下ではなかつた。當時中國の君權はまだ充分なる發達を遂げて居なかつたが、堯舜以後漸く發達の緒に就いた次第である。堯舜以前に於ては、まだ君權といふ程のものはなく、すべて有能の人を奉じて皇帝とすると云ふ風で、人民に替つて幸福を謀り得る人にして始めて政府を組織することが出来たものである。例へば、前述の人獸鬭争の野蠻時代に於ては、國家の組織も完全でなく人民は何れも「聚族而居」と云つた状態で、一人の有能な人に依て保護せられて來た。そして當時の人民は皆毒蛇猛獸の侵害を恐れたがために、一個有能の人を奉じて保護の責を負はしめんとしたのであつた。當時に於ける保護の任務と言へば、即ち能力あるものが獸と戰ふことであり、毒蛇猛獸に打勝ち得た人が當時では能力才幹あるものとされてゐた。當時人獸相鬭ふには武器とはなく赤手空拳によつたものであるから、個人は體力氣魄共に非常に強壯でなければならなかつた。従つて當時に於ては人々は體力氣魄の非常に強壯なものを奉じて皇帝としたものである。尤も中國には尙この外に例外があつて、單に鬭に強いものが皇帝たり得た以外に、例へば燧人氏の如きは、木を鑽つて火を取り人に火食を教へ動植物を生食するの危険より避けしめ、更に種々な美味を製出して口腹の欲に適せしめたので、世人は彼を奉じて皇帝としたと言ふやうなものも

ある。木を鑽り火を取て人に火食を教へると云へば、其れは如何なる人のやる仕事であらうか。即ち料理人のやることである。故に燧人氏は木を鑽り火を取て人に火食を教へて皇帝となつたのであるから、料理人が皇帝となつたと云ふことも出来る。又神農氏は百草を嘗めて幾多の疾病を治し、起死回生せしめ得る幾多の藥性を發明した。即ち此の一事は、非常に珍らしい非常に功勞ある仕事と云はねばならぬ。故に世人は彼を奉じて皇帝とした。百草を嘗めることはどんな人のすることであらうか。即ち醫者の仕事である。故に神農氏は百草を嘗めて皇帝となつたのであつて、醫者が皇帝になつたと云ふことも出来る。更に軒轅氏は民に衣服を作ることを教へて又皇帝となつたが、これ即ち裁縫で皇帝となつたものではないか。有巢氏も亦民に宮室を營むことを教へて皇帝となつたが、之れ即ち大工で皇帝となつたものではなからうか。故に中國幾千年以前の歴史を見て來ると、單に鬭ひ得る人を以て皇帝とした許りではなく、何事に限らず非常な大能力大才幹があつて新しい發明を成し遂げ、人類に貢獻した人は誰でも皇帝となることが出来、政府を組織することが出来た。即ち料理人、醫者、裁縫師、大工といつた特別の能力才幹のある人もすべて皇帝となることが出来たのである。曾て米國の一教授丁健良(William P. Martin)なる人が、或日北京西山の見物に行つたことがあるが、途中一農夫に遇つて話を交したところ、其の農夫が丁

蹇良に問ふて言ふには、外國人は何故中國に來て皇帝にならないのかと。了蹇良は之に反問して曰く、外國人でも皇帝になることが出来るかと。そこで其の農夫は、田の畦道に架設せられた電線を指して云ふやう、此のやうなものを造り得る人ならば中國の皇帝となることが出来るかと語つたとのことであるが、思ふに此の農夫は、一本の鐵線で消息を通じ書信を傳へることが出来るのであるから、斯様な鐵線を造り消息を通じ得る人ならば當然非常な手腕のある人でなければならぬ。斯様な大手腕のある人ならば皇帝たり得べきは當然であると云つたやうな考へ方をして居たに違ひない。これ等から見ても中國人は一般に大手腕ある人ならば誰でも皇帝たり得るもの考へて居るであらうと言ふことが證明出来ると思ふ。

中國は堯舜以後歴代皇帝漸次專制となり、何れも家天下となつて人民が自由に手腕ある人を擁戴して皇帝とすることが許されなくなつた。假に若し今四億の人が投票の方法を以て皇帝を選舉する場合、之に與ふるに充分なる民權を以てし、人民が自由に投票することを得せしめ、絲毫も別種勢力の干渉を受けないものとし、之れと同時に又堯舜を再生せしむるものと假定したならば、人民は果して誰を皇帝に選舉するであらうか。余は必ずや堯舜を舉げて皇帝たらしむるに相違ないと考へる。元來中國の皇帝に對する心理に歐米人のそのやうに左程に深惡痛絶ではない。何

故なれば中國皇帝の專制は歐洲の其れの如く餘り猛烈ではなかつたからだ。實際歐洲に於ては二三年前皇帝の專制其の極に達し、人民のこれを見ること洪水猛獸の如く非常に彼等を恐れたものである。だから人民は單に皇帝を排斥せんとする許りか、皇帝と非常に接近して居る。例へば政府と言つたやうなものも亦一齊に排斥せんとするのである。歐米に於ては現に民權を實行して居り人民には大きな權があるのであるから、政府を排斥する位のことには實に極めて容易である。西蜀の阿斗の如き諸葛亮を排斥せんとすれば事更に容易ではないか。若し果して阿斗にして諸葛亮を排斥して居たならば、果して西蜀の政府は能く長久たり得たであらうか何うか。六度祁山を出で、北伐を實行し得たであらうか何うか。阿斗は此の一事を見察して居たが故に、政治の全權を悉く舉げて諸葛亮に付託し、内政の整理と云はず南征と云はず一切彼に依つた。即ち六度祁山を出で、北伐するにも亦彼に依つたのである。我等は今民權を行ふ。四億の人はすべて之れ皇帝である。即ち四億の阿斗である。そしてこれ等の阿斗は當然諸葛亮を歓迎して政事を管理せしめなければならぬ。又國家の大事業を爲さしめねばならぬ。現に歐米に於ては、民權を實行して居るが、その人民の態度は總じて政府に反抗的である。其の根本原因は即ち權と能とを分けてゐないところにある。中國にして若し歐米の覆轍を踏むことを希望しなかつたならば、余の發明にかか

の學理に照し、權と能とを明に劃分しなければならぬ。人民が權と能とを分離すれば政府に反對するの要なきに至り、政府は之に依て始めて發展を望み得るであらう。中國に於て權と能とを分つことは、事極めて容易である。何故なれば中國には阿斗と諸葛亮の先例を援用し得るからである。若し果して政府が善良であつたならば、我等四億のものはこれを目して諸葛亮と思ひ、國家の全權を擧げて悉く彼等に委するに躊躇しないであらう。之に反し若し果して政府が不良であつたならば、我等四億人は皇帝の職權を實行して彼等を罷免し國家の大權を回收することが出来るであらう。歐米の人民は政府に對し權と能との限界を分かつことを知らぬ。故に彼等の民權問題發生して既に二三百年、今尙ほ解決することが出来ないのである。

我等は今權と能とを分つべきことを主張した。我等は更に古時と現在との事實を比較して語らねばならぬ。古時能く闘ふものは、人之を奉じて皇帝とした。現在の富豪の家庭に於ても亦幾人かの壯士を雇つて保護せしめてゐる。上海に居住する軍閥官僚が、各省に於て人民の膏血を絞つて蓄めた莫大なる財産を上海に運び租界内に居住し、人の襲撃及びユスリを恐るるため、幾人かの印度巡查を雇つて門番をさせてゐるの等はその一例だ。ところで古への道理に照して云へば、よく人を保護し得るものが皇帝となり得たのであるから、それ等官僚軍閥を保護する印度巡查も彼

等官僚軍閥の皇帝とならなければならぬ筈だ。然るに現在のそれ等印度巡查達は、皇帝になるどころか、それ等官僚軍閥の家事にさへも口を出すことを決して許されない本當の門番なのだ。従前赤手空拳の闘士が悉く皇帝となつたのであるから、本來から云へば現在の長銃をもつてゐる印度巡查も亦當然皇帝とならなければならぬ筈である。然るに彼等官僚軍閥は彼を皇帝たらしめず却て之を奴隸たらしめてゐる。この種奴隸は銃を持つてゐて非常に能力あるにも拘らず、それ等官僚軍閥は、ただ物質的に幾許かの金を與へるのみで、名前だけでも彼等を皇帝と呼ぼうとはしないのである。斯く言へば、古への皇帝は現に門番をする印度巡查と見做すことが出来、現在の印度巡查は即ち古への皇帝であると言ふことも出来る譯だ。再び一步を進めて云へば、人民を保護する皇帝を門番と見做すことが出来れば、人民として何處に彼を排斥するの必要があらうか。

現在金持等は會社を組織して工場を開辦する場合、必ず一人は手腕家を聘して總辦として工場を管理せしむる。この總辦は専門家で即ち有能の人であり、株主は即ち權を有する人である。そして工場内のことは總辦に於て一切の經營に當り、株主は單に總辦を監督するのみである。例へて云へば、現在民國の人民は即ち株主であり、民國の大統領は即ち總辦である譯だ。我等人民た

るものの政府に對する態度は、正に彼等を専門家として取扱はなければならぬ。斯様な態度で行つてこそ、株主はよく總辨を利用し工場を整理し最少の資本を以て最多の貨物を製産し、會社をして大なる利益を上げしむることが出来るのである。現在歐米の民權の發達せる國家に於て、その人民が政府に對して斯様な態度を執つてゐるところは一つもない。従つて手腕家を利用して政府を管理せしむることが出来ないのである。そしてこれがため政府の人物を悉く無能なもの許りにして了ふ。故に民權の發達を却て甚しく遅延せしむる結果となり、民主國家の進歩が却て日本及び獨逸の如き專制國家のその迅速なるに及ばず、非常に緩漫なものとなつて了ふのである。日本は明治維新後僅に數十年にして富強となり、獨逸も亦非常な貧弱な國家であつたが「ウイルヘルム」一世及び「ビスマルク」執政のときに至つて、聯邦を結合し精勵治を圖り幾十年ならずして覇を歐洲に唱ふるに至つた。その他民權を實行する國家は、日本や獨逸の進歩の如く一日千里と云ふ譯には行かない。この原因を探究するに、即ち民權問題の根本辦法の未解決なるがために他ならない。若し果してこの問題を解決せんとするならば、須く國家の大事を擧げて手腕家に付託せねばならぬ。

現在歐米人は何事をするにもすべて専門家を使用して居る。例へば兵を練り戰爭を爲すにも軍

事家を用ひ、工場を開辦するにも技師を使用し、政治に對しても亦専門家を用ひなければならぬ。ことは知つてゐるのである。而も今日迄政治の専門家の使用を實行し得られなかつた原因は、即ち人民の舊習を未だに改良することが出来ないからである。けれども現在の如き新時代に至れる以上、是非とも權と能とを分たねばならぬ。そして大抵のことは必ずこれを専門家に委せ切り、決して専門家の力を制限するやうなことがあつてはならない。最新發明せられたる最も便利な日用品たる自動車は、二十餘年前始めて之が製造せられた頃は、運轉手もなければこれを修理する職工もなかつた。従前余の一友人で自動車を一臺買ったものがあつたが、彼は運轉手から機械の修繕までしなければならず、何から何まで自分でやると云ふことは仲々困難なことで非常に面倒であつたとのことだ。それが今では運轉手でも機械職工でも、自動車の持主が金を出して備ひさへすれば、自分に替つて運轉もし修理もして呉れるのである。これ等運轉手及び機械職工は即ち自動車の運轉及び修理の専門家であつて、彼等なくては我等は自動車を動かすことも修理することも出来ない。國家は例へて言へば、一輛の自動車である。政府の官吏は即ち一大運轉手である。歐米の人民は、最初民權を獲得した頃は適當な専門家とてなく、恰も二十餘年以前に金持が一輛の自動車を買つて何から何迄自分で修理し、自分で運轉せねばならなかつたと同様であつた。併し乍

ら現在では幾多の手腕ある専門家があるのであるから、權力を有する人民は是非とも彼等を聘請しなければならぬ。然らざれば、自ら運轉し自ら修理せねばならない。所謂「自ら煩惱を尋ね自ら痛苦を探す」とは即ち正にこの比喩である。更に自動車を駛らせる運轉手は有能にして無權なるもの、自動車の主人は無能にして有權なるものと便宜區別することが出来る。この有權の主人は有能なる専門家に依て自らに代つて自動車を運轉せしめなければならぬ。民國の大事も亦これと同じ理窟であつて、國民は主人であり即ち有權の人で、政府は専門家であつて即ち有能の人なる譯である。この道理でゆけば民國の官吏は、彼等が大總統であらうが内閣總理であらうが將又各部總長であらうが、我等はすべて彼等を運轉手たらしむることが出来、たゞ彼等が手腕あり忠心國家のために仕事をする人でありさへすれば、我等は安じて國家の大權を彼等に付託すべきである。その彼等の行動を制限せず萬事彼等の自由にその手腕を振はしむべきだ。斯の如くして始めて國家は進歩し、而もその進歩たるや極めて迅速なるものがあるであらう。若し然らずして、萬事萬端自ら處置せんとし、或は折角専門家を聘請し乍らもその一舉一動を牽制し、彼等の自由行動を許さなかつたならば、國家の進歩到底望み難く、よしんば進歩してもその進歩は頗る緩慢であるであらう。

這間の道理を明かにせんが爲余は最も適切なる一故事を引用して證明して見よう。以前余が上海に居た頃、一日一友人と一寸した相談があつて、ある時間迄に虹口で會ふ約束をしたことがある。ところがその日は來たが、約束した時間を何うしたことかふと忘れて了つて、やつと約定時間の十五分前になつて想ひ出したものである。當時余は佛蘭西租界に住つてゐたが、そこから虹口迄の道程は可成り遠く仲々十五分間では行き着きさうにもなかつたので、余はすつかり狼狽して自動車の運轉手を呼んであわてて彼に十五分間に虹口迄行けるか何うかを聞いたものである。すると其の運轉手は答へて必ず行きますと云ふ。そこで余は乗車して運轉手の自由に駛らせることとして目的地に向つて出發した。余は元來上海の道路には非常に詳しかつたので、佛蘭西租界から虹口に至る間は恰度廣州の沙基から東山に至るのと同様、必ず「バンド」と蘇州河口の「ガーデンブリッジ」を通過するのが一番の近道であることを知つて居た。ところが余の運轉手は何うしたものか發車後駛る路を見ると、「バンド」、「ガーデンブリッジ」を通らないで、彼は先づ豊寧路から更に德宣路を曲つて、小北門を走り然る後始めて大東門をして東山にと到着したものである。當時自動車は全速力で駛つて居り非常な爆音を立てて居たので、余には運轉手の話が判らず、心中甚だ奇怪に思ひ運轉手を恨むこと甚しく、如何にも其の運轉手が余を邪魔するために、故

意にさうした彎曲した路を駛つて時刻を遅らせやうとするものでもあるやうに考へたことであつた。これは恰度政府が特別の事情から非常のことをする場合、何にも知らない人民の間に幾多の誤解を發生して政府を非難すると同様である。ところが、案外にもその運轉手は、その道路を選んで駛り十五分足らずで虹口に到着した。余は辛じて怒氣を抑へながら、運轉手に向つて何故其の様な彎曲した道を駛つたのかと尋ねた處、其の運轉手の答へて謂ふには、若しも直線道路を駛らうとして大馬路を通過せんか、大馬路は電車、自動車、人力車及び行人貨物の往來非常に激しく混雜を極め仲々駛り抜けることは出来ないからだとのことであつたので、余は始めてつい先きまで誤解して居たことが明白になり、余の駛らんとした大馬路及び「ガーデンブリッジ」のその道筋は單に距離の點のみしか老へて居なかつたことが始めて判つた。其の運轉手は自分の經驗から自動車の速力は非常に速く、一時間三四十哩を駛るのであるから少し位彎曲して數里位餘計に走つても自動車の速力さへ少し増せば一定の時間内に到着し得ることを知つて居たのである。彼の斯の如き打算は、時間の點から着想したもので、其の運轉手は元來學者ではなかつたから、時間と空間とを打算することなど知らう筈はなかつたのであるが、何しろ彼は運轉の専門家であつたがため自動車には距離を短縮する能力があり、若し速力さへ増せば、彎曲した道を多少餘計に駛つても

尙よく十五分間に虹口に至り得ることを知つて居たのである。當時假に若し余が運轉手に全權を與へて彼の自由に駛らしめず、余の走法に依らしめんとしたならば、必ずや時間迄に間に合はなかつたであらう。ただ余が彼の専門家たることを信じて彼を掣肘せず、彼の隨意の路を駛らせが爲によく豫定の時間内に間に合ふことが出来たのである。そして其間余は此の種専門家でなかつたがため、當時その運轉手が彎曲した路を駛るのを見て、何故彎曲した路を駛らねばならぬかの道理が判らず誤解を發生したのである。民國の人民は皆國家の主人である。其の對政府態度は余の虹口に至りし際の運轉手に對せしと同様の態度を學び、彼政府をして走路の運轉手たらしめねばならぬ。斯の如き眼光を持ち得ることに依て人民の對政府態度は、初めて改變することが出来ると云ふものだ。

歐米人民は現に彼等の政府に對し反對の態度を持って居るが、これは權と能とを分たないからで、故にその民權問題も今日なほ解決することが出来ないのである。我等は民權を實行するに何等歐米を學ぶ必要はない。ただ權と能とを明かに分てばそれでいい。民權思想は歐米から傳來したものであるけれども、歐米の民權問題は今尙解決すべき辦法がない。現在我等は既に此の辦法を想出し、そして人民が如何にすれば、其の對政府態度を改變し得るやを知つた。併しながら、

人民の殆ど全部は不知不覺者であるから、我等先知先覺者たるものは、彼等を指導してやらねばならぬ、彼等を導いて軌道の上を歩ましめねばならぬ。かくて始めてよく歐米の如き紛亂を避くるを得、彼等の覆轍を踏まずに濟むであらう。現在のところ歐米の學者の研究は人民の對政府態度は正しくないから改めなければならぬと云ふところに到着して居るだけで、其の改變の具體的方法に至つては、未だ考へ及んで居ない。余は現在既にこの方法即ち權と能とを分つの方法を發明した。國家の政治に至つては、その權が人民にあることが根本的必須條件であるは固よりながら、政府を管理するには何としてもこれを有能の専門家に付託せねばならぬ。けれども、それ等専門家を非常に光榮にして且つ尊貴なる總統總長として待遇するの必要はない。ただ單に彼等を自動車の運轉手又は門番の巡查或は飯を炊く料理人或は病を診察する醫者或は衣服を作る裁縫師であると思へばいい。要するに彼等を如何なる種類の労働者と思ふても構はない、それは隨意である。人民が斯くの如き態度を有することに依て、國家は初めて辨法あり始めて進歩することが出来るであらう。

第六講 完全なる民權政治機關は何か 結論

現在歐米の政治家及び法律學者は政府は機器であり法律は機器の中の工具であると説いてゐる。中國の政治法律の書籍は殆どすべて日本のものを翻譯したものであるが、日本人は政治組織を譯して機關と言つてゐる。機關は即ち中國人の常に言ふところの機器を意味する。我中國に於ては従前機關と云へば機會の意味であつたが、日本人が政治組織を譯して機關と言ふやうになつてからは機器の意味と同じになつた。だから従前政府衙門と言ふたものは、今では行政機關財政機關軍事機關教育機關などと言つて居る。そして此の種機關の意味は、日本人の所謂政府機關と全然同様に解釋すべきもので其の間何等差別はない。現在機關と言へば即ち機器のことである。恰も機關銃と言へば機器銃であると同様に、斯様に機關と機器との二つの名詞は全然同一の意味なのである。機關と機器との意味が同じであるところから、行政機關は行政機器と云ふことも出来る。然らば行政機器と製造機器との區別如何。即ち製造機器は完全に物質を以て造られたもので、例へば木材鋼鐵及び皮帶等種々なものを寄せ集めて製造機器を造るのである。ところが一方行政機器は完全に人を以て組織せられたもので、其の種々な動作はすべて人力に依て發動し物力

に依て發動するものではない。従つて行政機器と製造機器とは非常な區別があり、最も緊要な區別がある譯で、即ち行政機器は人の能力に依て活動するものであり、製造機器は物の能力に依て發動するものだ。

前數次に互つて講義した民權の情形に照せば、近來の歐米文化は非常によく發達し文明も頗るよく進歩してゐることが判る譯であるが、これを分析するに、彼等の物質文明例へば製造機器の如きものの進歩は極めて速かではあるが、人爲的機器に至つては政府機關などの如く其の進歩は頗る緩慢である。此の理由は何處にあるか。即ち物質機器は之を實驗することが容易で、實驗の結果其の不良なるものはこれを放棄し不備なる點はこれを改良すると云ふことも容易であるが、これが人爲的機器になると仲々さうは行かず、これを試験すると言ふことも非常に困難で、又試験の結果、よしんば不良であつても、これを改良すると言ふことは仲々容易ではない。假りに若し改良せんとするならば革命に非ずんば不可である。若しさうでなかつたならば、不良な物質機器同様廢鐵になるのが關の山でとても改良など出來たものではない。斯うした理由で歐米の製造機器の進歩は極めて迅速であつたが、行政機器の進歩は非常に緩慢であつたのである。例へば民權の風潮が歐米に發生後、各國は何れも民權を實行せんとした。其の中最も早きものは米國であつ

た、ところが米國は開國以來今日に至る迄一百四十年にもなるに拘らず、建國當時行つた民權は現に行はれつつあるものと大した變りはない。現在の憲法は即ち建國當時の聯邦憲法である。そして其の聯邦憲法は一百餘年を経過したが、根本上何等大なる再改もなく今尙ほ應用せられて居る。ところが大多數の製造機器は何うであらう。之等は僅か一百餘年來の發明に過ぎず、それ以前の前式機器は今では之を使用する人もないではないか。従前の舊式機器は夙の昔廢鐵と變つて了つたのである。現在農工商業に用ひらるゝ機器は十年以前のもは一つとしてない。十年毎に幾多の新發明があり幾多の新改良があつて年と共に進歩して行く。一百餘年前の行政機關に至つては今尙ほこれを適用して居る。これ即ち人を使用して活動する機器なるがため、其の中にあつて活動する人は勿論隨時取換へることが出来るけれども、其の全體の組織の根本的改造に至つては、何分因習の久しく因果相めぐる有つて、仲々容易に出來ないからだ。革命を行はずして平和裡に改造しつつ舊組織を完全に棄てて了ふと言ふことは、全く不可能なことであるのだ。かるが故に歐米の物質機器は近來非常に容易に發達し、進歩も亦頗る速かであつたに拘らず、人爲的機器に至つては從來其の進歩は仲々困難で、假令進歩はしても其の速度は極めて緩慢なるを免れ得なかつた。

余は前二回の民権の講演に於て、歐米の民権政治には今尙ほ根本的辨法なきを説いた。彼等は何が故に辨法がなかつたのであるか。即ち彼等は人爲的機器に對する精密なる實驗を缺きたるが爲に他ならない。物質的機器に至つては、發明當初より現在に至る迄に、古人は幾千回の實驗と改良とを重ねて、その結果漸く今日我等が見るやうな機械が出来たのである。現在我等が見るところの機器から最初の發明時代を回顧すれば如何なる状態にあつたであらうか。諸君の中に若し機械史を讀んだ人があれば一つの非常に興味ある故事を知つてゐるであらう。例へば發動機の歴史に就いて云へば、最初發明せられた頃は單に一方向の動力だけで、現在の如く兩方向の動力はなかつた。現在色々な工作の機器には汽車汽船の如く、すべて二方向の動力があるが、その動力を何うして起すかと言へば、水を汽罐に充しその底で石炭を燃焼せしめ火力を強くし水を沸騰せしめ水蒸汽を造る。水が水蒸汽に變ると極めて大なる膨脹力を生ずる。この水蒸汽を「パイプ」を以て汽罐中より一個の機器箱に導く。この機器箱を中國語では「活塞」と云ひ、外國語では「ピストン」と呼ぶが、この活塞が機器をして發動せしむるもので器機全體の中最も緊要な一部分である。機器が發動する所以はこの活塞の一端から水蒸汽を受納した後膨脹力に依て活塞を推動し活塞を進せしめる。蒸汽力が活塞の一端に於て使用し盡された時は、更に他端より新しき蒸汽が注入せ

られ再び活塞を推戻す、かくして蒸氣は絶えず活塞を往復せしめ従つて機械全體も運動して息まないのである。従前この運動を起さしめる原料としては水を使用して居たが、現在では「ガソリン」を使用する。この油は非常に揮發し易いもので化して氣體となり活塞を推動する。各種機器の運動の原料として水を用ひても或は油を用ひても理窟は同じである。活塞の運動は往復して已まざるためこれに依つて機械を旋轉せしめ、我等は如何なる工作をも欲するままになし得る。例へば船を動かし車を引くが如く、何んな工作でも出来るのである。即ち路を走る機器は一日よく幾千里を走ることが出来、運轉の機械は欲するだけの貨物を載せて運送することが出来るのである。これ等の機器も今日では巧妙極まるものであるが、その發明當初に於ては如何なる状態であつたらうか。發明當初に於ける活塞の構造は至極簡單なもので、ただ一端から蒸氣を接收して活塞を推して行くだけで、再び他端から蒸氣を接收して活塞を推戻すことは出来なかつたものだ。従つて當初活塞の運動は、ただ前進の一方方向を有するのみで再び回つて来る方向はなかつたのである。斯様な原因から従前機器を使用して仕事するには尙ほ幾多の不便があつた。例へば始めて發明せられた綿打機の如きも、機械一臺毎に一人の子供を使用し機械の傍に立たしめ、活塞が前進した後子供は手を以てその活塞棒を引戻し、然る後又蒸氣が出て再び活塞を推すと言つた譯で

一往復には一々小供の助けを借りねばならなかつた。これを現在の活塞が往復ともに人の助けを要しないのに比較して、何と云ふ不便さであつたらうか。その後何うしてかくも便利なる活塞を造ることが出来たのであらうか。その間如何なる順序を履んで来たものか。當時その種機械を製造する技師には活塞を引戻す方法が頓と判からなかつた。當時棉花工場と言つても、もともと餘り大きなものではなく、使用せられて居る機械力も唯一方向のものに限られ、その上一工場内にはただ十有餘臺の機械があつた許り、そして一臺の機械に一人の小供を使用しこれを幫助せしめて居たのであるから、十餘臺の機械があつても十數人の小供を使用するに過ぎなかつた。それ等の小供達は、日々その機械を引戻すことが仕事で、何時も同じ動作のみを繰返してゐたので、頓と興味もなく、果ては非常に倦怠を覚えるやうになつた。子供等が仕事に倦怠を覚え始めた爲に、職工長の監督が必要となり、これが爲小供等は懶けることが出来なくなつたが、その代り職工長が場を外せば、すぐ機械を引く手を止めて、イタズラをしようと云つた有様であつた。斯うした小供達の間には、一人の非常に聰明で又非常に懶怠な子供があつたが、彼は手を働かせて一々その機械を引張るのをいやがつて、一方法を案出して手に代つて引張らせたものである。それは何うしたかと言へば、一本の繩と一本の棒とをその機械の上にしぼりつけ、活塞が前進した後また自動的に引戻す

ことが出来るやうにしたもので、お蔭でその小供は活塞を引戻すのに手を動かさずとも、自動的に戻つて來、そして休みなく運轉するやうになつた。その一小兒の發明が十數人の小供全體に傳はり、彼等も同様棒と繩との助けを得て機械を自動せしむることが出来るやうになり、皆仕事を放つて置いて、弄戲を始めたものである。やがて職工長が歸つて來たが、小供等が機械の傍に立つて活塞棒を引戻しもしないで遊んで居るのに拘らず、活塞が自動的に動いて居るのを見て驚き訝り乍ら、小供等は機械を引張らないのに何うして機械が自動して仕事を繼續することが出来るのであらうか、小供等は何故遊んで許り居るのか、これは全く奇怪だと叫んだものである。職工長はそのとき餘りに不思議に思はれたので、機械が自動的に回つて來る理由を考察し、その考察の結果を技師に報告したのであつた。その後技師には、その小供の發明した方法が非常に巧妙なものであることが分つたので、その方法を基礎として漸次改良を加へて行つた結果、今日の如き往復自在な機械とすることが出来たのである。

民権政治の機器は今日迄百餘年を経過するが何等改變せられてない。我等現在の民権政治の機器を見るに、各國現行の民権は、一選舉權あるに過ぎず、これ即ち人民に僅に一つの發動力よりなく、二つの發動力がない爲民権を推出することが出来てもこれを引戻すことが出来ず、恰も昔の

發動機同様なのである。けれどもその發動機は、機械の手助けをして居た一懶け小僧があつて、一本の繩と一本の棒とを以て機械そのものの力を借りて機械を自動的に往復せしむることの出来ることを知つたが、現在の民権政治に至つては、今尙ほこの種懶け小僧も居ないと見え、民権を引戻す方法はまだ發明されて居ないのである。斯うした次第で民権政治の機器は使用せらるるやうになつてから一百餘年にもなるが、今日迄に一選舉權を有するのみで、選舉權を享有してからも幾許の進歩もせず、選舉せられた人が賢からうが不肖であらうが、彼等を管理すべき他の權がなかつたのである。斯様な状態であつたから民権政治の機器は不完全で、この機器が不完全なりしがため、民権政治は今に至る迄適當な辨法もなく何等顯著なる進歩もしなかつたのである。我等はこの種機器を進歩せしめんが爲には如何なる點より着手すべきか。即ち前回述べて置いた道理に照して權と能とを明かに分つことが必要である。

今更に機械を引用して比喩ふるならば、機械の各部の權と能とは區別截然たるものがある。何の部分が仕事をし、どの部分が動力を起すのか、すべて一定の限界がある。例へば船の機械に就いて云へば、現在最大の船は五六萬噸もあり、斯様な大船を動かす機械は、發するところの力が十萬馬力以上の機械であるが、ただ一人で之を完全に管理することが出来るのである。これを管

理する人は、船を動かさうとすれば立どころに動かすことが出来、停めやうとすれば立どころに停めることが出来、その動停は全く意の儘である。現在の機械の進歩は斯様な妙境に迄到達して居るのである。ところが最初機械が發明せられた頃は、機械の出す力が幾百馬力幾千馬力あらうとも、馬力が餘り大き過ぎた爲之を管理する人なく従て致てこれを使用するものがなかつた。通常機械の大小を言ふ場合には、すべて馬力を標準として居るが、一馬力とは一體何れ程の力であらうか。八人の強壯なる人の力を集むれば一馬力である。だから若し一萬馬力と言へば八萬人の力に相當する。現在の大商船や軍艦に使用せらるる機械の發するところの原動力は十萬馬力乃至二十萬馬力あるが、斯様に大力ある機器はちよつと他に之に相當するものはあるまい。普通の機械でも一萬馬力と云へば八萬人力であるが、若し斯様な大力の機械を管理する方法にして不完全であつたならば、その機械全體が一旦發動した以上、これを收拾することが出来なくなるであらう。所謂「能發動不能收」である。斯うした理由で従前機械を發明した人は、機械を試験する際よく自ら機械に打たれて死んだもので、かうして機械の犠牲となつた發明家は、世界機械史上何れ程あることか判らない位だ。外國語で「化蘭京士丁」(Frankenstein)と言ふ言葉があるが、これは動かすことが出来ても停めることの出来ない機械のことである。その後機械の構造

は日一日と改良せられ進歩して、十萬馬力乃至は二十萬馬力の機械でも、唯の一人で従容として之を管理し得、何等の危険もなくなつたのである。十萬馬力と言へば即ち八十萬人力で、二十萬馬力と云へば一百六十萬人力であるが、若し斯様な大きい人力があつたとすれば、これを管理することは果して容易であらうか容易でないであらうか。今軍隊の力に就いて見るも、一二萬人にもなればその管理は仲々容易なことではないが、機械の力を以てすれば、一百六十萬人の多數のものも一人で従容と管理し得るのである。これに依ても機械の進歩が如何に迅速であつたか、管理の方法が如何に完全であるかが判る。

現在の政治家及び法律學者はすべて、政府を以て機器とし法律を以て工具として居る。そして近世民権時代に於ては人民を以て動力としてゐる。従前君權時代に於ては帝王を以て動力と爲し、全國の動作は王室から發源せられたものである。その時代には政府の力が大きければ大きい程、帝王の尊嚴もそれだけ餘計に顯はれたもので、そして左様な強力な政府あつて始めて帝王の號令が容易に實行せられたのである。帝王は發動機械に相當する人であつたが爲、政府の力が大きければ大きい程、帝王の地位も益々高くなり、苟しくもその爲さんと欲するものは悉くこれを爲すことが出来たのである。例へば、内治を修し遠略に勤め軍を整へ武を經するなど、彼が爲さんとす

ことは萬事出来ないことはなかつたものである。故に君權時代に於ては政府の力が如何に大であつても、帝王にとつては利こそあれ何等害はなかつたものである。民権時代には人民が政府の原動力である。而も何が故に人民は政府の能力の餘り大きくなることを願はないのであらうか。即ち政府の力が大に過ぐる場合、人民は政府を管理することが出来ず、兎もすれば政府に壓迫せられ勝て、其の上従前其の壓迫なるものが餘りに大にして受くるところの苦痛が餘りにも多かつたから、これ等の壓迫の苦痛を免れんとするには、政府の能力を防止しない譯には行かないからである。最初機械の發明せられた頃は、一個の機械を推して行つた場合、唯一人の子供を使用すれば、これを引戻すことが出来たのであるから、察する處、當時の機械の力は極めて小さいもので最大幾馬力に過ぎなかつたものに違ひない。でなければ一萬馬力以上の機械は、當然小供一人では引戻し得る筈がない。當時は機械の管理方法が不完全なりしがため、人民は何うしても斯様な小力な機械を使用するの他なかつたのだ。民権も現在はまだ初發達の時代であつて、政府を管理する方法も亦不完全である。だから勿論政府の動力は人民より發源するものではあるが、何分人民は動力を發生した後再びこれを隨時回收することが出来ねばならないのであるから、小力な政府を用ふるより他致方がないのである。若し幾萬馬力と云つたやうな非常な力を有する政府があつたな

らば、人民はとてこれを管理することは出来ず、従つて之を用ひやうとはしないであらう。斯うした譯で歐米各國の人民は強く有力な政府を恐れるのである。恰も従前の工場で大馬力の機械を恐れて居たのと同様の道理で、機械に就いて言へば、當初其の小力な機械を適當な方法を以て改良を試みなかつたならば、必ずその機械は永遠に進歩せず必ずや永遠に人をして引かしめねばならなかつたであらう。けれどもその後日日改良せられて今日に至り、人力を用ふるを要せず、唯機械それ自身の力で自動的に戻つて來ることが出来るやうになつたのである。ところが政治機關にあつては、人民には殆ど改良の法なく、一體に政府の能力が大に過ぎてはこれを引戻し得なくなるのを心配して、却て常にこれが防止の方法を講ずると言つた状態であつたから、政府は發達する能はず、民權も進歩しなかつたのである。現在の世界の潮流に照して言へば、民權思想は日一日と進歩して居るが、民權政治の機器は依然少しも進歩して居ないと言はなければならぬ。故に歐米の民權政治は今に至る迄根本的辦法がないのである。

余の前回講義したところの根本辦法から言へば、權と能とを明瞭に分かたねばならぬが、これを機械に比喻へて見れば、能力あるものとは何であるか。機械そのものがとりもなほさず能力あるものである。例へば十萬馬力の機械はそれ相當の石炭と水とを供給すれば、十萬馬力相當の能

力を發生することが出来る。次に權を有するものとは何であるか。機械を管理する技師が即ち有權の人である。何馬力の機械であらうが、機械は技師の一轉手の勞を以て、その意の儘に立どころにこれを發動せしめ停止せしむることが出来る。實に機械の管理は技師の思ふが儘である。恰も汽船汽車がちよつと機械を動かせば忽ち非常な速度で走り機械を停めれば即座にこれを停止することが出来ると言つたやうに。だから機械を以て非常な能力あるものとし、技師を以て非常な權を有する人と言ふ。人民が政府を管理せんとする場合、若し果して權と能とを分たんと欲せば、やはり技師が機械を管理すると同様にせねばならない。民權の極盛時代を想像して見るに、其の時代になれば政府を管理する方法は極めて完全なるものがあり、政府も自然大きい力を有することとなる筈で、人民はたゞ自己の意見を國民大會の席上で發表しさへすればいいことになり、そして政府に對しては、これに攻撃を加ふればこれを倒壊することが出来、又これを頌揚すれば其の基礎を鞏固にすることも出来ると言つた具合になるであらう。併しながら、未だ現在では權と能とを分けて居ないから、政府が専横に過ぐる場合、人民はこれを管理する方法なく、人民が何のやうに攻撃しやうが何のやうに頌揚しやうが、政府は一切お構なしであるから、何とも效力の發生しやうもないのである。現在世界の政治は進歩しては居ないが、民權思想だけは非常

に發達した。各國人民は其の政治機器の現状が一般に彼等の思想にも用途にも適しない事實を認めつゝある。

中國は今正に改革時代にある。我等は政治に對し民權の實行を主張してゐる。此の我等の民權思想は歐米から傳來したものだ。近く我等は歐米の新思想を學ばんとして、一個の完全なる民治國を造つた。當初民治建設に際し一般革命志士は、何れも完全に歐米を模倣し歐米の後塵を歩み歐米のものを完全に模倣さへすれば、中國の民權は大體に於て充分なる發達を遂げ得たものであるから、止境と云はなければならぬと考へて居た。その當初に於て斯様な考へを持つて居たことは決して全然誤りであつたとは言はれない。中國従前の專制政體は餘りにもひどく腐敗してゐた。だから若し我等にして革命を實行し專制を打破し建設的事業を爲し學んで歐米のその如きに至り得たならば、比較上から言へば確かに非常にいゝことに違ひない。併しながら歐米人民は自己の國家社會の現状に對して果して衷心満足して居るであらうか何うか。我等にして細心歐米の政治社會を考察するならば、所謂革命の先進國米國佛國の人民の如きも、今尙ほ政治の改良を主張し依然革命の再來を心密かに期待して居ることが分かるであらう。彼等は革命後尙一百餘年に過ぎざるに、何故に革命の再來を期待したりするのであらうか。之に依ても我等が從

前學んで歐米の如きに至れば、それが止境であると考へて居たことの誤りであつたことが判るであらう。そして又之に依て、我等が若し果して學んで米佛同様になつたならば、佛國米國が今尙ほ革命を要求しつゝある通り、我等も亦百十年の後必ずや革命の再起を免るゝことの出来ないであらうことは想像し得られる。佛國米國の現在の政治機關は尙幾多の缺點があるから依然人民の欲望を満足せしめ得ず、又完全なる幸福を享けしむることが出来ないのだ。斯様に考へて來ると、今我等の提唱する改革も、學んで現在の歐米の如きに至り得たとしても、それで止境であるなどと満足する譯には行かなくなる。若し我等が彼等の後塵を歩むとすれば、一代では濟ます更に後の代迄も之を辿らねばならず、革命の再起を見ずには濟むまい。若し革命の再起を見るやうなことでもあれば、今次の革命は徒勞であり無効ではないか。我等の現在の革命は徒勞無効であつてはならない。何うしても一個長治久安の計を樹てなければならぬ。所謂一勞永逸のものではない。然らば將來の後患を免れんとするには一體何うすればいゝのか。

歐米の方法を完全に中國に移し行ふことは可であるか不可であるか。試みに我等は歐米最新の物質文明に就いて言へば、例へば交通上最も緊急なものは鐵道であるが、この鐵道を最も早く模倣して敷設したものは、東方の國家の中では日本である。中國は近來纔に鐵道の重要性を知り、

漸く鐵道建設の必要を悟つたやうな次第で、從て鐵道建設は日本より後れて居る。ところが中國と日本との現有鐵道に就いて比較するに、中國と日本との汽車は、諸君も乗つたことのあるものはよく知つて居るやうに、日本の軌道は非常に狭く車も非常に小さく、中國の滬甯及び京漢鐵道等の軌道は日本のに比し非常に廣く車も亦非常に大きい。中國の鐵道敷設は日本より後であるにも拘はらず、何うして車軌道共に日本のに比べて廣く大きいのであるか。即ちそれは中國の學んだところのものは歐米の新發明であり日本のそれは歐米の舊物であつたからだ。若し中國が鐵道建設に際し歐米に學ばず日本の舊物のみを學んでゐたならば、満足することが出來たであらうか何うか。從前歐米も狹軌であつたため最初これを學んだ日本は、無形の中に非常な損失を受けて居るのである。現在我等が鐵道を建設するに、又その種不便な舊物を學ぶことが何うして出來やうか。けれども中國近來の鐵道の建設には、日本の不便なる舊物を學ばずして、非常に便利な歐米の新發明を學んだ。だから中國現在の鐵道は日本よりはいいのである。これ所謂「後の雁が先きになる」であらう。斯様な次第であるから、我等が今政治を改良するにも歐米の舊物を學ぶのは不可であつて、歐米の政治情形を明かに考察して、彼等の政治的進歩は果して如何なる程度に至つてゐるかを洞察し、我等は彼等の最新發明のものを學ぶやうに心掛けねばならぬ。かく

て始めて各國を凌駕することが出來るであらう。

余は前回の講議に於て、歐米に於ける民權問題に對する研究が未だ不徹底であり、不徹底なるがために人民と政府とが日々相衝突して居ることを説いて置いた。民權は新しい力であり、政府は舊い機械である。我等にして今民權問題を解決せんとすれば、別に一臺の新機械を造らなければならぬ。この新機械を造る原理は權と能とを分つことである。そして人民が權を有せなければならず、機械も有能でなければならぬ。今大能ある新機械を適當な人をして之を管理せしめたならば動停意の儘である。これ歐洲に於て非常に完全な機械が發明せられたがために他ならない。併しながら、彼等は政治に就いてはまだ非常に完全なものとは發明して居ない。だから我等が今非常に完全な改革を行はんとしても學ぶよすがもない。何うしても自ら一個新しい辦法を創案しなくてはならない。我等にして一個新辦法を想出せんとせば、果して想出し得るや否や。中國人は義和團事變後完全に自信を喪失して、一般人の心理には何事も外國を信仰し自己を信せず、萬事自分で事を爲し單獨で發明するなどといふことはとても不可能である、何うしても歐米の後塵を歩まねばならぬ。歐米の辦法を倣はねばならないと考へるやうになつた。義和團事變前迄は我等の自信力は非常に豊富で、一般人の心理では中國固有の文明中國人の思想才力は歐米に超へ、

我等自ら如何なる新發明でも、やらうと思へば何でも出来ないことはない位に考へて居たものだ。然るに今日に於て何うであらう、何事も不可能のことに考へて居る。そして歐米文明の優越が、政治各方面以外の、僅に物質的の方面に限られて居ることに就いて一向知らない。勿論單に物質文明の科學の點から言へば歐米近來のそれは非常に發達して居る。一個人が一種の學問に對しては固より特長を有する。但しその他各種の學問に對しては、未だ必ずしも充分精通して居ると言ふところ迄は行つて居ない。まだまだ幾多至らない點があるやうに思はれる。一百餘年來彼等の物質科學上の發明は極度に達し、許多の新發明もあり、眞に天工を巧奪するの概があり、我等の夢想だにし得なかつたところがある。が若しそれ政治學に就いて言ふならば、彼等が従前思ひ及ばなかつたものは、現在我等も亦思ひ及ばないだけのこと、別段之と云つた理由がある譯ではない。近來歐米の機械の進歩は非常に完全なものである。けれども彼等の機械が進歩して居るからと言つて、彼等の政治迄も進歩して居ると言ふ譯にはゆかない。最近二三百年來歐米の特長は、ただ科學に限られて居たがため、大科學者と言はれるものは、その専門の學問の上に於て卓越した知識を持つて居たことは勿論であるが、その他の學問、例へば政治哲學と言つたやうな方面には、未だ必ずしも兼ね長すると言ふ譯ではなかつたのである。一つの適切な故事を引用して證明して見よう。

従前英國に近世の學者の中に於ても最も傑出せる「ニュートン」と言ふ一大科學者があつた。「ニュートン」とは抑も如何なる人であつたか。彼は天性聰明にして且つ學識の非常に深かつた人で、彼は物理學上幾多の空前絶後の發明をしたが、就中最も著名なるは萬有引力である。「ニュートン」の發明にかかるこの萬有引力こそは實に世界に於ける第一回の發明であつて、今日に至る迄科學の根本原理となつて居り、近世に於ける幾多の科學原理に關する新發明も萬有引力の學說に及ぶものはない位である。斯様に「ニュートン」は科學に對しては特殊の聰明さを持つてゐたが、他のことに對しても、同様な聰明さを持つて居たのであらうか何うか。余の見たところでは全然さうではなかつたらしい。と云ふのはここに一つの興味ある故事があるが、これに依ると「ニュートン」が萬事に聰明ではあり得なかつたことを證明出来ると思ふ。彼「ニュートン」の一生は讀書と實驗であつたが、その他に尙ほ一種の嗜好があつた。彼の嗜好と言へば他でもない猫を愛することであつた。彼は大小二匹の猫を養つて居り、彼の出入には何時も猫がお伴して居たものである。彼は非常にその猫を可愛がり、彼の行くところへは何處へでも猫はお供をしたもので、彼が室内に於て讀書したり、實驗して居る際でも猫が外へ出やうとすれば、一切の仕事を放つて置いて自ら「ドアー」を開けて出してやり、又部屋に入つて來やうとすれば、彼は又仕事を放つて「ドアー

「」を開けて入れてやると言ふ風であつたが、斯うして一日中出たり入つたりして居たため、流石猫好きの「ニュートン」も「ドア」の開け閉てが面倒で堪らなくなり、或日のこと一方法を考へ出して猫が自由に出入して彼の仕事の邪魔をしないやうにした。彼が考へ出した「ドア」の開閉の方法とは一體どんな方法であつたか。即ち彼は「ドア」に大小二つの孔を作つたもので、「ニュートン」の考へでは、大きい孔からは大猫を出入りさせ小さい孔からは小猫を出入りさせる積りであつたのである。この考へが聰明な大科學者の考案であり、この事實がやはり大科學者のやつたことであるから、何と驚くではないか。普通の常識から云へば、一つの大孔さへ開ければ、大猫も出入りが出来るし小猫も亦當然出入りが出来、大孔一つさへ開ければこと足りる筈であつて、何處に時間を空費して迄も餘計な小孔迄開ける必要があるであらうか。常人でさへも誰でも一つの大孔さへ開ければいい位のことは知つて居るのに、大科學者の「ニュートン」ともあらうものが、却つて二つの孔を開けたりして全く可笑しいではないか。これでも科學者は萬事に聰明であるか何うか。この一例で見ても、科學者は萬事に非常に聰明ではあり得ないことが證明されやう。科學者は専ら一藝に長ずるものであつて、未だ必ずしも種々な學問にも兼ね長じて居ると云ふ譯のものではないのである。

最近數十來年、歐米の科學の進歩は極點に達して居る。故にその科學に依つて出來た物質機械は、往復兩面の動力があり、往復とも自動的である。けれども政治の機器は唯一面の動力ばかりで、人民は政府の權力に對してただよくこれを發出することが出来る許りで、之を收回することが出来ない。今我等が民權を主張して民國を改造し將來新民國を造らんが爲には、必ず改造に徹底しなければならぬ。徹底的な新民國を造らねばならぬ。歐米先進諸國には我等にとつて何等完全に之を倣ふべきものとはない。されば我等は自ら別によりよき新方法を考へなければならぬ、この種新辦法は歐米に於てすら尙ほ完全に想到されて居ないものであるが、果して我等に想到し得るものなりや否や。この問題に答へんがためには、自ら自己を輕視するやうなことがあつてはならない。所謂妄自菲薄してはいけない。民權の潮流中國に傳來せる今このとき、我等はこの潮流を歓迎し國家を改造せんとする。自己の新しき辦法は果して完全に想到し得たであらうか何うか。中國は幾千年來今日に至る迄獨立の國家であつた。そして従前の政治の發達には、未だ曾て外國の材料を借りたことはない。中國は世界に於ける文化の先進國であつて、從來外國の材料は全然これを模倣しなければならぬ程のものを見當らないのだ。ところが歐米最近の文化は漸く中國よりも進歩した。そして我等が彼等の新文明を羨慕するやうになり、茲に始めて革命を主張

することとなつたのである。斯様に歐米の文化は發達の日尙ほ淺い。従つて我等が今直に革命を實行したならば當然中國は歐米を凌駕し、改めて世界の最新にして最も進歩した國家となることが出来ねばならぬ筈である。我等にして若しこの目的を達せんとせば、實際に於てそれだけの資格はあるのである。唯然し革命を實行するにしても、舊機關化せる歐米の民權政治を全然模倣すべからざるは勿論である。

我等が目的を達せんが爲には、何うしても別に一新機器を造り出さねばならない。我等が今新機器を造り出さんとするに當り、世界には果して之が参考たるべき新材料ありや否や。現在各國に散在する材料は頗る多い。だが先づ一個の根本的辦法を決めてかかることが先決問題である。余の前回に於て主張した權と能とを分つことは、即ち一つの根本辦法であらねばならず。根本辦法が決められた上で民權を實行し、なほ國家の組織と民權の行使とを分かつたねばならぬ。歐米では根本辦法には何等想通するなく、權と能とを分つことが出来ず、其の結果政府の能力を擴充することも出来ないのだ。我等は現に根本辦法を發見してゐる。だから更に一步を進めて政治機關を分離せねばならぬ。政治機關を分解せんとするには先ず政治の意義から明かにしてかからねばならぬ。余は第一講に於て政治と言ふ此の名詞に對し一つの定義を下して、政は衆人の事、治は衆

人の事を管理することを説明して置いた。今權と能とを分解して造成せられた政治機器には、即ち物質的機器と同様其の中には機器其のもの力と機器を管理する力とがあらねばならぬ。今新發明に依て造られた新國家を、此の二つの力にはつきり區別して見たい。何うしたらよく明かに區別することが出来やうか。それには先づ根本に遡つて、再び政治の意義から研究してかからねばならぬ。政は衆人の事で、衆人の事を集合した大きい力を即ち政權と呼ぶ。此の政權は之を民權と言ふことも出来る。治は衆人のことを管理することで、衆人の事を管理する力を集合した大きな力を即ち治權と呼び、又政府權と言ふことも出来る。

故に政治の中には、政權及び治權の二つの力が含まれてゐる譯である。そして此の二つの力は、一つは政府を管理する力で他は政府自身の力である。之れは又何う言ふ意味であつたか。例へば此處に十萬馬力の汽船の機械があるとして、其の機械が十萬馬力を出し船を動かすことが出来る。とすれば、之は即ち機械其のもの力である。此の力は恰も政府自身の力と同様で、此の種自身の力が即ち治權である。斯様な大きな汽船を或は前進せしめ、或は後退せしめ或は又左右何れへなりとも回轉せしめ、或は停止せしめ又速度を速くし或は遅くせんがためには、更に技術優秀なる技師があり非常に完全なる機械を使用して初めて、之を走らしむることが出来又管理すること

も出来るのである。非常に完全な走らせる力と管理する力があつて、初めて斯様な大汽船を欲するが儘に、動かすことも停めることも出来るのである。此の種船を動かし停止する力が、即ち汽船を管理する力である。此の力は恰度政府を管理する力と同様であつて、此の管理の大きい力即ち政權である。我等が新國家を造ることは、恰も新しく汽船を建造すると同様である。汽船の建造に就いて見るに、其の船に装置する機械の馬力が小さければ船の速度もそれだけ緩慢で、積載貨物も亦自然少量で、従つて其の利益も當然薄くなければならぬ。之れに反し馬力が大であれば、速度も速に積載貨物も當然多量に、其の取得する利益も亦當然大であらねばならない。此處に一隻の大汽船ありと假定し、之に装置せられた機械の馬力を十萬馬力とし、每一時間の速度を二十海里とすれば、廣東上海間の一往復二週間内に十萬弗を儲けることが出来る。又別に一隻の極大の汽船を建造したりと假定し、之に装置した新機械の馬力を一百万とし每一時間の速度五十海里として比例計算したならば、廣州上海間一往復一週間内に一百万弗の金を儲けることが出来るであらう。現在世界に於て最快速の大汽船でも一時間二三十海里を走るに過ぎないが、若し我等の建造する新汽船が一時間五十海里を走ることが出来たならば、世界のどの汽船だつても競争は出来まい。我等の汽船は即ち世界での最速にして最大の新汽船となるであらう。我

等が國家を創造するも亦之と同じ理窟である。若し國家の中に建設せらるる政府に對し、國家が非常に小さい力を發生するやう要求するならば、それは無力な政府となつて了ふであらう。そしてこんな政府のやる仕事は、當然非常に小さく其の成就する效力も極めて微々たるものであらう。之れに反し國家が非常に大きい力を出すことを要求する場合には強力にして有力な政府となるであらう、そして其の政府のやる仕事は當然非常に大にして且つ其の成就すべき效力も亦當然極めて大なるものであらねばならぬ。此處に世界に於ける最大の國家の中に一個の極めて強力なる政府を建設したるものと假定するとき、此の國家は實に各國を凌駕する國家ではなからうか、此の政府は實に天下無敵の政府ではあるまいか。

歐米に於ては今日に至る迄、何が故に唯大馬力の機械を有する國家のみを造つて、極強有力なる政府ある國家を造らなかつたのであるか。既にそれは彼等現在の人民には、たゞ大馬力の機械を管理する方法を有するのみにして、強力なる政府を管理する方法を持つて居ないからである。而して又小馬力の舊船を不要として別に一隻の大馬力の新船を建造することは、極めて容易なことであるが、奈何せん國家は、既に其の根蒂深く且つ鞏固であるから、よしんばそれが無力にして舊い政府であつても、別に新しく強有力な政府を建設すると言ふことは仲々容易なことではない

からだ。我等中國は四億の人口を有し世界で最も多數の人口を有する國家であり、而も其の領土は寬濶、物産亦豊富にして萬事米國以上である。米國は今では世界の最富最強の國家となつて如何なる國も彼と比肩して競争することは出来ない程偉大な國だ。而も此の米國に對し、中國は天然の富源の點に於ては之を凌駕して居るのである。が唯現在の實情では、米國を凌駕するせぬの問題ではなく、とても米國と同日に論ずることも出来ない情けない有様である。此の原因は、とりもなほさず中國に天然の資格はあつても人爲的工夫に於て缺くるところあり、從來最良な政府がなかつたからだ。されば若し我等が此の天然の資格に更に人爲の工夫を加へて一個の非常に完全且つ有力なる政府を建設したならば、それに依て發生する大力量を以て全國を動かし中國をして直に米國と比肩し競争せしむることが出来るであらう。

中國に強有力な政府が出来た後は、我等は歐米人民の如く政府の力の大に過ぎ管理し得ないことを心配する必要はないであらう。何故ならば我等の計劃しつゝある新國家は、國家政治の大權を二つに分けてあるからだ。即ち一は政權であつて、此の政權を完全に國民の手中に與へることになつて居り、若し人民に充分なる政權あらしめたならば、直接國事を管理することが出来るであらう。此の政權は即ち民權である。他は治權であつて、此の大權は完全に政府機關の手に與ふるこ

となつて居り、若し政府をして非常に大なる力あらしめたならば、全國の事務を治理することが出来るであらう。此の治權は即ち政府權である。斯様に人民に極めて充分なる政權があり、政府を管理する方法が非常に完全でありさへすれば、政府の力が如何に大きくても之を管理し切れないと言ふ心配はないからだ。歐洲は従前は十萬馬力以上の機械を敢て造らうとはせず、十萬馬力以下のものを造つてゐたものであつた。それは機械の構造が不完全なるに加へて管理方法が周密ならざりしため、萬一機械の力が大に過ぎた場合之を管理し得ないであらうと言ふ心配があつたからだ。ところが此頃では機械の進歩著しく、機械其のものも最早充分完全なものとなり、之を管理する方法も亦頗る周密となつたので、極大馬力の機械でも造るやうになつた。我等が政治機關を造らんとし、政治機關を進歩せしめんとするにも亦之と同様の道を歩まねばならぬ。若し構造頗る完全にして有力なる政治機關あらしめんとするならば、同時に又此の機關を管理するに頗る周密なる民權の方法がなければならぬ。歐米に於ては政府を管理するに非常に周密なる方法がなかつた爲に、彼等の政府機關は今尙ほ發達しないのである。我等にして彼等の覆轍を踏まざらんが爲には、其の根本に於て人民の對政府態度を權と能とに分ち、政治の大權を政府權と人民權との二つに分つことが先決要件でなければならぬ。斯様に區分すれば、政府は機械に

人民は機械技師に相當することとなり、従つて人民の對政府態度は、恰も技師が機械に對すると同様であらばいい。

現在機械の構造は非常に進歩した。そして單に機械の智識あるもの許りではなく、之が智識のない子供でもこれを管理することが出来るやうになつた。例へば現に使用せられつつある電燈はその發明された頃には何んな状態にあつたであらうか。電氣は雷と同様極めて危険なものであつたがため、管理の方法がよくなかつたら人を殺す結果となり、そんな譯で、従前電氣を發明した科學者が何れだけ犠牲になつたか分らない。斯様に犠牲が多く危険も極めて大なりしがため、電氣の發明後も随分久しい間、仲々燈用に供すると言ふところ迄は行かなかつたものである。その後非常に周密なる電氣の管理方法が發明せられ、「ボダン」により點滅自在となり、非常に便利且つ安全となつたので、何等電氣に關する智識なき人でも、町の小供であらうが、或は又田舎の極く無智なる愚民であらうが、一轉手の勞を以てよく電氣を自在にすることが出来るやうになつた。であるから現在ではこの危険極まる電光も燈用に供し得るやうになつたのである。

その他各種の機械の進歩も亦之と同じ経路を辿つて居る。例へば最新發明せられた偉大な機械は空飛ぶ飛行機であるが、これ亦非常に危険なもので、最初發明せられた頃は随分澤山の人が死

んだものである。従前廣東の憑如といふ男は何う言ふ男であつたか。彼は飛行機製造家であつて飛行機から墜落して死んだ男ではなかつたか。従前飛行機が發明された頃は、この機械で飛ぶことなど知つてゐる人のあらう筈もなく、飛行機製造家は同時に操縦者であらねばならなかつた。ところが最初飛行機製作家は、一面この種機械の管理方法周密ならず、他面又従來の經驗とてもなく、その使用方法も充分判つて居なかつた爲、何時もよく澤山の人が墜落して死んだもので、餘り犠牲者が多かつたため一般に飛行機に乗らうとするものはなかつた。現在ではその操縦方法も非常に周密になり、誰でも鳥か雀同様、空中を上下左右自由自在に飛ぶことが出来、非常に便利且つ安全と言ふことも分つて來たので、誰でも平氣で乗るやうになつた。普通人が平氣でこの機械を利用することとなつたがため、近來飛行機は交通用に使用せられ、恰度我等が廣東から四川に行く場合、路は非常に遠く途中には敵が居ると言つたやうな譯で、水陸の交通不便の際は、飛行機に乗れば一氣に空中を四川に飛ばすことも出来るやうになつたのである。

現在中國には民權思想はあるが、この種思想的機械に關しては尙ほ世界何處にも完全に發明されて居ず、一般人民中誰もその使用方法を知つてゐるものがない。我等先知先覺者は、先ずこの種機械を造り便利な放水制(Faucet)安全な「ボタン」等を造つて普通の人にも一轉手の勞を以て

これを使用し得るやうにせねばならない。然る後始めてこの種思想を事實に現はすことが出来るであらう。中國人の民権思想が發達したのは元來歐米より後である。恰度鐵道の建設が日本より遅れてゐたと同様に、日本の鐵道建設は我等より早かつたが、その建設せられた鐵道は舊式で今の用には適しない。そして我等が新しく建設した鐵道は至極時勢に適したものである。我等は歐米より後れて居るが如何なる方法に依つたならば民権を使用することが出来るであらうか。この方法を發見すれば、こゝに始めて民権を我等の使用に供することが出来るであらう。若しこの方法にして發見せられなかつたならば、民権を我等の用に供することは出来ないであらう。然らずして若し必ずこれを使用せなければならぬものとしたならば、それこそ寔に危険極まるもので人を殺す許りであらう。現在の世界には果してこの方法があるか何うか。歐洲の端西ではこの幾部分の方法があつて既に試験済である。之は頗る徹底した方法で直接的民権であるが、未だ完全と言ふところ迄は行つて居ない。歐洲諸大國に至つては、まだこの不完全な方法すらも試験されて居ないので。この幾部分の方法でも試験した國家と言へば、一小國瑞西の外になく、その他の大國にはないのであるところから、多數のものはこの幾部分の方法なるものは、小國には使用出来るが大國では用に足らないと言つたやうな疑を懷いて居るやうだ。だが一體歐洲諸大國は何うし

てこの幾部分の方法さへも使用して居ないのでか、これ全く狹軌の鐵道を有する日本が、之を廣軌に改造するがたには長年月に巨額の經費を要し非常に不經濟であるから、ちよつとは斷行し得ないと同様な譯で、彼等先進國家も國家の治安を擾し經濟界を攪亂せんことを恐れて、これ等新式の發明の長所は充分心得て居ても、やはりこれを採用し兼ねて居るのだ。而して我等中國に至つては、民権の機關に關する限り、従前何等舊物がないので、今直に而も極めて容易に最近最良の新發明を採用することが出来る筈である。

民権の一方面に對し、今世界に何んな新式な發明があるか。第一は選舉權である。現在の所謂先進民権國家は、普遍的にただこの一個の民権を實行して居る許りであるが、専らこの一民権を行使するのみで、果して政治の用に足りるであらうか何うか。専ら此の一個だけの民権を行ふことは、恰も前進力のみで後退力のなかつた最初の舊式機械同様である。現在の新式の方法には、選舉權の外に罷免權がある。人民はこの權を有することに依つて後退力を持つこととなる。此の二つの權を以て官吏を管理するのである。人民に此の二つの權があれば、政府の一切の官吏に對し一面之を任命することが出来、他面又之を罷免することが出来、萬事人民の自由にすることが出来るのである。之れ恰も新式機械が一進一退往復ともに自動し得ると同様である。國家にとつ

て重要なものは官吏以外に何があるか。即ち法律がある。所謂「治人あるも尙治法あるを要す」である。人民は如何なる権を持つことに依て、よく法律を管理し得べきや。一つの法律に就いて見るに、それが人民に非常に有利と考へられる場合、若し人民に一種の権があれば、自ら決定し政府をして之を執行せしむることが出来るであらう。此の種の権を創制権と言ふ。之れ即ち第三の民権である。又若し従前の舊法律が人民に不利と考へられる場合、一種の権さへあれば、人民自ら改修し、改修の上この新法律を政府をして執行せしめ従前の舊法律を廢止することが出来るであらう。此の種の権を複決権と言ふ。之れ即ち第四の民権である。人民が此の四民権を有すれば、大體に於て先づ充分なる民権と云はなければならぬ。此の四権を實行することが出来ればまづ徹底的な直接民権と言ふべきであらう。従前充分なる民権なかりし頃は、人民は官吏又は議員を選舉した後は之れを何うすることも出来なかつたものだ。此の種民権は間接民権である。間接民権は、とりもなほさず代議政體である。此の政體に於ては代議士を以て政府を管理せしめ、人民が直接政府を管理することが出来ない。人民が直接に政府を管理することが出来るためには、人民が此の四つの民権を實行することが出来ねばならぬ。人民がよく此の四民権を實行してこそ全民政治と言ふのである。全民政治とは何を意味するか。即ち前にも説ける如く四億人を皇帝とすることであ

る。四億人を何うしたら皇帝たらしむることが出来るのであるか。即ち此の四種の民権を以て國家の大事を管理せしむるのである。故に此の四個の民権は即ち四個の放水制ポタンであり四個の「ポタン」でもある。我等にして放水制あれば、水道の水を直接管理することが出来「ポタン」があれば直接電燈を管理することが出来、四個の民権があれば直接國家の政治を管理することが出来るのである。この四個の民権は又政權とも言はれてゐる。即ち政府を管理するの権である。

政府が政府自ら事を辨ずるの権は又工權と云ふことも出来る。即ち政府が人民に代つて工夫するの権である。人民に大權があれば、政府は工夫することの能否及び工夫の目的はすべて人民の希望に隨はなければならぬ。即ち政府に大權があれば、一度び發動して工夫すれば非常に大なる力を發生することが出来るのであるが、之に對して人民が意の儘に隨時これを停止せしめ得るものでなければならぬ。之を要するに人民に實際に直接政府を管理する権があれば、政府の動作は隨時人民の指揮を受けなければならぬ。其れは恰も外國の舊式軍艦に於ては、十二門の大砲を裝置してゐるものは、之れを六個の砲臺に分ち各個に準標を定め發砲することとなつてをり、敵を撃つに當つては、すべて幾多の砲手が各個に之を執行し指揮官に於て直接全部を管理することが出来なかつたものなるに反し、現在の新式軍艦に於ては、敵の遠近を測量するには、檣頭に測量

器があり標準を定め、發砲するには指揮官の部屋に電機があつて直接管理することとなつて居り、若し敵に遭遇した場合は多くの砲手が一々標準を定め發砲するの要もなく、ただ指揮官たる人が部室内に居て測量器よりの報告に基き、距離の遠近を測定し電機を撥動せば、適宜意の儘に何れの大砲をも發射することが出来、或は十二門の砲を同時に標準を定め一齊に發射しそして皆命中せしめ得るのと同様である。斯の如くして始めて直接管理と言ふことが出来るのである。だが若し斯様に直接管理すれば、管理する人自身に於ては何等工夫する必要はない。かく自ら工夫する必要のない機械こそ、靈便なる機械と言ふことが出来る。

人民にこの四個の大権があつて政府を管理し、政府をして工夫せしめんとするならば、政府をして如何なる方法を用ひしむべきであらうか。政府をして非常に完全なる機關あらしめ非常に適切な政策を遂行せしめんが爲には、五權憲法を用ふることが必要である。五權憲法を以て組織せられた政府にして始めて完全な政府であり政府機關と言へやう。この種政治機關があつて、人民に替つて工夫したならば、始めて非常に結構且つ完全な政策を遂行することが出来るであらう。従前米國の一學者は、政治學上に於て一最新學理を發明して云ふ、一國の中最も恐るべきは人民の管理し得ざる萬能政府をもつことであり、最も望ましきは人民の爲めに使用せられ人民の爲

めに幸福を謀る一個萬能政府をもつことであると。斯の如き政府を持つことに依て民治は始めて最も發達する。我等は、今權と能とを分かち、そして人民は技師であり政府は機械であると説いた。我等は一面機械たる政府は萬能であつて何事でもなし得、又他面技師たる人民も亦大なる力を有し萬能の機械を管理し得るものなることを欲する。では人民政府共に如何様な大権があつたならば、之れを互に平衡せしむることが出来るか。人民の大権には、ついさつき説いた通り、選舉權、罷免權、創制權及び複決權の四つがある。政府方面には行政權、司法權、立法權、考試權、監察權の五つがある。人民の四個の政權を以て此の政府の五個の治權を管理してこそ完全な民權政治機關と言ふことが出来やう。斯様な政治機關があつてこそ人民と政府との力を互に平衡せしむることが出来る。我等は此の二つの大権の關係を詳細且つ明瞭ならしめんが爲圖に就いて説明して見よう。



此の圖に就いて見るに政權は即ち人民權であり、治權は政府權である。人民が政府を管理するには選舉權、罷免權、創制權及び複決權を實行するのである。政府が人民に替つて工夫するには行政權、立法權、司法權、考試權及び監察權を實行するのである。此の九つの權が互に平衡を保持してこそ、民權問題は眞の解決あり、政治は始めて軌道ありと云ふべきであらう。此の九權の材料に至つては決して今日發明せられたものではなく、例へば政權に就いて言へば、瑞西の如き既に三權を實行し、たゞ罷免權がない許りであり、米國の西北數州の如きも瑞西の三權の外罷免權をも加へ行つて居るのである。更に選舉權に至つては、世界各國中最も普遍的な民權である。故に世界の民權の情形に就いて言へば、「スイス」は既に三權を實行し、米國各州の四分の一は四權を實行して居る。そしてそれ等地方は此の四個の民權を實行して非常な周密な辦法を有し、仲々の好成績を挙げつゝある。即ち此の四個の民權は、實に現に試験せられつゝある事實にして、假設的な理想ではないのである。従て我等が今之を採用するも、至極穩健であつて何等の危険はない。

政府權は従前すべて皇帝一人の壟斷するところであつたが、革命後漸く三權に分かれたのである。米國の如きは其の獨立後三權分立を實行し、其の後それが好成績を收め得たので各國は何れも

之に倣つた。斯様に従前外國では三權分立に過ぎなかつたのに、我等は今何が故に五權に分立せねばならないのか。其の他の二種の出所は如何。此の二權は實は中國固有のものに他ならない。古へ中國は考試及び監察の獨立制度を施行して非常な好成績を收めたもので、滿清時代の御史、唐朝時代の諫議大夫の如き非常に立派な監察制度であつた。此の種制度を施行する大權が即ち監察權である。監察權は即ち彈劾權である。現在外國にも此の種權利はあるにはあるが、單に立法機關の中にある許りで、獨立したる一種の治權とする迄には至つて居ない。歴史が考試を舉行して眞の人材を拔擢せることは更に中國幾千年來の特色であらねばならない。近來外國の學者が中國の制度を考察して、中國の獨立せる考試制度に對しては悉く之れを讚美し、中國の考試制度に倣つて眞の人材を拔擢せんと試みたもので、英國に於ける最近の文官試験の如きも中國を模倣せるものに他ならない。たゞ英國の考試制度は、普通文官の試験に限られ、まだ中國の考試權の如く獨立的眞精神に迄到達して居ない。故に中國の政府權の情形に就いて云へば、司法、立法、行政の三權は皇帝の掌握するところであつたが、其の他監察權及び考試權は獨立して居たものと言へる。即ち従前中國の專制政府も同じく三權分立を實行して居たもので、外國従前の專制政府と大した變りはなかつたとも云へる。従前外國の專制政府時代には一切の權は皇帝一人の壟斷すると

ころであつたが、中國では專制政府時代に於てさへも、考試權及び監察權だけは皇帝も尙ほ之を壟斷して居なかつたとも云へる。故に政府の大權を分かつて外國では三權分立、中國でも亦三權分立と言ふことが出来る。中國は従前幾千年來君權と考試權及び監察權の分立を實行して來た。外國では立法權、司法權及び行政權の分立を實行してから一百餘年になる。けれども何分之が實行は極めて最近のことに屬するため、未だ大して完全と迄は行つて居ない。中國は従前三權分立を實行して更に大なる流弊を生じた。我等が今中外の精華を集合し一切の流弊を防止せんとするには、外國の行政權、立法權及び司法權を採用し、之に中國固有の考試權及び監察權を加へて完璧と爲し、一個五權分立の政府を建設しなければならぬ。斯の如き政府にして始めて世界で最も完全にして且つ最も善良なる政府と云へやう。國家に斯様な純良な政府があつてこそ民有民治享（リンカーンの所謂 The Government of the People, by the People, for the People. の譯）の國家となることが出来るのである。

我等は政府の一方面に於ては四權を主張し、治權の一方面に於ては五權を主張する。此の四權と五權とは各、各の統屬があり作用があつて其の間の區別を明かにし之を混亂してはならない。だが現在のところ一般に此の區別が出来ないものが多いやうだ。普通の人許りか専門の學者にも

區別が出来ないらしい。最近余が発見した一同志の如きは、彼は米國留學を終へて歸朝したものであるが、余は彼に、貴下の革命主義に對する感想如何と問ねたところ、彼は曰く、私は衷心賛成であると答へたので、余は又、貴下の學んだ科目は何であるかと問ひたるに彼は、政治及び法律を學べりと答へたので、更に余は、然らば貴下は余の主張せる民權思想に對する御意見は如何と追究せるに、彼の答へに曰く、五權憲法は頗る結構ではないか、萬人の歡迎するところであると。思ふにこの同志は政治法律を學んで専門家であるにも拘はらず、その答ふるところは余の質問の要點ではなかつたのである。之を以ても、恐らく彼が四權と五權とを明瞭に區別して居らず、人民と政府との關係に對してもやはり甚だ曖昧であり、殊に五權は政府の權に屬するものなることを知らなかつたことが判るではないか。

政府權の作用に就いて言へば、即ち機械權である。一個極大の機械は極大なる馬力を發生する。若し此の機械のなすところの工夫を非常な成績あらしめんがためには、之れを五個の工作の方法に分たねばならぬ。民權は即ち人民が直接此の大馬力の機械を管理するために用ふる權である。故に四個の民權は即ち機械に對する四個の節制と言ふことが出来る。此の四個の節制あつて始めて其の機械の動靜を管理し得る。政府が人民に替つて仕事をするには五個の權がなければ

ばならぬ。即ち五種の工作があらねばならぬ。五個の方法に分つて仕事をしなければならぬ。人民が政府の動靜を管理するには四個の權がなければならぬ。即ち四個の節制があらねばならぬ。四方面に分つて政府を管理しなければならぬ。政府に斯の如き能力があり、斯の如き仕事の方法があつてこそ、無限の威力を發揮することが出來、斯くてこそ萬能政府である。又人民に斯の如き大權力あり、斯の如き多くの節制があつてこそ、政府が萬能となつても之を管理するの力なきを心配しなくてもよくなり、政府の動一靜すべて人民が隨時指揮することが出來るのである。斯の如き状態にして始めて政府の威力を發展せしむることを得、人民の權力も亦擴張することが出來るのである。そして此の種政權と治權とがあつてこそ、米國學者の所謂萬能政府建設の目的を達成し、人民の爲に幸福を謀ることが出來るのである。中國がよく此の種政權と治權とを實行し得るならば、地球上に破天荒の一新世界を建設することが出來るであらう。

民權の實情と其の行使とに關しては、選舉法、罷免法、創制法及び複決法の規定を待つて其の真相と底蘊とを悉くすることが出來るであらう。之れは此の民權主義の講演中には固より述べ盡すことは出來ないから、その詳細なる情形を知らんと欲するものは廖仲愷君所譯の「全民政治」を参考とせられたい。

第三章 民生主義

第一講 總論

諸君、今日は民生主義に就いて講義したいと思ふ。民生主義とは如何なるものであらうか。民生と言ふ字は中國に於て從來使ひならされた名詞である。我等は何時もよく國計民生と言ふことを口にする。我等の用ふる此の句は、恐らく多くは自然無意識の裡に出て來るもので、一々その解釋を考へて物言ふ譯でなく、從て其の中には別に之と言ふ意義は含まれてゐない。けれども科學の非常に發達した今日、科學の範圍内で此の名詞を社會經濟上に使用する場合には、其の意義の定に窮りなきを覺ゆるものである。今日余は此の名詞の定義を下して見よう。民生とは即ち人民の生活、社會の生存、國民の生計、群集の生命なりと言ふことが出來る。余は今民生の二字を以て、外國に於て最近百十年來發生したところの一つの最大問題に就いて語らうと思ふ。此の問題は即ち社會問題である。故に民生主義は社會主義であり、また共產主義とも名づける。即ち大同主義である。この主義を明白にせんと欲するならば、簡単な定義などではとても明瞭に説くことは出來

ない。何うしても民生主義の講演を始めから終りまで聴かねばならない。終始聴講して、始めて徹底的に明白に了解することが出来るであらう。

民生問題は今日に於ては世界各國の潮流となつて居る。が此の問題の發生したのは、まだ一、二百年前に過ぎない。何うして近代に此の問題が發生したのであらうか。簡単に之を言へば、即ちここ數十年來、各國の物質文明が著しく進歩し工業亦大發達を遂げ、人類の生産力が忽然として増加した爲である。着實に之を言へば、即ち機械が發明せられて世界の文明先進人類は漸次人力を用ひずして天然力を用ひて仕事をするやうになつたからである。即ち天然の汽力火力水力及び電力を用ひて人間の氣力に代へ、銅鐵等の金屬を用ひて人の筋骨に替へ、機械の發明後は一人一人が一臺の機械を管理しさえすれば、一人乃至一千人分の働きをなし得ることとなり、從て機械の生産力と人工の生産力との間に非常な差を生じた。機械のなかつた頃は、最も勤勞する人でも一人では最大三人分の働きしか出來ず、十人以上の仕事をするなどと言ふことは到底不可能であつた。だから人一人の生産力と言ふものは如何に技倆が優秀であり體力氣魂も強壯であり其の上最多の勤勞を惜しまないといふ三拍子揃つた人について言つても、普通人の十倍に過ぎない。斯様に普通人の生産力は、大體相等しく大した差別とはないのであるが、之が機械の生

産力と人間の生産力とを比較することになると、其の差は餘りにも大きいのである。人に仕事をさせるとすれば、如何に能力才幹あり勤勞を兼ね具へた人でも、精々普通のものの十倍位のものである。ところが機械で仕事をすれば、非常な懶惰ものの尋常普通の人でも一人を使用して之を管理すれば、其の生産力はやはり一人の人力の幾百倍或は千倍を凌駕し得るであらう。故に此の幾十年來機械が發明せられてからは、生産力は従前に比較して全く非常な差である。

我等は之を證明する爲眼前の事實に就いて語りたい。例へば廣州の市街で最も多く見受けらるる運送の苦力は、挑夫と言つて居るが、此の種挑夫の人数は廣州市勞働者の大部分を占めて居る。此の挑夫は其の中體力氣魄の最も強壯なものでも、最重二百斤のものを擔いで、一日幾十里（支那里）を歩み得るに過ぎない。だが斯様な挑夫はさうざらにある譯ではなく、普通一般の挑夫と言へば、まあ精々數十斤のものを擔つて數十里を歩くが關の山で、其れでさへいい加減苦しいのである。斯うした挑夫と運送用の機械とを比較して見れば何うであらうか、其の差は何んなであらうか。廣州市黄沙驛にある汽車は貨物を運送するに一臺の機關車はよく二十餘臺の貨車を牽くことが出來、一臺の貨車には幾百擔（一擔百斤）の貨物を積載することが出来るのであるが、貨車一臺で幾百擔搭載し得るとすれば、二十餘臺では一萬擔を積載するに足る譯で、この一萬擔の貨物

を一臺の機關車を以て引かせ、一人二人の機關手に機關車の機械を管理せしめ、或は其れに數人の貨車管理人さへあれば、一日に能く幾百里を走ることが出来るのである。例へば廣州の粵漢鐵道の黃沙驛から韶關迄は約五百里あるが、之を若し従前のやうに専ら人力を用ひて貨物を運送するとすれば一人一擔を擔ふとして百人では百擔、若し一萬擔の貨物があれば一萬人の挑夫が要ることとなる。更に挑夫の歩む路程を計算して見れば、一人一日大約五十里として、五百里の路程には十日間歩かねばならず、一萬擔の貨物を従前通り専ら挑夫を用ひて運送するものとすれば、一萬人の挑夫が十日間歩かねばならぬこととなる。之を今汽車を使用して運送すれば、僅か八時間を要するのみで、黃沙から韶關迄行くのに最大十人の労働者を使用しさえすればいいのである。斯うして見ると、十人を使用してする仕事は一萬人に代え得、八時間を以て十日に替え得るのである。機械と人工との差は實に驚くべきものがあるではないか。汽車を以て運送すれば單に一人を以て一千人に、一時間を以て一日に代ふことが出来、非常に便利で迅速なるのみか、運賃の點に就いて言ふも、一人の挑夫が一擔の貨物を擔つて五十里の路を行き一日大約一元を要するものとし、一萬の挑夫を使用し一萬擔の貨物を擔つて十日の路程を行くとすれば合計十萬元を要する。之を汽車で運送すれば、最大數千元に過ぎないであらう。機械と人工とを比較しての差は、單に

挑夫許りがこんな大きな差があるのではない。その他田を耕し布を織り家屋を建築しその他種々な仕事にも亦幾百倍幾千倍の差がある。

故に機械の發明せられてからは世界の生産力に一大變動を生じた。此の大變動は、機械が人工を占領したことを意味する。機械を持つて居るものは、機械のないものの金を全部捲き上げて了つたものである。又廣州の如きは鴉片戦争以前に於ては中國唯一の開港場であつた。中國各省の貨物は悉く先づ廣州に運ばれ、然る後再び廣州から外國へ運送せられ、外國の貨物も一旦は廣州へ運送せられ、然る後再び廣州から各省へ運送せられた。故に中國各省の輸出貨物は、すべて湖南江西を經、南雄樂昌に至り始めて廣州に來たものである。其の結果、南雄樂昌から韶關に至る此の二條の路は、當時沿道に挑夫が非常に多く、兩側の茶館飯店なども非常に混雜したものであつた。其の後外國貿易が開け、各省の貨物は或は海船により廣東に運ばれ、或は上海天津より直接外國に運送せられ、例の南雄樂昌から韶關に至るこの兩路をさつぱり經過しなくなつたので、其の兩路の労働者は現在では何れも減少して、あの兩路従前の繁昌は何處へやら、今では荒涼たるものに變つて了つた。そして粵漢鐵道の開通後は更に人工に代ることとなつて、廣州韶關間の挑夫は全く其の跡を絶つに至つたのである。其の他各國の状態もすべて同様である。従つて機械の

發明後は許多の人が一時に失業して働くべき仕事なく食ふべき飯がないと言ふ有様となつた。此の大變動を外國では實業(産業)革命と言ふ。此の實業革命が起つたが爲に労働者は甚大なる苦痛を受けた。で此の種苦痛を解決せんが爲に、最近數十年來社會問題なるものが發生したのである。

此の社會問題こそは、即ち今日説かんとする民生主義なのである。余は本日何が故に直接外國を學んで社會主義と言はず、民生なる中國の古い名詞を持ち來つて社會主義に替えようとするのであるか。之れは非常に道理のあることで、我等は此の點大いに研究せねばならない。機械が發明せられ實業革命を経過して社會問題が起つた。即ち社會主義を發生した。故に社會主義の發生は既に數十年前のことに屬する。けれども此の數十年の間、歐米各國では社會主義に對し未だ一つの解決方法も發見するに至らず、今も尚ほ劇烈なる鬭争の中にある。此の種學説と思想は、現在中國にも流入し來り中國の一部の新學者亦之を研究しつつある。社會主義の中に又共產主義と言ふものがある。そして現在中國には社會主義が流行を極めつつあるため、自然共產主義の名も亦盛んに流行してゐる。中國の學者は、社會主義と共產主義とを併せ研究して一つの解決方法を發見せんとしてゐるが、之れ亦非常に困難なことであらう。何故なれば此の學理が發明せられて既に數十年を経過する外國に於てさへ、今も尚解決するに至らないのに、つい此頃中國に入つて來た許

りの問題に對し我等が解決しようとするのであるから容易でないのが當然である。

我等がこの問題を研究せんとするならば、先づ本來の性質と定義とを研究して明瞭にして置かねばならない。共產主義と社會主義との二つの名詞は、現在外國では、同様に並稱せられて居るもので、その辨法は各異なつては居るが、一般通稱的名詞としては皆社會主義と言ふ字を用ひて居る。現在中國に於ては社會主義と社會學との二名詞を一樣に取扱つて居るものがあるが、これは混同も甚しい。が之は單に中國人が有して居る許りではなく外國人でも往々この種混同した觀念を有つてゐる。これは英語で社會といふ名詞は「ソサチー」、社會學は「ソシオロジー」、社會主義は「ソシアリズム」であるが、この三字は、その前半の「アルファベット」が皆同じであるため多くの人が混合するのである。その實英語は社會主義「ソシアリズム」なる字は希臘語から變つたもので、希臘語で社會主義の原意は、同志と言つて中國で俗に言ふ夥記と言ふ字と同義である。社會學の範圍は、社會の情狀社會の進化及び群集結合の現象の研究にあり、社會主義の範圍は、社會經濟及び人類生活問題の研究即ち人民の生計問題の研究にある。故に余は民生主義を以て社會主義に替えたのである。其の本來の目的は社會問題の本を正し源を清め又此の問題の眞性質を明かに表明し、そして一般人が此の名詞を聽いて直に了解し得るやうにするにある。社

會主義發生して幾十年、此の種學理を研究する學者は其の數幾千百家ありしか、又其の著書幾千百種あるかも知れない程であるが、其の中社會問題解決に關する學說の多き、眞に聚訟紛々と言ふ有様である。だから外國では俗に社會主義に五十七種ありと言つてゐる。が果して何れの一説が正確であるか分らない。斯様に社會主義の學說が多岐多種であるところから、一般のものは何れに依るべきか其の適從するところがないのである。

歐洲大戰發生後、社會の驚くべき進歩に伴ひ、世界の潮流は今や社會問題を解決すべき時期に到達した。従つて凡そ従前社會主義に無關心であつた人も、今はやはり社會主義の路を歩みつつある。だから大勢上より論ずれば、社會黨は當然幾多の事業を爲し得、又當然社會問題を完全に解決し得べき機運に際會して居ると言へやう。ところが社會黨の内部に幾多の紛争を生じ、全國に社會黨が一時、風起雲湧、種々なる黨派を發生した。その中最も著明なるものは、所謂共產黨、國家社會黨及び社會民主黨である。これ等各黨派は非常に複雑を極め殆ど五十七種以上にも上つた。斯様な譯で、従前の傍觀者達の社會黨派別の複雑なるに對する批評が、この時になつて恰度所謂不幸にも言ひ中てたと言ふことになつたのである。歐洲大戰發生前、歐洲には社會主義に賛成するものと反對するものとの兩派があつて、之に反對するものは大多數資本家であつた。従て

従前はただ社會主義に反對した資本家と社會黨との戦争であつた。歐洲大戰發生後社會主義反對の資本家は、殆んど降服同様の状態となり、事實社會黨は機に乗じて社會問題の解決を爲し得るが如く思はれて居た。ただ奈何せん、當時尙ほ社會主義に賛成して居た人々の間に適當な辦法が想出されて居なかつたがために、社會黨内部に幾多の、従前の反對派對賛成派の紛争にも増して激烈なる紛争を發生した。斯うした譯で社會問題は今に至る迄解決することが出來ず、従て今日尙ほ之を研究しなければならぬのだ。従前資本家労働者及び學者が一致して社會主義に反對してゐた頃、凡ゆる世界各國の社會主義者達は、其の國境を問はず皆同志と考へて居たものである。ところが近來では、單に獨國での社會黨が露國の社會黨に反對し、或は露國の社會黨が英米の社會黨に反對して國際的に紛争しつゝある許りでなく、一國の社會黨内部にも亦種々の紛争を演出した。だから社會問題は愈々演じて愈々紛亂を極め、今尙ほ適切なる解決方法が探出されて居ないのである。

余が本日説かんとする民生主義は、究竟するに社會主義と區別があるか何うか。社會主義中最大の問題は社會經濟問題で、この問題はとりもなほさず一般人の生活問題である。機械の發明後、大部分の人の仕事は殆んど機械の奪ふところとなり、一般の労働者は生存も覺束なくなつた。そ

ここで社會問題は發生したのである。であるから元來社會問題なるものは、人民の生活問題を解決せんがために發生したものである。故に單にこの點だけの道理に就いて言へば、社會問題は即ち民生問題なのである。従て民生主義は社會主義の主題であると言ふことが出来る。現在各國の社會主義は各其の主張を異にし、従て各國の社會問題解決の方法も亦夫々同じくはない。社會主義は結局民生主義の一部であらうか。其れとも民生主義は社會主義の一部であらうか。

産業革命後、社會問題を研究するものは其の數千百を下らず、其の中研究の最も透徹し最も造詣の深かつたものは、誰しも知つて居る「マルクス」であらう。「マルクス」の社會問題に於ける地位は、恰も「ルッソー」の民権問題に對する夫れと同様である。一百餘年前歐米に於て民権を研究したものは、恰度中國に於て孔子が崇拜せらるるやうに、誰一人として「ルッソー」を民権の聖人として崇拜しないものはなかつた。と同様に現在では、苟くも社會問題を研究する程のものは、又誰一人として「マルクス」を社會主義の、として、しないものはないのである。「マルクス」の學說の發表せられなかつた以前に於ては、世界に於て社會主義を説くものは、何れも非常に高遠な、そして事實に遠い理論を陳べたものである。然し「マルクス」は専ら事實と歴史方面より研究し、終始社會問題の經濟變遷を闡明して遺すところがなかつた。故に後の學者は、社會

主義者を兩派に分類して一を「ユートピアン」派と言ふ。「ユートピアン」は中國の黃老の所說華胥の國と同じ意味である。他を科學派と言ひ、専ら科學的方法に依て社會問題の解決策を研究せんとするものである。「ユートピアン」派に至つては、専ら理想に基いて社會を改良し樂土的國家を建設せんとするものであつて、即ち此の種、子虛烏有の寄託がある。斯うした寄託は非常に徳高き天を悲しみ人を憫むの人が、人類の受くる苦痛の甚しきを見て、心忍ぶ能はず、さればとて又之を改良すべき力もなかつた爲、理想上の空話を語つて一種の寄託を造つたものに他ならぬ。中國の俗語に言ふ「天生一條蟲、地生一片葉、天生一隻鳥、地生一條蟲」と。これはすなはち虫あらば葉に養はれ鳥あらば虫に養はると言ふ意味である。人類の天然の形體は不完全であつて生來羽毛がないから、必ず衣を需めて寒を禦ぎ必ず食を需めて生を養はなければならぬ。

太古果實を食して居た頃は、地廣く人稀れに人々は皆非常に容易に食を覓むることが出来、必ずしも余計に働かなければ生活が出来ないと言ふ譯ではなかつた。漁獵時代に至ると、人民は魚を捕り獸を獵つて魚肉を得て始めて生活することが出来たのであつて、即ち働かねば飯にありつけないやうになつた。遊牧時代になると、人類は牧畜に従事しなければ生活が出来なくなつた。當時の人々は、何れも水草を逐ふて常に居を遷した。凡ゆる仕事は非常に苦しい勤勞であつた。農

業時代に至り人類は生活するために五穀を植えねばならなかつた。そして人類の生活は更に複雑を加へ、凡ゆる仕事は更に一段と苦しい勤勞であつた。工商時代に至つては、萬事に機械を使用し人力を用ひず、人類に如何に力あればとて之を用ふるところなく、勞働を賣らんと欲すれば傭主は見當らないと言ふことになつた。この時に至つては、幾多の人が食ふべき飯なく、甚しきは餓死するの外なく、その受くるところの苦痛は一言を以て盡くすべからざるに至つたのである。

ここに於て一般道徳家は、天然界の禽獸すら苦痛を受けずしてなほよく衣食し得るに、人類のみが苦痛を受け却て衣食を得ることの容易ならざる實情を見て、深く憐憫を催し、何等かこの痛苦を減少し人々をして悉く衣食の出来るやうにと考へた結果、社會主義の學説が發明せられこの問題を解決せんとすることとなつたのである。従て従前一般に社會主義を説く人は過半は道徳家であつて、即ち一般の賛成者も亦良心あり道徳ある人々であつたのだ。が經濟上既に成功を克ち得、自利以外に何等民衆の生活を顧慮するの遑なき資本家だけは、これに反對し社會問題に對しては至つて無關心であつた。この問題にして既に世界最大多數のために生活を謀る問題であり、先知先覺者に依てこの道理が發明せられた以上、多數人の同情心が之に賛成するのは極めて自然である。従てこの學説一度世に出づるや、忽ち社會黨は組織せられた。社會黨にして一たび

成立するや、その團體は日一日と發達し日一日とその大さを加へ、各國に擴充したものである。けれども従前社會主義を説くものは、何れも「ユートピアン」派で、ただ一個理想上の安樂世界を建設して人類の苦痛を消滅せしめんことを希望するに過ぎないものであつて、その消滅の具體的方法に至つては彼等は毫も想倒するところがなかつたのである。「マルクス」世に出づるに及んで、彼は彼の聰明才智と學問經驗とを以て、この問題に對し一種極めて透徹した研究をなし、古人の知らざりしところ及び解決し能はざりしところを悉く發明したのである。彼の發明は全然經濟原理に憑據した。彼は經濟原理に對する透徹した研究の結果、従前の社會主義を主張せる人々を批評して、個人的道徳心と群衆的感情作用に過ぎずとなし、事實經濟問題なるものは道徳心や感情作用を以てして解決し得るものではない、社會の實情と社會の進歩とを明かに研究することに依つてこそ解決し得るものなりとした。この種社會問題解決の原理は、すべて事實に憑り理想を尙ばざるものである。「マルクス」の著書とその學説とに至つては幾千年來の人類の思想を集めて大成したものと云ふことが出来る。

従て彼の學説一度び世に出づるや、舉世風從、各國の學者は何れも、恰も「ルッソー」が民權主義を發明してから民權を研究するものは皆「ルッソー」を信仰したと同様、彼を信仰し彼の道を歩

いたものである。「マルクス」以後社會主義は「ユートピアン」派と科學派との兩派に分れた。「ユートピアン」派の情形に就いては前述の通りであるが、科學派は科學的方法を以て社會問題を解決せんことを主張する。最近幾十年來、物質文明は極度に發達し科學亦大いに昌明となつたため、萬事科學的に解決せられ、圓滿なる目的に到達することが出来ることとなつた。即ち社會問題の解決方法も亦、科學的に研究して始めてその結果を得ることが出来たのである。

説いてここに至らば、余の學説「知るは難く行ふは易し」と言ふに歸結せねばならぬ。天下のことこれを眞に知るならば行つて到り得ることは容易である。例へば今日この講堂は非常に熱い、我等はこれに對し人力を用ひずとも煽風機を使用すれば涼しくすることが出来るが、斯うしたことで、古人とか田舎の無智なものなどが見たならば、神鬼が動かすのであると思ふであらう。所謂天工を巧奪するものとして、この奇怪なる煽風機に對し必ずや祈禱禮拜するであらう。現在諸君は煽風機の詳細なる構造に就いてはよく知らないかも知れぬが、電磁吸引の道理は知つて居るから、電氣が電扇を吸引するために電扇が廻轉する位のこととは判る筈で、決して奇怪千萬なものとは考へないであらう。まさか古人の聰明が我等に及ばないと言ふ譯でもあるまいに、之は一體何うしたことであらうか。この原因を推論すれば、即ち古人は科學を知らなかつたがため、煽風

機を發明することが出来なかつたので、古人に技術がなかつたため煽風機を使用することが出来なかつた譯ではない。近來科學を知り科學者が出来たがため煽風機が發明せられ、従て一般に之を使用して涼を納めることが出来るやうになつたのである。古人にしても果して科學を知つて居たならば、古人の聰明才智を以てすれば、恐らくその發明は或は我等のそれに比し更に一段と巧妙を極めたものであらうと思はれる。

社會問題の解決は、「マルクス」以前に於ては、單なる一種の達し得られない希望と考へられてゐた。「マルクス」自身も亦單に社會主義的理想にのみ依つて研究すれば、やはり一種の幻想に終り、よしんば全世界の人の賛成を受くることは出来ても決して成功するものではない、之に成功せんがためには是非とも事實に憑り科學的方法を以て之を研究しなければならぬとなした。であるから彼は一生の間、社會主義の研究には常に科學的方法に基いて工夫したのである。彼の社會主義研究の仕事たるや、更に非常な苦しいことであつた。彼は英國に亡命して居た當時、英國は近世に於ける如何なる國家も之を凌駕することは出来ない程の最文明國であつた。従てその文化的施設も亦頗るよく齎備せられてゐた。一圖書館の如き幾百萬種の藏書を有し如何なる問題の書籍でも非常に豊富であつた。「マルクス」はその圖書館に通つて研究したものである。そして二

三十年の功を積み一生の精力を費して、社會主義に關する書籍を、その古人の著作たると或は時人の發表にかかるものなるを問はず、悉くこれを探し集めて詳細過ぎる程詳細に參考比較して其の結果を求めんとしたものである。この社會問題研究の方法は即ち科學的方法である。從て「マルクス」の發見した社會問題解決の方法は科學的社會主義と言ふべきである。

彼は斯の如き詳細にして深奥なる研究に依て一種の結果を求出して言ふ、世界各種人類の動作で凡そ文字によつて記載せられ後人に示されてあるものは總て歴史と爲すことを得ると。彼はこの歴史の中から最も重要な一點を發明した。即ち彼は、世界一切の歴史は物質を中心として動いてゐる、物質に變動があれば世界も亦之に隨つて變動すると言ふて居る。同時に又人類の行爲はすべて物質的境遇によつて決定せられる。故に人類の文明史は物質の境遇に隨ふ變遷史なりと言ふことが出來ると言ふた。「マルクス」のこの發明を「ニュートン」の發明した天文學の重心學說と同様なりと言ふものがある。今「マルクス」は物質は歴史の重心なることを發明した。彼の透徹した研究は之を證據づける理由が充足して居たため、從前社會主義に反對して居た幾多の人々も後には皆社會主義贊成者となつた。そして更に「マルクス」の學說を仔細に研究した人は彼を信仰するに至つた。歐洲戰後世界には社會主義に反對する人は殆んどなくなつた。從て社

會黨たるものは、爲さんと欲するところを爲すことが出來、本來ならば、各國の社會問題を解決することが出來た筈である。當時最大の勢力を有する社會黨は「マルクス」派—「マルクス」派は科學派—であつたが、從前は「ユートピアン」派であつた。當時各國の社會の秩序の紊亂に當り、社會黨内の科學派と「ユートピアン」派とが衝突したことは固より當然の成行であつたが、衝突は之のみに止まらず、科學派の社會黨内部に於てすら相互に衝突した。この内部的衝突に原因し社會問題は歐洲戰後今尙ほ解決するに至らないのである。

社會黨の聖人「マルクス」が物質を以て歴史の重心としたこの道理は、究竟するに如何なる理由に依るものであらうか。「マルクス」門徒は一千八百四十八年「ベルギー」に國際社會黨大會を開催し幾多の辨法を規定したが、現在各國に於ける「マルクス」派の社會黨所要の辨法は、多くは依然當時定められたところの大綱を奉行して居るのである。歐洲大戰發生後、露國はその主義を實行したが、現在では既にその主義を改變した。改變した理由は何であるか。我等は餘り露國の情形に就いて研究して居ないから大膽に之を判斷することは避けたいが、露國人自身の説に依れば、從前露國が行つた革命辨法は決して「マルクス」主義ではなく一種の戰時政策であつたからだ。この種戰時政策は獨り露國のみが行つたものでなく、英國獨國及び米國が歐洲戰爭當時、全國の

鐵道、汽船及び一切の大製造工場の如き大産業をすべて國有に收歸したのと同様の辦法である。然るに何が故に英米の實行したものに對して戰時政策と言ひ、露國が實行したところのもののみを「マルクス」主義と言ふのであらうか。その理由は即ち露國の革命黨が「マルクス」主義を信仰し、而して之を施して實行せんと欲したからである。又露國人に依れば、露國は現在のところ産業經濟共に尙ほ充分に發達して居ないので、「マルクス」主義を實行することが出来ない、英米の産業及び經濟の如く發達して始めて「マルクス」主義を實行し得ると言ふ。故に「マルクス」學說の理論に就いて「マルクス」信徒の間に、歐洲戰以後大論争を惹起するに至つた。獨佛及び露國の各社會黨は元來すべて「マルクス」主義に服従し國際派を造つて居たが、論争のときに至り、彼此互に攻撃し互に誣毀し合ひ、攻撃するものは總じて攻撃せらるる相手方を「マルクス」主義の異端者となし、一派は他の一派を攻撃し、一國の社會黨は他國の社會黨を攻撃すると言ふた具合であつた。これ等攻撃と誣毀とは「マルクス」の學說に一つの疑問を發生せしめた。即ち物質は果して歴史の重心たりや否やの問題である。

「ニュートン」は研究の結果、太陽は宇宙間に在て我等の中心であると言ふ結論に到達したが、この道理は天文學及び各種科學に照して研究すれば至極正確である。「マルクス」の發明せる物質は

歴史の重心であるといふこの道理は果して正しきや否や。歐洲戰爭幾年の實驗を經過して多くの人は正しからずと言ふ。然らば結局如何なるものが歴史の中心であらうか。我等國民黨の民生主義を提唱する、既に二十餘年である。其の間社會主義を説かずして、たゞ民生主義を説いた。社會主義と民生主義との範圍は如何なる關係にあるであらうか。近來米國の一「マルクス」信徒「ウィリアム」(Whiting William)氏は深く「マルクス」主義を研究し、自己同門相互の紛争には確かに「マルクス」學說に不十分な點があるに相違ないとの結論に到達した。彼は意見を發表して言ふ、「マルクス」は物質を以て歴史の重心とした、がこれは間違ひであると。社會問題こそ歴史の重心でなければならぬ、而して又社會問題の中でも生存を以て重心とすると。生存を社會問題の重心としてこそ合理的である。民生問題は即ち生存問題である。この米國學者の最近發明せるものこそは適々我黨の主義に符節を合したものと云ふべきである。この發明は即ち民生を以て社會進化の重心とし、社會の進化は又歴史の重心を爲すと言ふにあり、歴史の重心は民生であつて物質ではないと言ふことに歸結する。我等は民生主義を提唱すること二十餘年、當初の詳細な研究から反覆思惟し、民生のこの二字こそは、凡ゆる社會問題を包括するものであり、之を社會又は共產等の名詞に比べて適當であり切實にして且つ明瞭であることを覺つた。故にこれを採

用したのであつたが、圖らずも歐洲戰發生後、事理更に明かとなり、學問更に進んで、「マルクス」學徒の間にも亦我等と相同じき點が發明せられたのである。之を以て見るも、我黨の提唱する民生主義こそは、正しくその進化の原理に合ひ流行を追ふ學者達の口眞似ではないことを想見するに足るであらう。

この米國學者の主張に依れば、彼は古今人類の努力はすべて自己の生存問題の解決を求むるにあつた。人類が生存問題の解決を求むることこそは、社會進化の定律であり歴史の重心である。「マルクス」の唯物主義は社會進化の定律を發明して居ない、又歴史の重心でもないと説く。我等がこの兩者の説の中、果して其の何れの主張が正しいかを明白にせんがためには、彼等の主義と近世に於ける社會進化の事實とが相符合せるや否やに就き詳細なる研究を遂げなければならぬ。「マルクス」は社會問題を研究して専ら物質に重きを置いた。物質を説かんとすれば、自然先づ生産に注意しなければならぬ。過重なる生産がなかつたならば自然産業革命も起らなかつたであらうから。故に生産は近世經濟上の第一の問題である。近世の經濟情形を知らんがためには、必ず先づ近世の生産情形を知らねばならぬ。然らば近世の生産情形は如何に。生産品はすべて労働者と機械とを使用し資本家と機械との合作に由り再び労働者を利用して始めて近世の大生産に到達し

た。この大生産に依る所得利益は、資本家がその大部分を獨占し、労働者の分け前は少なかつた。従つて労働者と資本家との利益は常に相衝突し、衝突した結果解決不能となつて、そこで階級闘争が生じたのである。「マルクス」の觀察に照せば、階級闘争は産業革命後に發生したものでなく、凡そ過去の歴史はすべて階級闘争の歴史ならざるはなく、古來主人と奴隸との闘争、地主と農奴との闘争及び貴族と平民との闘争、簡言すれば、壓迫者と被壓迫者との闘争の歴史であつた。たゞ社會革命が完全に成功するに至らば、この兩者相闘争するの闘争は始めて一齊に消滅すると言ふ。斯様に「マルクス」は、階級闘争あつて始めて社會の進化があり、階級闘争は社會進化の原動力と思ひ込んで居たのである。これ階級闘争を以て因となし社會進化を果となすものに外ならぬ。我等にしてこの種因果の道理が社會進化の定律なりや否やを知らんがためには、近來の社會進化の事實を考察する必要がある。最近幾十年社會は非常に進化し、各種社會進化の事實は更に複雑となつた。即ち經濟の一方面の事實に就いて言ふも、亦一言にして盡くすことは出来ないが、概括的に言へば、歐米近年の經濟の進化を四種に分かつことが出来る。第一は社會と工業との改良、第二は運輸と交通との公有、第三は直接徵稅、第四は分配の社會化である。この四種の社會經濟事業は總べて改良の方法に依て進化したもので今後も引續き日々改良せられ日々進歩するで

あらう。

この四種の社會經濟事業の詳細なる情形は如何に。例へば第一に就いて言へば、即ち政府の力を以て労働者教育の改良、労働者の衛生の保護、工場及び機械の改良を實施して極めて安全にして極めて快適なる労働たらしめんとするにある。斯の如き改良にして可能ならんか、労働者の労働能力は増大し彼等は自ら進んで労働に従事し生産能率も非常に増大することとなるであらう。この種社會進化事業は獨國に於て最も早くから施行せられ且つ最も効果を擧げて居る。近年英米も亦これを模倣實行して居るが、これ亦同様の効果を擧げて居るやうだ。

第二の情形に就いて言へば、即ち電車、汽車、汽船及び一切の郵便電信交通の大事業をすべて政府に於て經營することを意味する。政府の絶大なる力を以てこれ等大事業を經營してこそ運輸は迅速となり交通は靈敏となる。運輸迅速となり交通靈敏とならば、各地方の原料を非常に容易に工場内に運搬してその用に供することが出来、工場の生産品も非常に容易に市場に運搬せられ販賣せられて、その間多大の時間を費し原料と製産品とを中途に停滯せしめ莫大なる損失を受くるを免れしむることが出来る、これに反し若し政府の經營とせず個人經營としたならば、個人の財力不足の爲ではなく、即ちその壟斷的阻力の極めて大なる結果、歸結するところは必ずや運輸

迅速ならず交通の敏活を缺くこととなつて、全國各種經濟事業をして無形の中に甚大なる損失を被らしめねばならぬこととなるであらう。この種事業の利害は、獨國に於ては夙くから明白であつたので、彼等は各種の大運輸交通事業を夙に國家に於て經營したのである。米國も亦歐洲戰時、その私有大運輸交通事業を政府の經營に收歸した。

第三種の直接徵稅も亦最近進化して出來た社會經濟の方法である。その實施方法は、累進稅率を適用して資本家の所得稅及び遺産稅から多徵するにある。この稅法を行へば國家の財源をして多く直接資本家から求むることが出来る。これは資本家の收益が莫大であるがため國家が直接徵稅せんとするもので、所謂「多取之而不爲虐」である。従前の舊式の稅法では、ただ錢糧と關稅との二種に過ぎず、この種稅法を行ふことは、即ち國家の財源を完全にこれを一般貧民より取らんとするものであり、資本家は國家に對してただ權利を享有するのみにて毫も義務を盡さざることとなる。これでは餘りに不公平である。獨國英國には非常に早くからこの種不公平な事實が發現して居たので、彼等は夙に直接徵稅の方法を實行して來たものである。獨國政府の歲入は所得稅及び遺産稅より得るものが全國收入の約百分の六十乃至八十を占め、英國政府に於ても歐洲戰爭開始當時この種收入は百分の五十八に達して居た。米國がこの種稅法を實行したのは前二國

とは大分後れ、十年前漸くこの法律が出来た。この法律制定後、國家の収入は年々著しく増加を示し、千九百十八年には所得税一項の収入のみにても約四十億米弗に上つたものである。その他歐米各國も近年直接徵税を實行して大財源を加へ、従つてその財力を以て種々なる社會事業を改良して居る。

第四種の分配の社會化は更に歐米社會最近の進歩した一事業に屬する。人類が金錢を發明し、買賣制度が出来てから、日常一切の消耗品は多くは商人の手より間接に買ふこととなつてゐる。商人は極めて低廉なる價格を以て生産者から貨物を仕入れ、再び消費者に賣る一轉手の勞にて、莫大な口錢を儲けるのである。この種貨物の分配制度は買賣制度と言ふことが出来、又商人の分配制度と言ふことも出来る。消費者はこの種商人の分配制度の下にあつて、莫大なる損失を受けつつある。であるから近來この種制度を研究した結果、その改良に成功し、必ずしも商人から分配して貰はなくともよくなり、社會團體を組織して分配し、或は政府から直接分配することが出来るやうになつた。例へば英國の新發明にかかる消費組合（合作社）の如きは、即ち社會團體を組織して貨物を分配するものである。歐米各國最新都市の政府の如きも、水道、電氣、石炭及び「パン」、牛乳、「バター」の食料品に至る迄政府に於て貨物の分配をして居る。斯の如き分配の

新方法を採用すれば、商人の口錢を省略し消費者の受くる損失を免れしむることが出来るのである。この種新分配方法の原理は分配の社會化と言ふことが出来る。即ち社會主義を實行して貨物を分配することである。以上説くところの社會と工業の改良、運輸及び交通の公有、直接徵税及び分配の社會化とのこの四種の社會經濟の進化は、種々なる舊制度を打破し種々なる新制度を發生した。社會は常に新制度を發生するがために常に進化する。

この種社會進化の原因は如何なるものであらうか。何うして社會にこの種變化が起るものであらうか。若し「マルクス」の學說に照して判斷すれば、自然階級闘争からと言はなければならぬ。又社會上の階級闘争の起る原因はと言へば、自然資本家が労働者を壓制するからと言はなければならぬ。資本家と労働者との利益は總じて相衝突するものであつて調和することが出来ない。故に闘争が起る。そして社會はこの闘争あるが爲に始めて進化すると言はなければならぬ。けれども歐米最近幾十年來の社會進化の事實を見るに、特筆すべきものは、分配の社會化に由る商人の壟斷の消滅、資本家の所得税及び遺産税の多徴による國家財源富力の増加、更にこの財源の利用に依る運輸の公有及び労働者の教育衛生及び交通工場設備の改良に伴ふ社會の生産力の増加である。社會の生産力が増大したため一切の生産は何れも豊富となり資本家の莫大

なる利益は固よりながら、労働者も亦多額の勞銀を得た。かく見れば、資本家は労働者の生活を改良し労働者の生産力を増加せしめ、労働者に大生産力があつたがため資本家のために生産を多からしめ、結果資本家側の出産を増加することか出来、労働者側に於ても亦多額の勞銀を得ることが出来たのであつて、これ資本家と労働者との利益を相調和せるものにして相衝突したものではない。思ふに社會の進化する所以は、社會の大多數の經濟利益の相調和するところにあり、社會の大多數の經濟利益が衝突するからではない。社會の大多數の經濟利益を調和することとは、即ち大多數の爲に利益を謀ることである。大多數の利益があつて、始めて社會に進歩がある。社會の大多數の經濟利益を調和せねばならぬ所以は、即ち人類の生存問題を解決せなければならぬからだ。古今一切人類の努力を必要とした理由は即ち生存を要求するが爲であつた。人類の間斷なき生存あるが故に、社會に停止せざる進化がある。故に社會進化の定律は人類の生存を求むるにある。人類が生存を求むることこそ社會進化の原因であつて、階級闘争は社會進化の原因ではない。階級闘争は社會進化途上に發生する一種の病症である。この病症の原因は人類が生存することが出来ない點にある。人類が生存し能はざるがために、この種病症の結果として闘争を起すのである。「マルクス」が社會問題を研究して會得したところは、單に社會進化の病

症に限られ社會進化の原理ではない。故に「マルクス」はただ一個の社會病理家と言ふべきで、社會生理家と言ふことは出来ないのである。

再び「マルクス」の階級闘争の學說に照して言へば、彼は資本家の剩餘價值はすべて労働者の労働中から剝奪して來たものであると説く。そして一切の生産の功勞を完全に労働者の労働に歸すべきものとして、社會のその他各種有用分子の労働を忽略にして居る。例へば中國の最新工業と言へば、上海、南通州、天津及び漢口等各地に經營せらるる紡績工場、紡織工場であるが、之等工場は歐洲戰に際し非常な利益を擧げたもので、各工場毎年の残すところの剩餘價值は少くも數十萬、多きは數百萬に達して居たものである。斯様な莫大なる剩餘價值は果して何人の功勞に屬するものであらうか。それは紡績工場、紡織工場の僅の労働者の労働のみから得られたものであるか何うか。紡績紡織に就いて論ずるに、我等は棉糸棉布の原料に就いて考へて見なければならぬ。棉糸、棉布と言へば自然我等は棉花に推及しなければならぬ。棉花の來源を研究せんとするには、我等は種々なる農業問題に推及しなければならぬ。棉花の農業問題を詳細に語らんとするには、自ら棉花の種子竝に棉花を播植栽培する農業家の研究に迄及ばざるを得ない。棉種を播かんとするには、各種道具及び土地耕耘の機械を使用せざる能はず、及び播種後は又これを

培養し棉花を枝幹に結ばしむるため肥料を使用しなければならぬ。斯の如く我等が一度それ等機械及び肥料に想到すれば、其の功はそれ等機械と肥料との製造家と發明家に歸せざるを得ない。更に棉花收穫後これを工場に運んで糸を紡ぎ布を織らねばならぬ。布及び糸を製造せられた後、再び各地市場に運送して販賣するには、自然之を運輸する汽船、汽車に想到せねばならぬ。而も汽車汽船が何うして動くかを研究するならば、第一にその功はそれ等蒸気及び電氣の發明家に歸せざるを得ず。汽船汽車の構造材料を研究すれば、自然その功を金屬の採鑛家、製造家及び木材の種植家に歸せざるを得ないのである。斯様にして棉布及び棉糸が製造せらるるもの、社會に於て勞働者以外その他各界の人民が其の棉布を着せず其の棉糸を使用しなかつたならば、棉布及び棉糸は之を賣捌くことが出来ないであらう。棉布、棉糸の大販路がなかつたならば、紡績工場、紡織工場を經營する資本家は何うして金を儲けることが出来やうか。何うして多くの剩餘價值を取得することが出来やうか。之等諸情形に就いて考へて見た場合、これ等紡績工場及び紡織工場の資本家が取得する剩餘價值なるものは、果して誰に屬すべきものであらうか。番に棉糸棉布工業の剩餘價值の情形が斯くある許りではない、各種工業の剩餘價值の情形もすべて同様であるのだ。之に依ても凡ゆる工業生産の剩餘價值なるものは、單に工場内の勞働者の勞働の結果のみで

ないことが判るかと思ふ。凡そ社會に於ける各種有用有能の分子はその直接たると間接たると論なく、生産方面に或は消費方面に在つて、總て多少の貢獻をなしつつあり、然もこの種有用有能の分子が社會の大部分を占めて居るのである。

専ら勞働者に就いて言へば、即ち工業の極めてよく發達した米國でさへも、その勞働者の數は二千餘萬人に過ぎずして全米人口の五分の一に過ぎないのである。若しそれその他工業不發達の國家に至らんか、例へば中國の勞働者の數の如きは更に寥々として少ないであらう。この見地からすれば、工業の極めてよく發達したる國家に於て全國の經濟利益が相調和せず、衝突を發生し鬭争を惹起した場合には、一勞働者階級と一資本家階級との鬭争に非ずして、社會の大多數を占むる有用有能なる分子全體と一資本家階級との鬭争であらねばならぬ。之等社會の大多數の有用有能の分子の生存要求に對し經濟的鬭争を免れしめんが爲なればこそ、政府に於て貨物の分配をなし、資本家の所得税遺產税を多徴して全國の運輸及び交通事業を發達せしめ及び勞働者の生活及び工場の工作を改良し種々大多數の經濟利益調和の事業を爲したのである。そして歐米各國がこの種々なる經濟利益を調和する事業を實行してより、彼等の社會は非常な進歩をなし大多數は幸福を享け得たのである。故に「マルクス」の社會問題の研究は、ただ社會の一部分の病氣を求む

るに止まり何等社會進化の定律を發明するところはなかつた。この米國學者の發明せるところの人類が生存を求むることこそ、社會進化の定律であり歴史の重心なのである。然らば人類が生存を求むるとは如何なる問題であらうか。民生問題即ち之れである。故に民生問題こそは社會進化の原動力と言ひ得る。我等はこの社會進化の原動力を明白にしてこそ初めて容易に社會問題を解決することが出来るのである。

「マルクス」は、階級闘争こそは社會進化の原因なりと認定したが、これ果を倒にして因となすものである。「マルクス」の學説は因果を顛倒し本源が明かでない爲に、彼の學説が世に出でて後、各國の社會に發生した事實は悉く彼の學説と阻礙し、或るときは又相反したのである。例へば彼の門徒が一千八百四十八年第一次國際共產大會を開催し種々の主張を發表した。その際組織せる國際共產黨は普佛戦争のとき消滅せられて了つた。その後又第二次の國際共產黨が成生した。第二次國際共產黨と第一次のそれとの異なる點は、第一次國際共產黨は、完全に階級闘争の原理に基き革命手段を以て社會問題を解決せんとし資本家と調和せざること所謂絶對的不妥協を主張し、又共產黨員の國會加入を許さず議會加入を以て科學的方法にあらずと爲すところにある。けれども其の後獨國の共產黨は皆國會に活動して今日に至り、英國の労働黨亦君主立憲政府の下

に内閣を組織してゐる。之等の事實は、世界に發生せる幾多政治經濟の變動は何れも第一次國際共產黨所定の辦法に依つたものではないことを示す。第一次國際共產黨及び第二次國際共產黨の主張に大なる相違があつたがために、其の後「マルクス」黨徒の紛争は更に激烈となつたのであるが、これなどは「マルクス」の當時思ひも寄らなかつたところであらう。斯様に「マルクス」でさへも思ひも寄らざることがあつたのである。眞に余の學説の通り、知るは難く行ふは易しである。「マルクス」は科學を以て社會問題を解決せんことを主張した。彼の最も力を致した點は、第一次共產黨成立前に在つて、多大の精力を費し従前の歴史及び當時の事實を悉く研究しこれを明瞭にし得たところにある。彼は従前の歴史及び當時の事實を研究し之を綜合した結果一つの判断を下して言ふ、將來資本制度は必ず消滅すべきものであると。彼は資本主義の發達せる時代に於ては、資本家は彼此の利害關係に依て、大資本家は必ず小資本家を吞滅し、その結果社會は極富の資本家と極窮の労働者との二つになつて了ふ、そして資本の發達が極度に達すれば自ら分裂して一個資本國家が形成せられる、更に社會主義に依り自然に順應して解決せられ、一自由社會的な國家を形成するものと考へて居た。彼の判断によれば資本の極度に發達した國家は今正に消滅すべき時期にあり、革命が起らなければならぬと云ふことになる。併しながら彼のときより今に至る迄七十

餘年、我等が見るところの歐米各國の事實と彼の判斷とは事毎に正反對の現象を示した。即ち「マルクス」の當時、英國の労働者は八時間労働を要求し罷工手段を用ひて資本家に對抗した。「マルクス」は之を批評して一種の夢想となし資本家は必ずや許可せざるべしと云ひ、八時間労働の要求を貫徹せしめんがためには、革命手段あるのみと考へた。其の後英國労働者の八時間労働の要求は、番に事實となつて現はれたのみか、その上英國では、之が法律を制定して全國の大工場銀行鐵道關係労働者に至る迄八時間労働制を適用したのである。その他幾多の事實に就いて見るも、當時「マルクス」自ら豫見し得たりと考へて居たことも、その後事毎に相符合せず、「マルクス」自らでさへも亦彼の豫見の適中しなかつたことを認めない譯には行かなかつたものである。他の事實はさて置き、ただ資本の一項に就いて言へば、「マルクス」の見解では、資本主義の發達後資本家は相互に併呑し自滅するものとせられて居たが、事實は之に反し今日に至る迄各國資本家は常に消滅せざるのみか、更に一段と發達して止まるところがない。これを以ても「マルクス」の學理なるものを證明することが出來ると言ふものだ。

我等は再び獨國の社會状態に就いて語りたい。獨國は「ビスマルク」執政當時、國家力を以て労働者の苦痛を救済し、國家に於て八時間労働を規定し、少年及び婦女子の労働に對しては、その

年齢及び時間に種々なる制限を定めた。労働者の養老費及び保險費に關しても亦國家は種々規定するところあり、全國資本家をして之を負擔實行せしめんとした。當時資本家の幾多の反對はあつたが、鐵血宰相「ビスマルク」は彼の鐵血的手腕を以て強制的に執行したものである。實行の當初一般のものは、國家が労働者保護の方法を改良し労働時間を減少すれば、労働者側には有利で資本家側には損であらう。更に之を推理して従前十六時間の生産力は自然八時間の生産力より大きいであらうなどと考へて居たものである。ところが實行の結果は何うであつたか。實際に於ては八時間労働の方が十六時間労働よりも生産高が多かつたのである。この理は即ち労働者が一日八時間労働に従事するとせば、彼の精神體力を一杯一杯に使用しないため、衛生によく自然健康を害することなく、労働者の精神體力が常に健康たり得る。その結果工場内の機械を管理するにも自然周到となり、機械の損壞も甚しく減少し、機械の損壞が減少すれば従つて停工修繕の必要もなくなつて、生産を繼續し得ることとなり生産は自然に増加する。之に反し一日十六時間労働に従事する場合は、彼等の精神體力は過勞し、その結果非常に衰弱し、機械の管理も周到を缺き、従つて機械も常時破損し勝となり、停工修理せねばならなくなつて生産も繼續することが出來ず、生産力は自然減少することとなるからである。若し這間の理窟を信じられない人には、余は一つ

の比喩をあげて説明しやうから、諸君各自に於て自分で試験して見るがいい。例へば人が一日十五六時間も讀書すれば、精神疲倦の結果無理に多讀してもはつきり記憶することは容易であるまい。これに反して若し一日の讀書を八時間と制限すれば、その餘ます時間を休息に遊戯に精神を保養し得て讀書の際必ずや記憶も了解も容易に出来るやうになるであらう。時間の關係に就いては、當時「マルクス」は八時間労働とすれば生産力は必ず減少すべきものと考へて居た。ところが其の後獨國の實行した労働時間の減少政策は、却つて生産力を増加し各國を凌駕した。ここに於て英米は疑問を起し、労働時間を減少し労働者の保護を増加すれば生産力は當然減少しなければならぬ。然るに何うして獨はこの種政策を以て却て生産力を増加したのであらうかと考へたものである。彼等は不思議に思つたが爲に獨國の情形を考察した。そして聽て英米もこの道理が明白となつたので獨國の辦法に倣つたのである。「マルクス」は當時この道理を全然明白にしなかつたため、彼は非常な錯誤に陥つたのであつたのである。

再び「マルクス」の研究に照せば、彼は資本家が剩餘價值を多からしめんがためには三つの條件が必要である。即ち一は労働者の労働の減少、二は労働時間の延長、三は製産品價格の釣上げが必要であると言ふ。この三條件は合理的であるか何うか。我等は近來巨利を得た工業家を藉りて

之を證明することが出来る。諸君も御承知の通り米國に「フォード」自動車工場と言ふのがある。その工場は非常に大規模で自動車の製品も極めて多量にして、世界各地に賣捌かれ、該工場年々の利益は一億弗に上る。然らば本工場の製造及び營業の状態は何うであるか。製造工場たると事務所たるを問はず、一切の機械施設は非常に完備し非常に精緻にして又非常に労働者の衛生に適して居る。労働者の労働時間は最長八時間に過ぎない。最も一般的な仕事に従事するものでも一日の勞銀は五弗、即ち中國の十元に相當する。稍重要な職員一日の給料はそれ以上である。工場では労働者の勞銀給料の外に尙ほ種々な遊戯場を設備し労働者の娛樂の用に供して居る。又醫藥衛生室の設があつて、労働者の疾病を調治するやうになつて居る。學校を開設し新入の労働者及びその子弟を教育して居る。又全労働者に代つて生命保険に加入し労働者の死亡後は遺族は保險金を取得することが出来、又撫卹金を得ることが出来るやうになつてゐる。此の工場から製産する自動車の價格は、自動車を買つたものならば誰しも知つて居るやうに、普通一臺價格は五千元位はするが、「フォード」自動車は最高一千五百元に過ぎない。斯様に自動車の價格は頗る低廉ではあるが、機械は非常に丈夫で其の特長とするところは、よく山路を走り使用久しきに及ぶも仲々壞れないところにある。斯の如く本工場の自動車が價格低廉にして品質も勝れて居ると云

ふので、全世界を風靡し販路極めて廣く、その結果巨利を博することゝなつたのである。

我等はこの成金工場の所持する工業經濟の原理と「マルクス」の剩餘價値の理論とを比較すると、少くも三個の條件に於て相反するものあるを見る。即ち「マルクス」の所説に依れば、資本家は労働時間を延長せねばならぬと云ふが、「フォード」工場の實行したところは労働時間の短縮であつた。又「マルクス」の所説に依れば、資本家は労働者の労働を減少せねばならないと言ふが、「フォード」工場の實行したところは労働者の増加であつた。更に又「マルクス」の所説には、資本家は製産品の価格を釣上げなければならぬとあるが、「フォード」工場では却つて製産品の価格の引下げを實行したのである。「マルクス」は之等相反する道理の如きは何等豫見するところがなかつた。これ彼の従前の主張が非常な錯誤を來した所以ではなからうか。「マルクス」が社會問題を研究すること刻苦幾十年、知るところは總て既往の事實であつて、將來の事實に至つては何等思ひ及ぶところがなかつたのである。故に彼の信徒は彼の學説を變更せんとした。「マルクス」社會主義の根本的目的は資本主義の推倒にある。然し乍ら資本家果して推倒すべきものなりや否やは極めて重大なる問題であつて、今後の詳細なる研究に俟て始めて知るべきである。これに依つても非常に困難にして行ふことの非常に容易なることが判るであらう。

「マルクス」の剩餘價値説の精華は、資本家の所得利益は労働者の剩餘を剝奪したものであると言ふ點にある。これに依れば、資本家の生産は労働者に依らねばならず、労働者の生産は物質に依らねばならず、物質の賣買には商人に依らねばならぬ事實から推論し、凡そ生産の利益は、資本家と商人とで労働者の血と汗との結晶である金を剝奪してゐると言ふ譯になる。果してさうであれば、資本家と商人はすべて労働者に取つて有害で世界にも有害であるから當然消滅せしめねばならぬと言ふことになる。此の點「マルクス」は先づ資本家を滅ぼさねばならぬ、資本家が滅びて始めて商人を消滅することが出來ると判断した。然し事實は何うであらうか。現在世界は日々進歩し改良せられて行く。前述の分配の社會化と言ふことも新に發明せられた。即ち組合（合作社）の發明である。組合は多數の労働者が聯合して組織したので、労働者の需要する衣服飲食物の如きは、若し商人から間接に買入るゝことゝせば、其の間に立つ商人は非常な金を儲けることゝなり労働者はそれ丈け餘計に高い品物を買はねばならぬ、だから労働者は廉價にして而も品質優良な品物を買はんが爲に、彼等は集つて自ら賣店を開設し店内にて販賣する品物はすべて労働者の需要するものを用意した。故に労働者は年中需要する品物はすべて自分等の開いた店にて買ふこととなつた。供給既に便利となれば價格亦自ら低廉となる。毎年末に賣店の上げた剩餘利

益は購買者の消費額の多寡に依つて利益分配をしたものである。此の店の利益の分配を購買者の消費高の比例に據つた爲に之を消費組合と言ふて居る。現に英國の幾多の銀行及び生産工場に於ては、すべてこの消費組合に依て辨理せられてゐる。消費組合發生の爲幾多の商店は消滅した。従前商店としては何等重要視せられなかつたこの種組合も今日では極めて有效なる組織と見做さるるに至つた。英國ではこの組織が非常によく發達したが故に國家の大商家も現在では皆生産家と變つた。即ち米國の「スタンダード」石油會社の如きも中國に於ては一賣油商店に過ぎないが本國では石油製造の生産家なのである。其の他英國の各種大商家も現在では皆生産家と變る趨勢となつた。この種組合を以て社會問題を解決せんとする事は、何等問題解決の根本に觸るゝなき枝葉の感なき能はぬが、當時「マルクス」の資本家先づ減じて商人も始めて消滅するとの判断は、見事裏切られて、現在では組合が發生して商人が先づ消滅したのである。こゝにも亦「マルクス」の判断と事實との相符合せざるを見る。「マルクス」の判断すらも事實と合はなかつたとすれば、余の「知るは難く行ふは易し」の學說の確として磨滅し得ざるを見るべきである。

再び「マルクス」の學說に照して言へば、世界の大工業は生産に依らなければならぬ生産は又資本家に依らなければならぬとの一節は、即ち良生産と大資本家とがあつて工業は發展し得、

利益を上げ得るものなることを意味する。我等中國の工業の状態に就いて證明すれば何うなるであらう。中國最大の工業は漢冶萍公司である。漢冶萍公司是専ら鋼鐵を製造する大工場である。この公司の最大資本家は以前は盛宣懷であつた。本工場に於て年々製産せらるる鋼鐵は平時に在ては或は米國「シヤトル」港へ或は濠洲へ運ばれて賣られるが、歐洲大戰當時は全部日本に賣られたものである。鋼鐵は元來中國の最大輸出品の一であり、既に漢冶萍があつて之を製造することが出来るのに、何が故に尙も外國の鋼鐵を買はなければならぬであらうか。それは中國の市場に於て需要せらるる鋼鐵はすべて、品質の最も優良なる建築用銃砲用及び工具用の鋼鐵であるが、漢冶萍の製造する鋼軌及び生鐵では、之等用途に適合しないからだ。従て市場では外來の輸入品を買はんとし漢冶萍の鋼鐵を買はうとはしないのである。米國は鋼四千萬噸鐵四五千萬噸を年々産出する。然るに漢冶萍に於て年々僅か鐵二十萬噸鋼十幾萬噸を産出するに過ぎない中國が、この少量の鋼鐵を米國に迄運んで賣らねばならぬとは、一體何うした譯であらうか。又米國は斯くも多量の鋼鐵を産出しながら尙も中國の鋼鐵を購入するのは何うした譯か。即ち漢冶萍には優秀な鍊鋼工場なく、製産せられた生鐵は幾多の方法を經過して製造せられなければ役に立たないものであるから、中國の用途には適合しない。従て外國に運んで賣らねばならないのだ。之に反

し米國には極多の製鋼廠があつて、廉くさへあれば何處から來た鐵でも構はず購入し良質な鋼を製造して利益を擧ぐることが出来る。従て本國に多量の鋼鐵を産出するけれども、尙中國から運ばれた廉い鐵を買ふことが出来るのだ。斯の如く漢冶萍公司所産の鋼鐵は外國に賣却せらるゝため、歐洲戰爭當時は、労働者の労働時間を短縮し勞銀を増加しても尙多大の利益を擧げ得たものである。ところが現在では缺損續きで多數の失業労働者を出した。「マルクス」の學理に照して言へば、漢冶萍公司は既に多量の鋼鐵を産出し又大資本を擁してゐるから、當然利益が上がらなくてはならず、大いに發展も爲し得なくてはならない筈であるのに、何うして缺損續きの悲境に陥らねばならなかつたか。漢冶萍なる此の公司の情形に就いて考究するに、産業の中心は何處にあるであらうか。即ち産業の中心は之を消費する社會にあつて單なる生産資本にあるのではない。漢冶萍は大資本を擁しては居るが、その生産するところの鋼鐵に對し、中國には之を消費すべき社會がない。従て發展も出來ず總じて利益を擧げることも出來ないのである。産業の中心が消費社會にあるところから、近來世界の大工業都市に於ては、すべて消費者の需要に應じて物品を製造して居る。近來智識ある労働者も亦消費者を幫助してゐる。消費とは果して如何なる問題であらうか。即ち衆人の生存を解決する問題であり、又とりもなほさず民生問題である。従て産業の

基礎は民生に置かれなければならぬと言ふのが實際であらう。

民生は即ち政治の中心であり經濟の中心であり將又種々なる歴史活動の中心である。従前の社會主義は謬つて物質を以て歴史の中心とした爲めに幾多の紛亂を惹起した。それは恰も従前の天文學が誤つて地球を以て宇宙の中心とし、其の結果曆數の計算に三年毎に一ヶ月の大差を生じたのと同様である。その後太陽を宇宙の中心に改正したので毎三年後の曆數には僅か一日の差より起らなくなつた。我等は今社會問題中の紛亂を解除せんとせばこの種錯誤を改正しなければならぬ。再び物質問題を歴史の中心なりと説くは不可である。歴史上の政治及び社會經濟等の種々の中心を、すべて民生問題に歸せなければならぬ。民生を以て社會歴史の中心と爲すには、先ず中心の民生問題をはつきり研究しなければならぬ。民生問題を充分研究してこそ始めて社會問題解決の方法はあるであらう。

第二講 地權の平均と資本の節制

民生主義なる問題は、若し之を學理的に詳細に講義すれば、十日や二十日では到底完全に講義が出来るものではない。況んやこの學理は現在に於ても尙ほ定論なく、従て單に學理に就いて講

義することは徒に多大の時間を空費するのみならず、講演の理論を一層難解ならしむる惧れあるを以て、本日は暫く學理より離れて専ら辦法に就いて語りたいと思ふ。

民生主義の辦法は夙に國民黨の黨綱中に確定せられてゐる。國民黨は民生主義に對し二つの辦法を規定して居る。第一は地權の平均であり、第二は資本の節制である。中國の民生問題は唯この二つの辦法に依てのみ解決し得らるるものである。けれども世界各國に至つては、其の情勢同じがらず、資本發達の程度も亦各相異なるを以て、各國の民生問題解決の辦法も亦自ら相異ならざるを得ない。近來歐米からこの種學問を得た我中國の多くの學者は、中國の民生問題の解決にも亦歐米の辦法を倣はんとするものがあるが、彼等は實際に於て歐米社會黨の社會問題解決の辦法は今尚ほ諸説紛紛一も是とするものなき状態に就いては毫も知るところがない。「マルクス」派の辦法に照せば、すべての社會問題は「プロレタリア」の専制に依て解決すべく、又一切の政治經濟問題は革命手段を用ひて解決すべきことを主張してゐる。これ過激派である。他の一派の社會黨は和平辦法を主張し、政治運動と妥協手段とを以て解決せんとするものである。歐米に於てはこの兩派常に大衝突を惹起したもので、各其の是と信ずるところを行つて來た。革命手段を以て政治經濟問題を解決せんとする辦法は、露國革命に於て既に使用せられた。露國は革命後

六年に過ぎないが、余の所見に依れば、彼等は革命手段を以て政治問題だけは解決した。革命手段を以て政治問題を解決することには、露國は確かに完全に成功したと言はなければならぬ。けれども革命手段を以て經濟問題を解決すると言ふ點に至つては、尚ほ成功と言ふことは出來ない。最近露國は新經濟政策を樹立して今尚ほ試験中にある。これに依ても純粹の革命手段を以てしては、完全に經濟問題を解決することの出來ないことが分るであらう。かるが故に幾多歐米の學者は、露國の如く革命手段を以て經濟問題解決の方法となすことには賛成せず、政治運動に依らんことを主張する。だが政治運動を以て政治經濟問題を解決することは、短日月間にその實現を期待し得らるるものではない。故にこの派の人はすべて漸進を主張する。この派漸進を主張するものは、即ち妥協家と和平派である。彼等の想得せる方法は、英米の如く資本の發達した國家に於ては「マルクス」の方法を以て立どころに社會問題を解決することは出來ない。和平的方法に依て始めて完全に解決し得るものなりとするにある。

この和平的方法は即ち前回に述べた社會と工業の改良、運輸と交通事業の公有、直接徵稅即ち所得稅の徵收及び分配の社會化即ち組合の四種の方法である。この四種の方法は何れも「マルクス」の辦法とは異なるものにして、この方法を実行して經濟問題を改良せんと主張するものであ

り、即ち「マルクス」の革命手段を以て經濟問題を解決せんとするに反對するものである。歐米各國に於ては、既に陸續此の四種の方法を實行してはゐるが、たゞ現在のところ、尙ほ完全に所期の目的に到達して居ない。けれども一般大衆はすべて此の方法に依て社會問題が解決し得べきことを信じて居る。そして英米に於ては幾多の社會黨も此の四種の方法に賛成してゐる。この四種の方法は何れも和平手段である。故に彼等は極力「マルクス」の革命手段に反對する。

露國革命當初の目的は、元來社會問題の解決にあり、政治問題は何ちらかと言へば第二義的のものであつた。が革命の結果は、最初の希望に反して、政治問題は解決せられたが、社會問題の解決を見るに至らなかつたのである。この事實に依て「マルクス」反對の一派は言ふ。露國は「マルクス」の辦法を行ひ今回の試験を経過し之を實施し得ずして失敗に歸したと。これに對し「マルクス」の黨徒は答へて言ふ、露國が革命手段を行つて社會問題を解決せんとしたことは失敗ではない。露國の商工業がまだ英米の程度迄發達して居らず、其の經濟組織もなほ未成熟であつたから「マルクス」の方法を行ふことが出来なかつたのである。若し之に反し商工業の極めてよく發達し、經濟組織の充分成熟したる國家に於てならば、「マルクス」の辦法は必ずよく實行し得るであらう。故に「マルクス」の方法を若し英米の如き國家に於て實行したならば、必ず充分なる成

功を收め社會問題は必ずや根本的に解決せらるべきであらうと。この兩派の學説を比較對照するに、「マルクス」の方法は所謂快刀亂麻の手段であり、「マルクス」反對派の方法は和平手段である。

我等にして社會問題を解決せんがためには、果して快刀亂麻の手段を用ふべきか。それとも和平手段を用ひて前述の四種の政策に依るべきか。此の兩派の辦法は何れも社會黨の主張するところにして又共に資本家の反對するところである。今や歐米の商工業は急速に進歩し資本は極めて高度に迄發達し、資本家の專制は極度に達し一般人民の到底忍受し得ざるに立ち至つた。こゝに於てか社會黨は人民の爲に之等專制の苦痛を解除し、社會問題を解決せんとし、和平手段を採用するものも過激手段に依らんとするものも一樣に悉く資本家に反對したのである。だが結局のところ、歐米に於ては將來社會問題を解決せんがためには如何なる方法を採用すべきや、其の具體的方法は今尙ほ發明されてゐない。たゞ和平手段を主張する人々が資本家の幾多の反對、種々の刺激を受けて和平手段を用ひて社會を改良せんとしつゝあるに過ぎないと言つた現状だ。そして斯の如く人類に非常な利益を齎らすものであり、然も毫も資本家の利益を害することなきものすら尙ほ且つ實行し得ない。其の結果多くの社會主義者達は漸次從來の主張を變更して過激な辦法に賛成

し又、、、を用ひて社會問題を解決せんとするに至つた。「マルクス」黨徒の説に照せば、英國労働者にして若し眞に覺醒し一致團結し得て「マルクス」の辨法を實行し社會問題を解決せんとするならば、英國に於ては必ずや成功するであらう。米國に於ける資本の發達も英國と同様なるを以て、假りに若し米國労働者にして「マルクス」主義を實行し得るならば、又目的を達するところが出来る筈である。ところが事實現在に於ては、專制極りなき英米各國の資本家達は、之が對抗策を講じ、社會問題解決の進行に反對し、彼等自身の權利を保守せんとしつゝあり、然も其の資本家が其の權利を保守するの情形たるや、恰も従前の專制皇帝が彼等の皇位を保たんと試みたと同様である。彼等が王位を保守せんとするや、反對黨の來つて其の地位を動搖するを慮り極端なる專制的威權を用ひ極めて殘忍なる手段を以て彼等の反對黨を撃滅せんとした。現在資本家も自己の私利を擁護せんとし亦種々なる專制的手段を用ひて社會黨に反對し横行無道の限りを盡してゐる。故に「マルクス」黨徒の言ふが如く、極めて容易に「マルクス」辨法を實行し得るものではない。かやうな有様であるから歐米の社會黨は將來勢ひの迫るところ或は「マルクス」の辨法を採用して經濟問題を解決せんとするの舉に出づるやも測られない。

共産のこの制度は、原人時代に既に實行せられて居たが、果して何の時代に於て打破せられた

ものであらうか。余の觀察に依れば、金錢發生後は金さへあれば自由に賣買が出来、必しも物々交換を要せざるに至り、物々交換は變じて賣買となつたのであるが、此の時に至つて共産制度は漸次消滅した物と思はれる。金錢が生れ自由に賣買を爲し得るに至り漸次大商業者を發生した。當時に於ては工業未だ發達せず商人即ち資本家であつた。その後工業發達し機械生産の行はるるに至り機械を所有するものが資本家となつた。だが従前の資本家は金錢の所有者であり、現在の資本家は機械の所有者であると言へよう。斯様に古代は貨を以て貨に易へ、所謂「日中爲市、交易而退、各得其所」の時代であつて尙ほ金錢なく一切物々交換が行はれ賣買制度はなく彼此有無相通じたもので、やはり共産時代であつたと言はなければならぬ。其の後貨幣が生れ金錢が發生した。そこで金錢を以て貨に易へ、茲に賣買制度が生れたのである。當時金錢を有する商人は資本家であつた。近世機械の發明あり一切の貨物はすべて機械によつて生産せらるるに至り、機械を有する人は更に金錢を有するものを凌駕した。故に金錢の發生に依り共産は打破せられ、機械の發明に依り商人が打破せらるることとなつた。現在の資本家は機械を有し労働者に依て生産し、労働者の、、、、貧富の懸隔相絶する二個の階級を生み出した。この二つの階級は常に相衝突した。即ち階級闘争を發生したのである。こゝに於て一般悲天憫人の道德家は、労働者の

痛苦を見るに忍びず、何等か適當なる方法を以てこの種闘争を解除し労働者の苦痛を減少せしめんとした。彼等は如何なる方法を用ひたか。即ち、
、
、
を恢復せんとしたのである。何となれば、従前人類の最も快活なる時代と言へば、始めて禽獸時代を脱退して建設せられた、
、
、
であつたからである。當時人類の競争といへば天と闘ひ或は獸と闘ふことのみであつた。其の後工業發達し機械創出せらるるに及んで人と人との闘となつたのである。人類が天と獸とに戰勝した後、久しからずして金錢が發生した。

近來又機械が創出せられ、聰明なる人々は世界の物質を壟斷し、彼等個人の私利を圖り、一般人を皆彼等の奴隸とした。ここに於て人と人との争の極めて劇烈なる時代は現出した。此の種闘争は如何なる時期に至らば解決し得るであらうか。之が爲には必ず再び一種の、
、
、
、
、
斯くて始めて解決は可能となる。所謂人と人との争とは果して如何なる争ひであらうか。即ち「パン」の争ひ飯碗の争ひである。、
、
、
、
、
一般大衆は皆「パン」と飯とを有する。即ち争ひに至らない。即ち人と人との争ひを免かるることが出来る。故に、
、
、
、
、
我等國民黨の提唱するところの民生主義は、實に最高の理想たるのみならず、同時に社會の原動力であり、一切の歴史活動の重心である。民生主義にし

てよく實行するに足らんか、社會問題は始めて解決し得る。社會問題にしてよく解決し得んか、人類は始めて無限の幸福を享けることが出来るのである。、
、
、
、
、
民主主義とを區別して見れば、
、
、
、
、
、
民生の理想であり、民生主義は、
、
、
、
、
、
言ふことが出来やう。故に結局この、
、
、
、
、
、
區別ありとすれば、その方法であらう。

國民黨の中國に於ける地位、處するところの此の時機に鑑み、民生問題を解決せんとするには、我等は將に如何なる方法を用ふべきか。此の方法は一種の玄妙なる理想にあらず、一種空洞なる學問でもない、一つの事實に基かねばならぬ。この事實は外國許りが有つてゐる譯ではない、中國も亦之を有する。我等は事實を持來つて材料と爲し、始めてよく方法を定出し得る。單に學理のみを以て方法を定めんとするならば、それに依つて得たる方法は信するに足りないであらう。此の理由は、とりもなほさず學理には眞なるもあり假なるもあつて實驗して始めてその正しきと正しからざるを識別し得るものなるが故である。之れ恰も科學上一種の學理が發見せられた場合、其の學理が果して正しきか正しからざるかは、必ず事實としてよく實行するに足るものなるか否かを檢せざるべからず、其の實行するに足るものにして始めて眞學理と言ふことが出来ると同様である。實際科學上最初發明せられた幾多の學理は、百中九十九迄は實行不可能のもので實

行し得たものは僅に百分の一に過ぎなかつた。従つて悉く學理のみに照して定められたる辦法は必ず實行覺束ないであらう。故に我等は社會問題の解決に當つては必ず事實に根據すべく單に學理のみに依ることは出來ないのである。中國にある此の種事實とは何であるか。即ち一般民衆の受くるところの貧窮の苦痛である。中國人はすべて貧民であり、富豪と言つたやうな特殊階級は全然なく、ただ一般普通の貧あるのみである。中國人の所謂貧富不均なるものも、單に貧の階級を分つて大貧と小貧とするに過ぎない。中國の最大資本家の如きもこれを外國の資本家に比較すれば一貧に過ぎず、その他の窮人はすべて大貧と言はなければならぬ。中國の大資本家も世界では、すでに一貧人に過ぎないとすれば、中國人は悉く貧であり大富豪は一人もなく、唯其の間大貧と小貧との區別あるに過ぎないことが判かるであらう。我等は此の區別を平均して大貧なからしめんがためには如何なる方法を用ひなければならぬのか。凡そ社會の變化と資本發達の過程に就いて見るに、先づ地主に始まり、次で地主より商人に至り最後に商人より資本家に達する。地主は封建時代に於て發生した。歐洲では今尙封建制度を脱してゐないが、中國の封建制度は秦以後既に打破せられてゐる。封建制度時代に於ては、土地を所有する貴族即ち富人であり、土地を所有せざるもの即ち貧民であつた。中國は二千餘年前既に封建制度を脱離してゐ

るが、商工業の發達せざる爲、今日の社會状態は依然として二千餘年前の其れと同様である。中國は今日に至つても大地主はないけれども小地主は存在する。此の小地主時代に在つては、大多數の地方は尙相安無事であり、人民と地主との間の紛争はない。然し乍ら近來歐米の經濟潮流が日一日と侵入し來り、各種制度に變動が起つた。其の中最初にして最大なる影響は、即ち土地問題である。例へば現在の廣州市の土地に就いて見るに、馬路開通後に於ける長堤の地價は二十年前の其れに比し其の差幾許であらうか。又上海の黃浦灘の地價の如き八十年前の其れに比べて其の差又果して幾許であらうか。凡そ一萬倍の差はあるであらう。即ち従前の土地は一方丈一弗であつたが現在では一萬弗に賣買せられ、例へば上海の黃浦灘の土地の如きは現在每畝の價格幾十萬、廣州長堤の土地の如きも每畝十幾萬と言ふ價格である。故に中國の土地は眞先に歐米の經濟的影響を受け、地主は變じて成金となり歐米資本家同様となつたのである。經濟の發達に影響せられ土地の受けた此の變動は、獨り中國のみ然るにあらず、従前の各國にも亦此の事實はあつた。たゞ初時さして注意も惹かず關心せられざりしに過ぎない。そして其の後變動の益々大なるに連れ初めて一般の注意を喚起するやうになつたが、最早容易に之を改むるを得ず所謂積重難返と言ふ次第であつた。我等國民黨は、中國の此の種地價の影響に對し其の患を豫防せんと欲する。

故に何等か適切なる方法を設けて之れを解決せねばならぬ。

土地問題に就いては、歐米の社會主義の書物中に常に幾多の興味ある故事が載せられて居る。其の中にこんな一例がある。濠洲の一地方に起つた事實であるが、その地方は市場の出来ない前地價が非常に廉かつたものである。或時政府がある土地を競賣に付した。が何分その土地は當時ひどい荒蕪の土地で芥塵捨場となり他に何等用途もない土地であつたことゝて、誰も高い値段で買はうとするものはなかつたのである。ところが其の競賣場へ忽然一人の醉漢が闖入した。恰度其のとき競賣官は大聲で賣値を呼ばはつてゐる際であつたが、衆人のつけ値は百元のものあり二百元のものもあり到頭二百五十元まで糶り上つた。二百五十元になつてからはもう其れ以上の高値を言ふものがなかつたので、競賣者は三百元で買ふものはないかと問ねたものだ。すると其のへとへとに酔拂つてゐた件の醉漢は、よし自分が三百元出さうと答へたものである。彼のつけ値によつて競賣官は其の土地を彼の名義としこゝに土地は賣却濟となつたので、衆人も散じ彼れ醉漢も其の場を立ち去つた、ところが其の翌日になつて競賣官は領收書持參の上彼を訪ね彼に地價の支拂を要求したところ、彼は昨日酔餘にやつたことであるので何うしても思ひ出せず其の支拂を承知しなかつた。後から醉中にしたことを回憶して大いに後悔したが、何分相手が政府のこ

とであり滞納する譯にもゆかず、色々苦面して持物を悉く賣拂ひ、やつとのことで三百元を湊めて競賣官に渡したものであつた。彼は此の土地を買つてから、永い間何うする能力もなく放つて置いた。其の後十數年は経過した。其して其の土地の周圍には大厦高樓が建築せられ地價は非常に騰貴した。彼に向つて其の土地を數百萬弗で讓受けんとするものもあつたが、彼は尙ほ手放さうとしなかつた。そして彼は其の土地を分割貸與して自ら地租を收めて居たものである。其の後地價は愈騰貴して幾千萬弗となり、此の醉漢は一躍して濠洲第一の大富豪となつた。此の濠洲の幾千萬弗の財産を有する大富豪も、元をたゞせばやはり三百元の土地がモトである。説いて此の事實に至れば、此の地主たるものは當然非常に愉快であらねばならぬ。

けれども此の大富豪が最初三百元を以て其の土地を買ひ其の後何等の改良も加へず毫も關心せず、たゞ眠つて居る間に幾千萬弗の成金となつた事實に就いて考究するに、此の幾千萬弗は果して何人に歸すべきものであらうか。余は之れを大衆の手に歸すべきものと考へる。何となれば社會の大衆が其の土地を使用して商工業の中心とし之れを改良したため、其の地價は逐次増加することとなり遂にかくも高價となつたからである。之れ恰も我等が上海地方を中國中部の商工業の中心としたればこそ、上海の地價が従前に比し幾萬倍となり、又我等が廣州を中國南部の

商工業の中心地とした爲に、廣州の地價が従前に比し幾萬倍したのと同様である。上海の人口は百餘萬に過ぎず廣州のそれも亦百餘萬であるが、若し上海の住民が悉く上海より移轉し廣州の人も完全に廣州から移轉し或は他の天災人禍が発生して上海の人又は廣州の人をして悉く消滅せしむるものと假定するならば、上海廣州の地價は尙ほも現在の如く斯くも高價であり得るか何うか。之れに由ても地價増加の原因は、衆人の功勞であり衆人の力量であつて、地主の如きは地價の騰落に對しては何等關係はないことが判るであらう。故に外國の學者は、地主が地價の増高に因つて獲たる利益を名づけて勞せずして獲たる利益と言ふ。之を商工業が心を勞し力を勞し廉きを買つて高く賣り多大の打算と多大の經費とを費して、始めて利益を擧げ得るものに比すれば、其の差幾許なるやを知らないのである。商工業者が物質の價値を壟斷し利益を上げつゝあることすら不公平なりと感じつゝある我等も、尙彼等商工業者の努力は認めざるを得ず。然るに地主に至つては、唯坐して其の成を守りさへすれば、毫も心力を用ひずして莫大なる利益を獲得することが出来るのである。然も此の地價たるや如何なる方法に依て騰貴したものであらうか。それは言ふまでもない、衆人が其の土地を改良し其の土地を争ひ用ひて始めて地價は騰貴したるものに外ならず、地價一たび騰貴するや其の地方の百般の物價之れに伴て騰貴するのである。故に

衆人は其の地方を經營したることに依つて受くべき利益を、地主のために間接無形の中に悉く之れを掠め奪はれて居ると言ふことが出来る。

中國に於ける社會問題の現状は如何。一般社會問題研究家及び社會問題解決提唱家が所有する思想學説は悉く歐米輸入のものなるが故に、我等は社會問題解決辦法と言へば、歐米各國に於て主張せらるる和平辦法並に「マルクス」の過激辦法以外に何等新發明を持合せて居ない。今社會主義と言へば、流行を追ふ人々は直に「マルクス」の辦法に賛成する。従て、一度び社會問題を説くや、多數の青年は共產黨に賛成し、「マルクス」主義を以て直に中國に實行せんとする。然らば「マルクス」主義に賛成する、彼等青年志士の用心果して如何。彼等の用心たるや極めてよし。彼等の主張は根本的解決にある。彼等は政治社會問題の本を正し源を清め根本的解決に依らずんば不可なりとして居る。故に彼等は極力、組織に努力し中國に活動せんとする。

我等國民黨の舊同志は現在共產黨に對し幾多の誤解を有して居り、國民黨の提唱せる三民主義は共產主義と相容れないものと考へてゐる。彼等は我等一般同志が、二十年前すべて三民主義に賛成し互に結合したものであることを覺らない。革命以前に於ては大多數の觀念では、ただ民族主義あるを知つて居た。例へば當時同盟會に参加せる各同志の目的はすべて排滿にあつた。入會

の際余は彼等に三民主義に賛成なる旨の宣誓を爲さしめたものであるが、彼等本人の意思では大部分皆民族主義に注意し清朝の推覆を考へてゐた。彼等は滿清さへ推覆すれば、其の後は中國人が皇帝にならうとすれば又之を歓迎すると言ふ風であつた。即ち彼等宣誓の目的は、元來三民主義の實行にあつたが、又同時に中國人の皇帝になることにも賛成して居たのである。之れ民族主義に反對するものではないが、勿論思想極めて豊富なる同志の中には、三民主義に賛成し三民主義の三主義がそれぞれ相異なるものなることを明かにし、革命手段を以て主義を實行せんとしたものであるが、其れでさへ當時に於ては、若し滿清の排斥さへ實行し得れば民族主義の目的を達するに足り、民権民生主義の如きは之に隨て自然解決し得るものにして別様の工夫など不要であるとして居たものである。だから當時民権主義及び民生主義に對しては何等詳細に研究せられず、當時詳細に研究せられなかつたがため、自然民権主義は理解せられず、民生主義に對しては猶更に其の妙を明かにすべき由もなかつたのである。革命成功後民國成立し共和制度を採用したが一般のものは何が故に民國を成立すべきかを知らうとしなかつたものである。之はまだしもものこと、現在に於てすらも尙眞に誠心悅服して民権を實行し共和に賛成する同志は甚だ少なり。

一般のものは何故に又當初民國に賛成し、共和に反對しなかつたのであるか。此の最大の原因は完全に彼等の皇帝思想にある排滿成功後各省の同志、革命に依つて新しく發生した軍人或は革命黨に投降せる滿清の舊軍人は各一方に據り一個軍閥と成り一地方の小皇帝となり其の地盤を根據として更に地盤擴張を行はんとした。廣東を地盤とせる軍人が廣東の地盤を擴張せんとせるが如き、雲南湖前を地盤とせる軍人が雲南湖前の地盤を擴張せんとせしが如き、又山東直隸を地盤とせる軍人が山東直隸の地盤を擴張せんとせしが如き其の例である。彼等は内地盤を極度に擴張し、羽毛豐滿のときに至らば自己の力を以て中國を統一し露骨に共和を推覆せんとして居た。此の種革命に依つて出來た軍閥又は民國に投降した滿清の軍閥は、何れも此の種心事を抱懷しては居たが、何にしろ彼等一己の力のみを以てしては中國を統一することは出來ず、さりとて又他のもの中國を統一することをも欲せずと言ふ次第であつたから、彼等はただただ機會の到來を靜かに待つてゐたものである。自體斯うした有様であつたから、此の種軍閥は當時既に共和に對する理解がなかつたのは勿論のこと、民國に賛成せる所になるものも、實際のところ皇帝たらんとする野望より出でたもので、唯表面民國賛成を看板として彼等は彼等で地盤が極大に擴張せられた曉、時機一度到らんか、民國に反對し國家問題を解決せんとして其の期を待つてゐたに過ぎな

